

日南市様

令和6年度 業務報告書

2025年3月31日

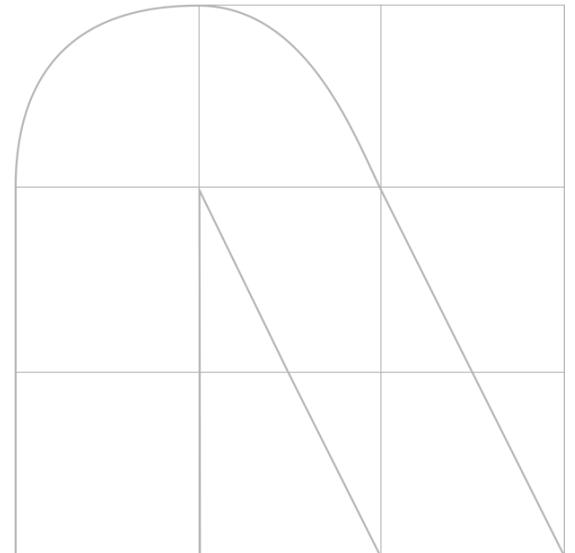
株式会社NTTデータ経営研究所
金融政策コンサルティングユニット 地域公共政策チーム

目次

1. お打ち合わせ・ご訪問実績
2. お打合せ対応資料

1

お打ち合わせ・ご訪問実績



1.お打ち合わせ・ご訪問実績

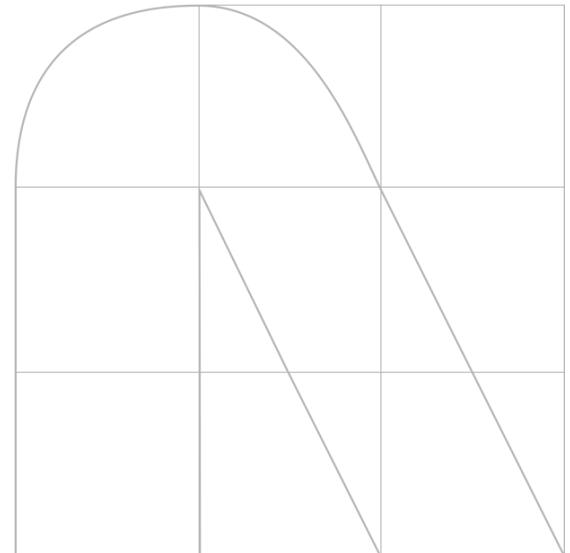
全10回の定例お打合せに加え、臨時でのお打合せやイベントへの参加を実施いたしました。

令和6年度お打ち合わせ・ご訪問実績

No	日 時	内 容	対応資料No.
1	2024年9月20日	第1回(キックオフ)定例 (対面会議)	No.1
2	2024年10月4日	第2回定例 (オンライン会議)	—
3	2024年10月8日	ODP社との三社お打合せ (対面・オンライン会議)	—
4	2024年10月22日	第3回定例 (対面会議)	No.2、No.3、別添1
5	2024年11月1日	第4回定例 (オンライン会議)	No.4、別添2
6	2024年11月19日	第5回定例 (対面会議)	—
7	2024年11月22日	臨時お打合せ (オンライン会議)	No.5、No.6
8	2024年12月24日	第6回定例(油津地域協議会様とのお打合せ含む・対面会議)	No.7
9	2025年1月10日	第7回定例 (オンライン会議)	—
10	2025年1月19日	まちあるきイベント	別添3
11	2025年1月29日	第8回定例 (対面会議)	No.8、No.9
12	2025年2月14日	第9回定例 (オンライン会議)	—
13	2025年2月19日	油津歴史文化遺産活用事業推進会議	—
14	2025年3月26日	第10回定例 (対面会議)	No.10

2

お打合せ対応資料



No.1 日南市の基礎調査について

日南市様

日南市の基礎調査について

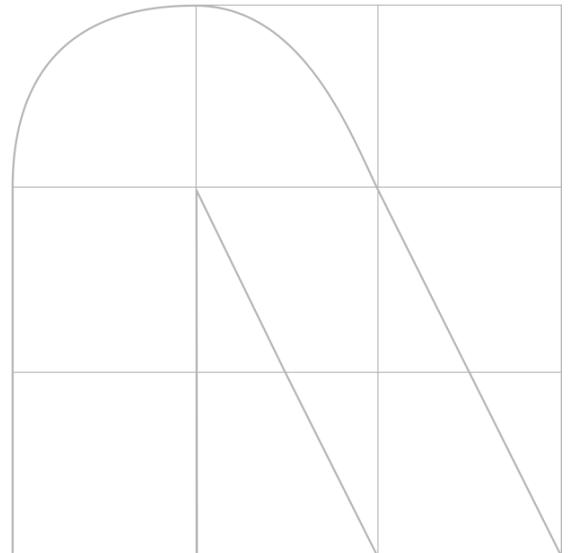
～定量分析結果等のご報告～

2024年9月20日

株式会社NTTデータ経営研究所
金融政策コンサルティングユニット 地域公共政策チーム

地域特性の把握

～定性分析～



1.日南市の概況

1.1 まちの概要及び概観

まちの概要

人口	50,848人 (2020年国勢調査)	高齢化率	38.6% (2020年国勢調査)
合計特殊出生率	1.70 (2021年日南市)	昼夜間人口比率	98.9% (2020年国勢調査)
都市の特徴・周辺地域との関わり	宮崎県南東部に位置し、東は日向灘、宮崎市や都城市、串間市、三股町に面している。本市との関わりでは通勤や通学の流入出先は宮崎市と串間市が主であり、流入出数はそれぞれほぼ同数であることから、就学と雇用の相互補完関係にあるといえる		

総人口は一貫して減少傾向にあり、高齢化率は増加傾向

- 令和2年（2020年）の年少人口は足元の20年間で減少しており、平成7年（1995年）には老齢人口が年少人口を上回っている。現状では老齢人口より生産年齢人口が上回っているが、人口の逆転が目前に迫っている

全国より合計特殊出生率は高い

- 令和3年（2021年）公表の合計特殊出生率は1.70と全国平均の1.3を上回っており、宮崎県の平均1.70と同水準

第3次産業が主であるが、電子部品・デバイス・電子回路製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業が本市の特徴

- 産業別事業所数では卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業などの第3次産業が多く、全国や宮崎県と同様の傾向
- 従業者数でみると、宮崎県で最も多い食料品製造業よりも電子部品・デバイス・電子回路製造業の占める割合が最も高く、パルプ・紙・紙加工品製造業の割合が宮崎県や全国より非常に高くなっている、本市の特有の傾向であるといえる

まちの概観



A

日南市の中心部。市街地から成り、行政、医療、商業施設が集積

B

飫肥城跡や武家屋敷等の街並みを中心とした観光地

C

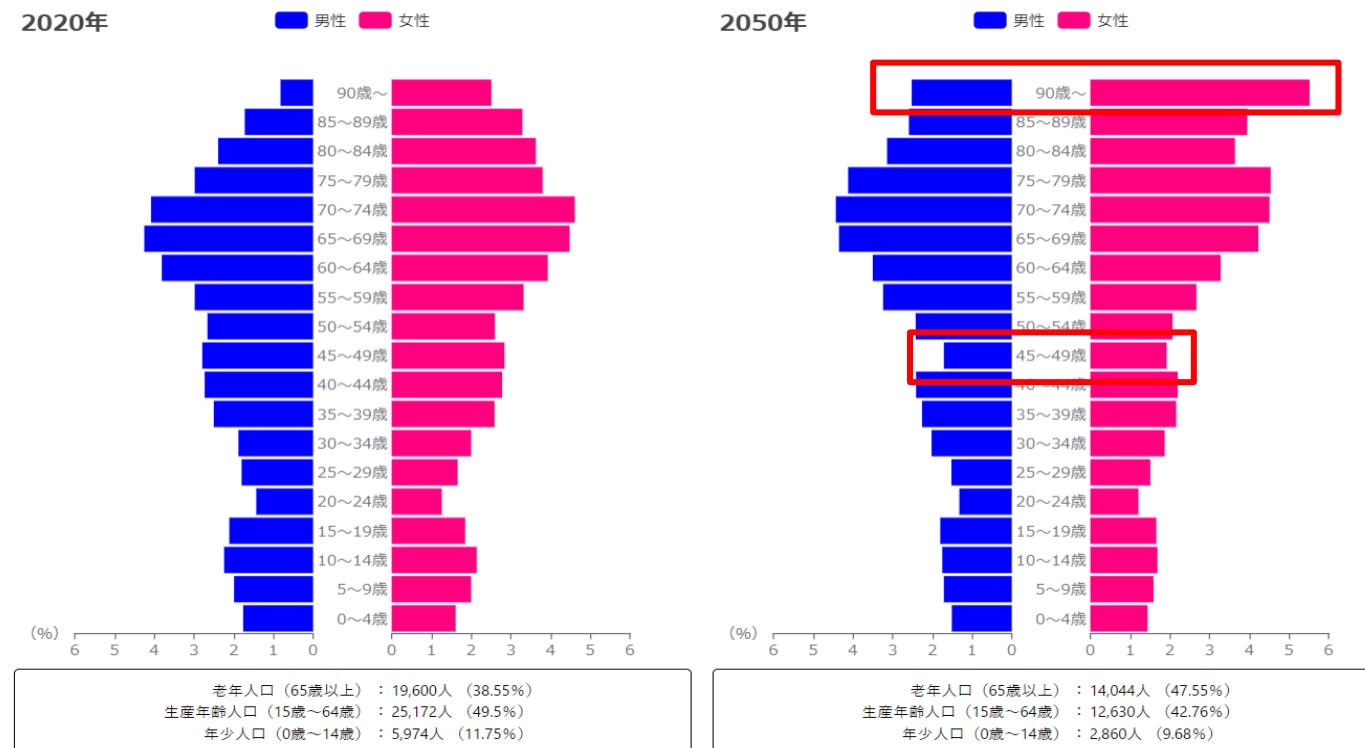
日南海岸や鵜戸神宮、サンメッセ日南を中心とした観光地

2.RESASでみる日南市の特性

2.1 人口ピラミッド

- 2050年時点での90歳以上の人口分布が極端に多く、急激な超高齢化の進展により医療費等の社会保障費が膨らむことが想定され、財源確保等への影響が懸念される
- 45～49歳の生産年齢人口が激減しており、市内の産業等に与える影響が大きいものと思料

日南市の人団ピラミッド（5歳階級別、2020実測値、2050推計値）



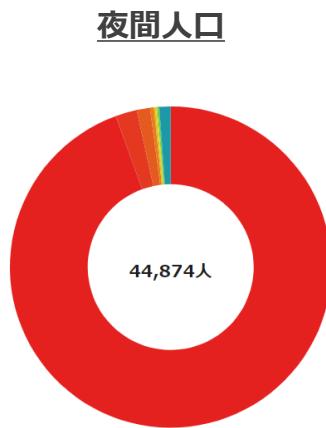
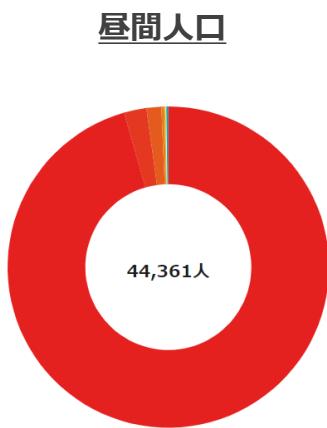
【出典】RESAS、総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

2.RESASでみる日南市の特性

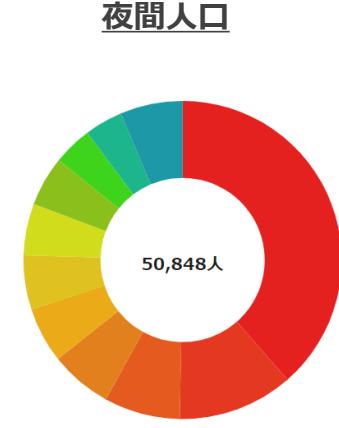
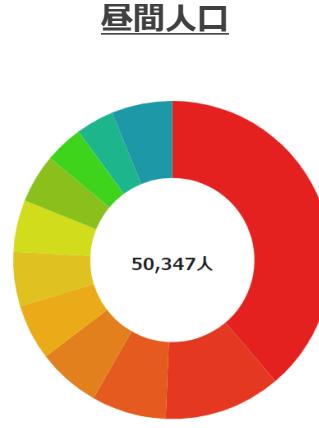
2.2 通勤・通学

- 昼間は宮崎市より1,000名、串間市より650名本市に通勤や通学で流入
- 本市からは宮崎市へ970名、串間市へ600名程度が通勤や通学で流出
- 流出入数はそれぞれほぼ同数であることから、就学と雇用の相互補完関係にある
- 年齢階級別の昼夜間人口比をみると、就業年代では昼間に比し夜間人口が100人程度多くなっている

昼間人口・夜間人口の地域別構成割合（2020年）



昼間人口・夜間人口の年齢階級別構成割合（2020年）



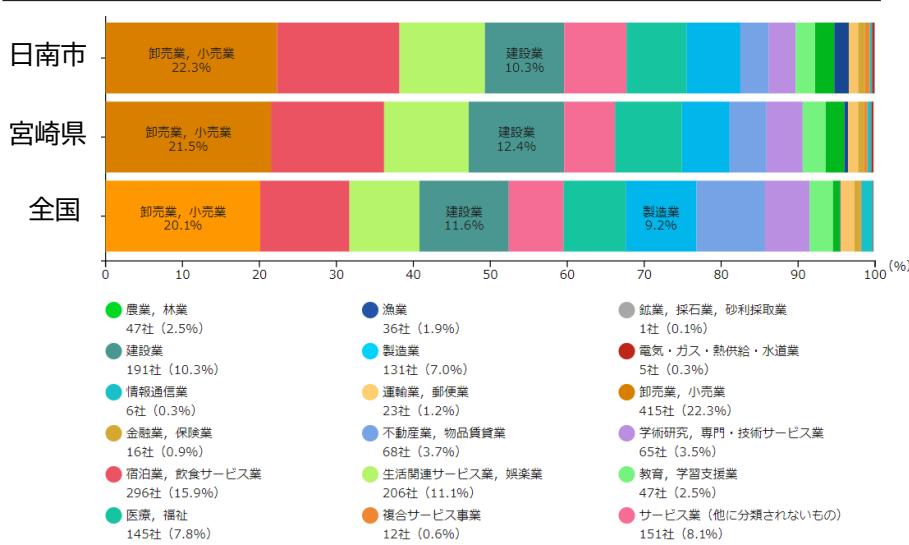
【出典】RESAS、総務省「国勢調査」

2.RESASでみる日南市の特性

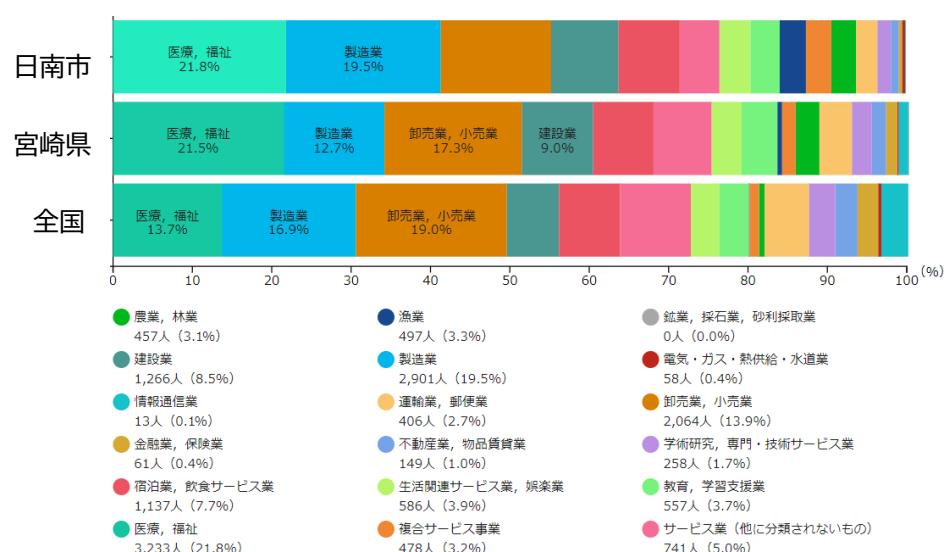
2.4 産業構造（1/2）

- 産業別事業所数は卸売業・小売業の割合が最も高く、次いで宿泊・飲食サービス業となっており、全国や宮崎県と同様の傾向
- 事業所単位従業者数については、医療・福祉の割合が最も高く、次いで製造業。宮崎県においては医療・福祉、次いで卸売業・小売業であり、全国においては卸売業・小売業、次いで製造業となっており、異なる傾向
- 海に面しているため漁業の割合が高いことも特徴

産業別事業所数（2021）



事業所単位従業者数（2021）



【出典】RESAS、総務省「経済センサス－基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」再編加工

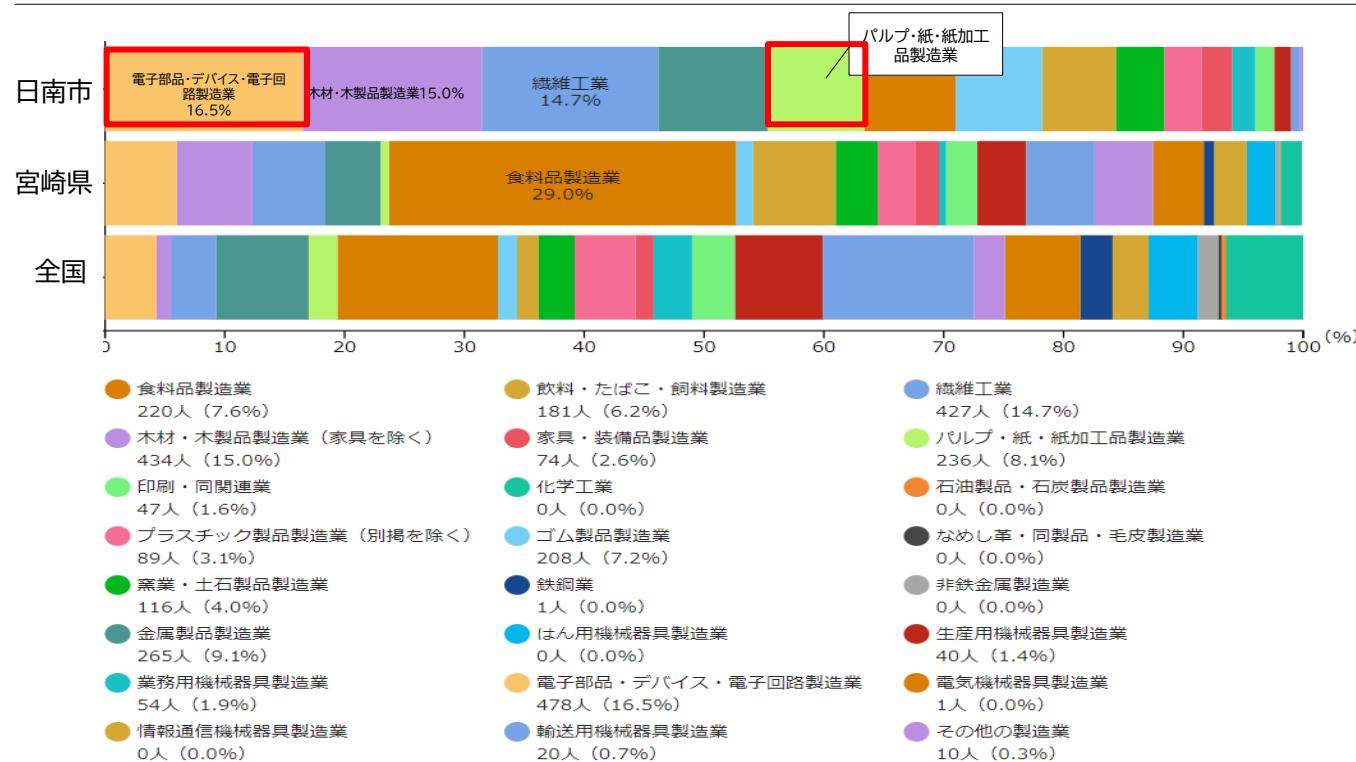
2. RESASでみる日南市の特性

2.4 産業構造 (2/2)

製造業における業態別事業所単位従業数は以下の通り

- 全国、宮崎県で最も多い食料品製造業よりも電子部品・デバイス・電子回路製造業の占める割合が最も高く、次いで木材・木製品製造業（家具を除く）の順
 - パルプ・紙・紙加工品製造業の割合が宮崎県や全国より非常に高くなっている、本市の特有の傾向

製造業における事業所単位従業者数（2021）



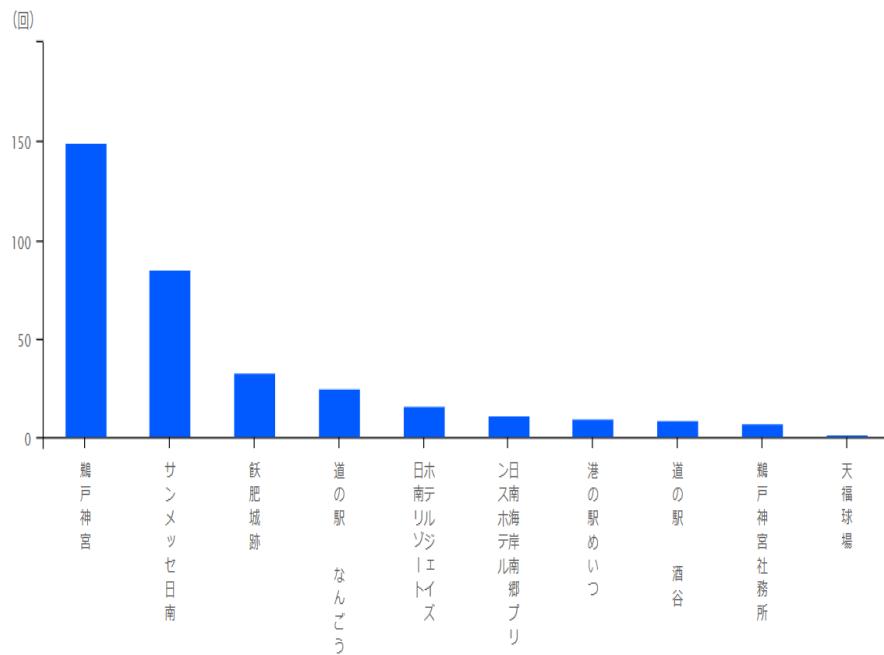
【出典】RESAS、総務省「経済センサス－基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」再編加工

2.RESASでみる日南市の特性

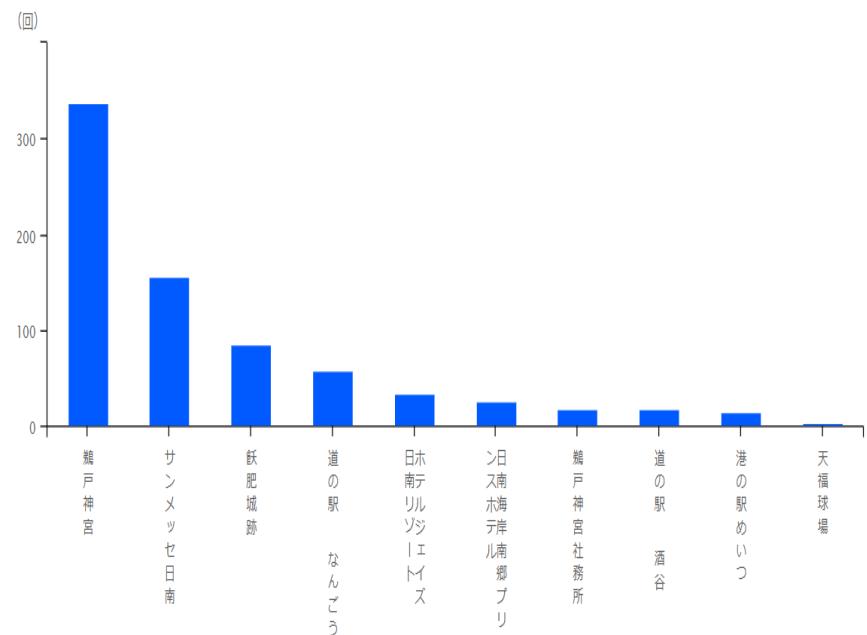
2.5 来訪者の目的地

- 平日、休日を問わず、検索の上位が「鵜戸神宮」「サンメッセ日南」などの宮崎空港から近い場所
- 観光名所である「飫肥城跡」や観光拠点への送客機能を担うはずの「道の駅なんごう」「港の駅めいつ」「道の駅酒谷」などは大きな割合を占めていない

自動車利用における目的地検索ランキング
(2023年3月、休日)



自動車利用における目的地検索ランキング
(2023年3月、平日)



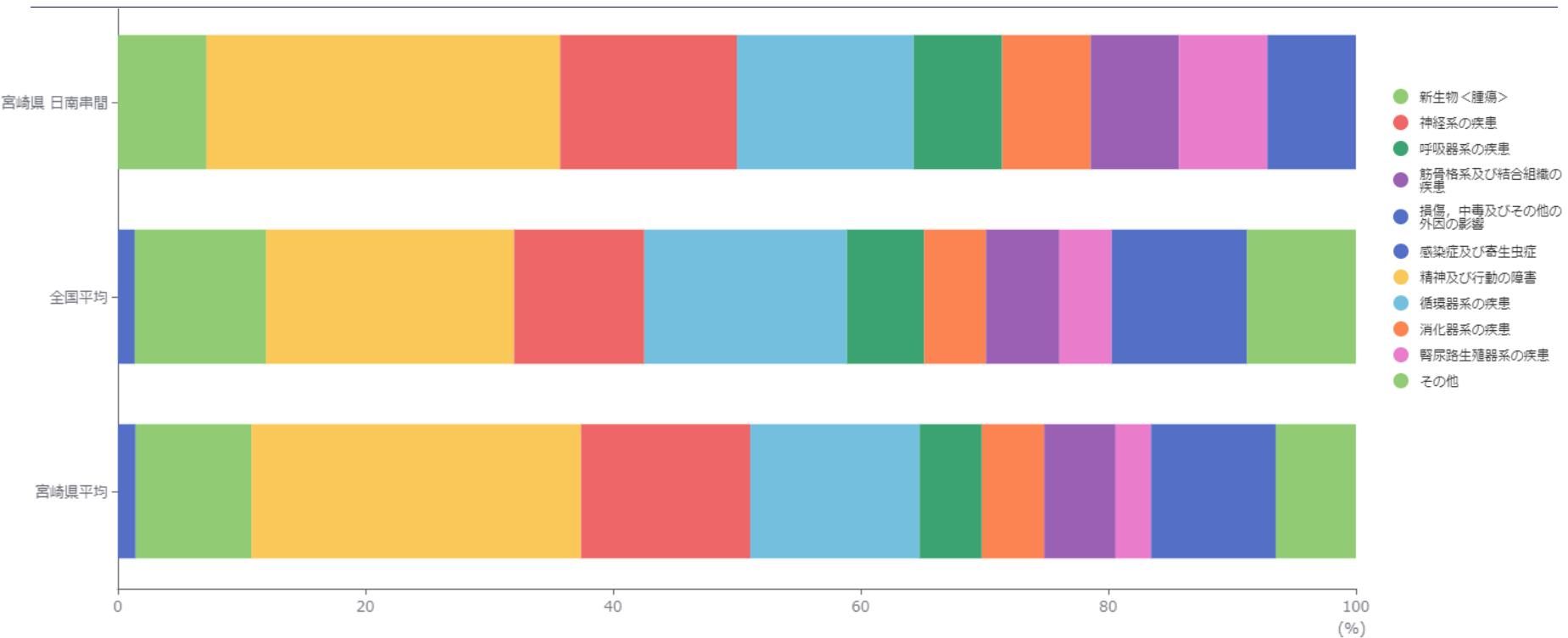
【出典】RESAS、株式会社ナビタイムジャパン「経路検索データ」

2.RESASでみる日南市の特性

2.6 病院の推計入院患者数

- 二次医療圏である日南串間の推計入院患者数については、「精神及び行動の疾患」及び「神経系の疾患」によるものが最も多い傾向

病院の推計入院患者数の構成
(日南市、2020年)



【出典】厚生労働省「医療施設静態調査」、「医師・歯科医師・薬剤師調査」（2016年まで）、「医師・歯科医師・薬剤師統計」（2018年から）、「衛生行政報告例」、「患者調査」

2.RESASでみる日南市の特性

2.7 病院の総病床者数

- 日南、串間ともに精神疾患系の病院の病床数が多い傾向にあり、前ページの特徴の根拠となるものと思料

病院の総病床数

日南

施設種類	施設名称	所在地	総病床数	詳細
病院	医療法人 同仁会 谷口病院	日南市大字風田3861	310	
病院	宮崎県立日南病院	日南市木山1-9-5	281	
病院	社会福祉法人 愛泉会 愛泉会日南病院	日南市風田3649-2	184	
病院	医療法人 春光会 春光会記念病院	日南市大字星倉4600-1	107	
病院	日南市立中部病院	日南市大堂津5-10-1	88	
病院	医療法人 文誠会 なんごう病院	日南市南郷町中村乙2101	80	
病院	社会医療法人 慶明会 おひ中央病院	日南市蘇我6-2-28	72	

串間

施設種類	施設名称	所在地	総病床数	詳細
病院	医療法人 十善会 県南病院	串間市大字西方3728	434	
病院	串間市民病院	串間市大字西方7917	99	

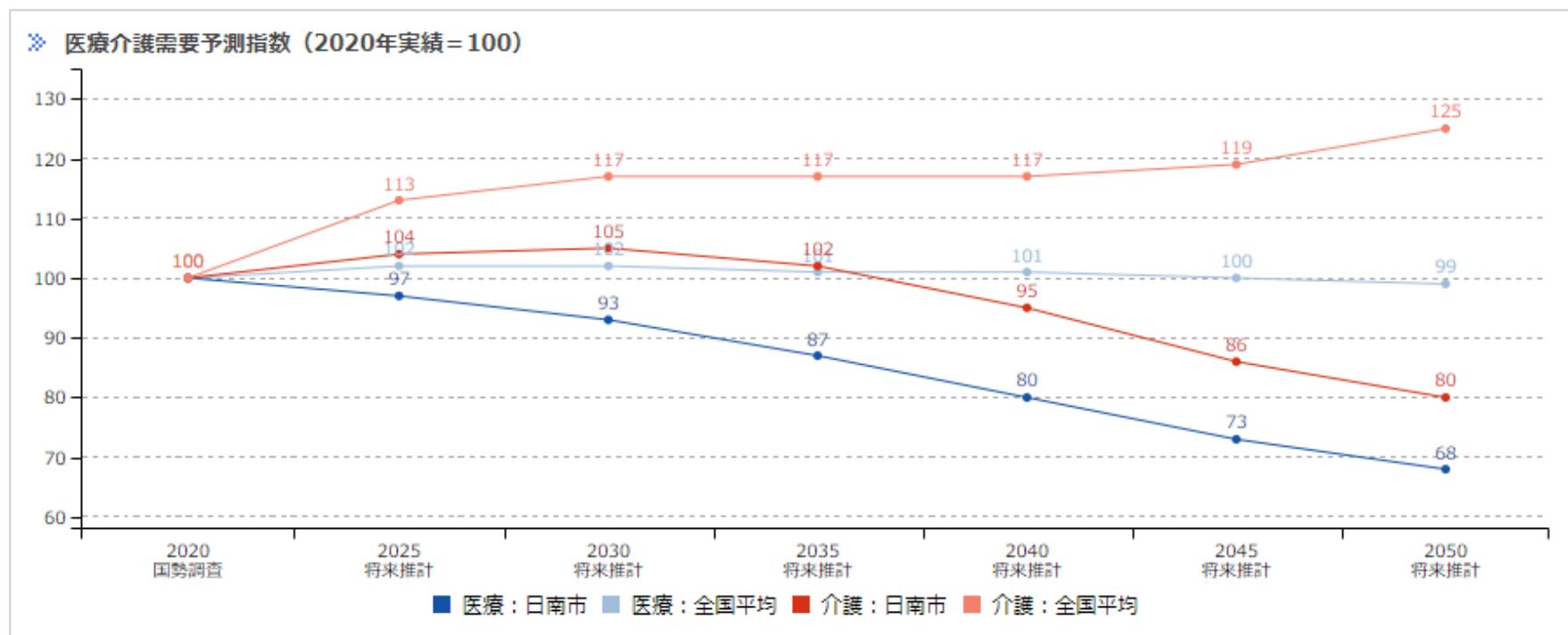
【出典】厚生労働省「医療施設静態調査」、「医師・歯科医師・薬剤師調査」（2016年まで）、「医師・歯科医師・薬剤師統計」（2018年から）、「衛生行政報告例」、「患者調査」

2.RESASでみる日南市の特性

2.8 病院の推計入院患者数

- 日南市に医療・介護需要は将来的には減少する見込みであり、人口減少によるものと推察される

医療介護需要予測指数
(日南市、2020年)



【出典】厚生労働省「医療施設静態調査」、「医師・歯科医師・薬剤師調査」(2016年まで)、「医師・歯科医師・薬剤師統計」(2018年から)、「衛生行政報告例」、「患者調査」

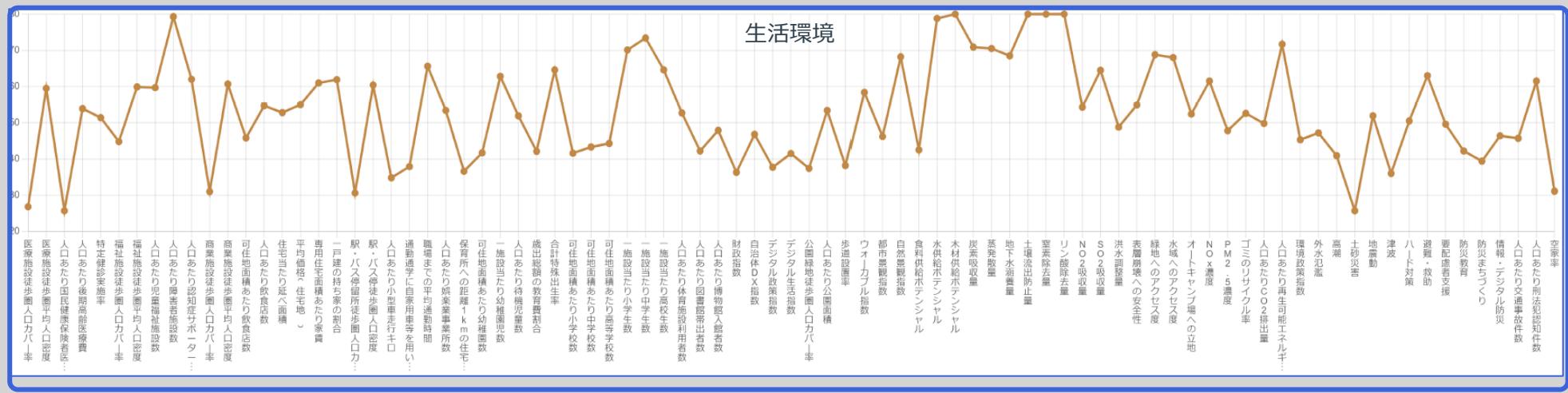
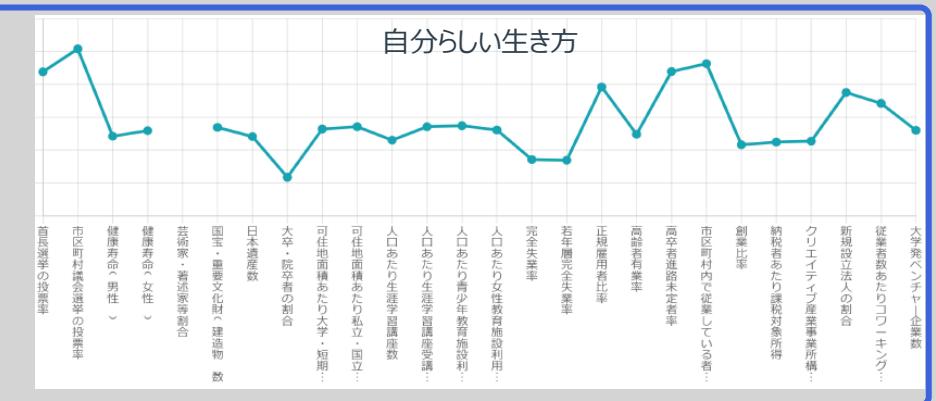
3. 地域幸福度指標でみる日南市の特性

3.1 地域幸福度指標（概觀）

地域幸福度指標のうち、客観的指標は「暮らしやすさ」に着目した指標であり、生活に関連する分野の特徴を俯瞰することができます。各指標は全国平均を50とした場合の偏差値として表現されています

日南市の地域幸福度指標（グラフ）

24の指標によるチャート



3.地域幸福度指標でみる日南市の特性

3.2 地域幸福度指標（データ一覧）

前ページのグラフでは、一目して指標の特徴（高低）が確認可能であるものの、正確な指標名や正確な数値についてはこちらの一覧で確認することが可能です

日南市の地域幸福度指標（データ一覧）

生活環境		地域の人間関係		自らの生き方	
客観KPI	偏差値	客観KPI	偏差値	客観KPI	偏差値
医療施設徒歩圏人口カバー率	26.8	合計特殊出生率	64.6	NO2吸収量	54.3
医療施設徒歩圏平均人口密度	59.5	可住地面積あたり小学校数	41.6	SO2吸収量	64.5
人口あたり国民健康保険者医療費	25.7	可住地面積あたり中学校数	43.3	洪水調整量	48.8
人口あたり後期高齢医療費	53.9	可住地面積あたり高等学校数	44.3	表層崩壊への安全性	54.9
特定健診実施率	51.4	一施設当たり小学生数	70.1	緑地へのアクセス度	68.8
福祉施設徒歩圏人口カバー率	44.8	一施設当たり中学生数	73.4	水域へのアクセス度	68
福祉施設徒歩圏平均人口密度	59.9	一施設当たり高校生数	64.6	オートキャンプ場への立地	52.4
人口あたり児童福祉施設数	59.7	人口あたり体育施設利用者数	52.7	NOx濃度	61.5
人口あたり障害者施設数	79.3	人口あたり図書館蔵帯出者数	42.2	PM2.5濃度	47.8
人口あたり認知症サポートメイト・サポートー数	62	人口あたり博物館入館者数	47.9	ゴミのリサイクル率	52.6
商業施設徒歩圏人口カバー率	31	財政指数	36.3	人口あたりCO2排出量	49.8
商業施設徒歩圏平均人口密度	60.7	自治体DX指數	46.8	人口あたり再生可能エネルギー発電容量	71.7
可住地面積あたり飲食店数	45.8	デジタル政策指數	37.7	環境政策指數	45.3
人口あたり飲食店数	54.7	デジタル生活指數	41.5	外水氾濫	47.2
住宅当たり延べ面積	52.8	公園緑地徒歩圏人口カバー率	37.4	高潮	40.9
平均価格（住宅地）	55	人口あたり公園面積	53.4	土砂災害	25.7
専用住宅面積あたり家賃	61	歩道設置率	38.2	地震動	51.9
一戸建の持ち家の割合	61.9	ウォーカブル指数	58.4	津波	36
駅・バス停留所徒歩圏人口カバー率	30.6	都市景観指數	46.2	ハード対策	50.5
駅・バス停徒歩圏人口密度	60.4	自然景観指數	68.2	避難・救助	63
人口あたり小型車走行キロ	34.8	食料供給ボテンシャル	42.5	要配慮者支援	49.6
通勤通学に自家用車等を用いない割合	37.9	水供給ボテンシャル	78.8	防災教育	42.2
職場までの平均通勤時間	65.6	木材供給ボテンシャル	80	防災まちづくり	39.4
人口あたり娯楽業事業所数	53.4	炭素吸収量	70.9	情報・デジタル防災	46.4
保育所への距離1kmの住宅割合	36.6	蒸発散量	70.5	人口あたり交通事故件数	45.7
可住地面積あたり幼稚園園数	41.7	地下水涵養量	68.5	人口あたり刑法犯認知件数	61.5
一施設当たり幼稚園園数	62.8	土壤流出防止量	80	空家率	31.1
人口あたり待機児童数	51.9	窒素除去量	80		
歳出総額の教育費割合	42.1	リン酸除去量	80		

3.日南市の地域特性の把握

3.3 RESASでみる日南市の特性と課題仮説（1/3）

RESAS

特徴

課題（仮説）

人口
ピラミッド
×
医療需給

- 2050年時点での90歳以上の人口分布が極端に多い
- 2050年時点での45～49歳の生産年齢人口が激減している

- 医療費等の社会保障費の負担の増大による財源や医療介護人材の確保が困難になる可能性
- 医療・介護需要予測では双方ともに、需要減となるものの、生産年齢人口の減少により、介護現場の担い手不足も懸念される

昼夜間
人口
×
医療需給

- 昼間は宮崎市より1000名、串間市より650名本市に通勤や通学で流入する一方、本市からは宮崎市へ970名、串間市へ600名程度が流出している
- 年齢階級別の昼夜間人口比では昼間に比し夜間人口が～100人程度多くなっている

- 出入数はそれぞれほぼ同数であることから、宮崎市、串間市とは就学と雇用の相互補完関係にあるといえ、今後も広域連携による機能分担を検討することが有用と思料
- 日南市は串間市民の医療需要や教育ニーズに応えており、当該関係人口をまちの回遊性向上に生かすことができるのではないか

3.日南市の地域特性の把握

3.3 RESASでみる日南市の特性と課題仮説（2/3）

RESAS

特徴

産業構造

- 産業別事業所数は、全国や宮崎県と同様の傾向
 - 卸売業・小売業 22.3% (415社)
 - 宿泊飲食サービス業 15.9% (296社)
 - 生活関連サービス業 11.1% (206社)
- 事業所単位での従業者数については医療・福祉の割合が最も高く、次いで製造業となっており、事業所数の傾向とは一致せず、全国や宮崎県とは異なる傾向
 - 医療・福祉 21.6% (3,233人)
 - 製造業 19.5% (2,901人)
 - 卸売業・小売業 13.9% (2,064人)
- 全国、宮崎県では食料品製造業が多い傾向にあるが、日南市では電子部品・デバイス・電子回路製造業の占める割合が最も高い
- また、パルプ・紙・紙加工品製造業の割合が宮崎県や全国より非常に高くなっている、本市の特有の傾向
 - 電子部品・デバイス・電子回路製造業 16.5%
 - 木材・木製品製造業（家具を除く） 15.0%
 - パルプ・紙・紙加工品製造業 8.1%

課題（仮説）

- 医療・福祉、製造業分野には比較的大きな規模の事業所があるものと思料（次ページにて別途捕捉事項あり）
- 特徴的である電子部品・デバイス・電子回路製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業にも比較的大きな規模の事業所があるものと思料
- 市内企業の多くは小売や医療・福祉、製造業であり、テレワーク導入が難しい企業が多いため、新たな業態の企業創出、誘致が必要なのではないか
- 誘致にあたっては都市圏等に所在する本社機能の移転やサテライトオフィス等の誘致も検討の余地があるのではないか
- 一方で、既存産業の幅出しについても検討の余地があるのではないか

3.日南市の地域特性の把握

3.3 RESASでみる日南市の特性と課題仮説（3/3）

RESAS

特徴

課題（仮説）

観光

- 検索の上位が「鵜戸神宮」「サンメッセ日南」などの宮崎空港から近い場所となっている
- 観光名所である「飫肥城跡」や観光拠点への送客機能を担うはずの「道の駅なんごう」「港の駅めいつ」などは目的地検索件数上、大きな割合を占めていない

医療需給

- 地域医療資源としての病院は7施設あり、全国平均を大きく上回る
 - 谷口病院（310床）
 - 県立日南病院（281床）
 - 愛泉会病院（184床）
 - 市立中部病院（107床）

- 宮崎空港利用の観光客が飫肥城跡までたどり着かず、鵜戸神宮やサンメッセ日南で引き返しているのではないか
- 観光拠点や他の観光施設への送客機能を担っているはずの道の駅が本来の機能を果たしていない可能性
- 道の駅については、市民や近隣自治体からの買い物を目的とする来訪が多く、目的地設定がされていないものの一定の集客があるのでないか

- 本市は医療資源が豊富なことから、昼夜間人口では確認できない人口流入があるのでないか

3.日南市の地域特性の把握

3.4 地域幸福度指標でみる日南市の特性と課題仮説（1/11）

地域幸福度指標

特徴

課題（仮説）

医療・福祉	<ul style="list-style-type: none">● 医療施設への徒歩によるアクセスが難しい傾向<ul style="list-style-type: none">- 医療施設徒歩圏人口カバー率 26.8● 国民健康保険医療費が全国に比して高い傾向<ul style="list-style-type: none">- 人口あたり国民健康保険者医療費 25.7● 福祉サービスが充実している<ul style="list-style-type: none">- 人口あたり児童福祉施設数 59.7- 人口あたり障害者施設数 79.3- 人口あたり認知症サポートー数 62
-------	--

買い物 飲食	<ul style="list-style-type: none">● 買い物への徒歩によるアクセスが難しい傾向<ul style="list-style-type: none">- 商業施設徒歩圏人口カバー率 31- 単身高齢者割合 20.5
-----------	---

- 市内に医療施設数が少ない、もしくは点在している可能性があり、自身による移動手段を確保できない交通弱者は病院受診がしにくい状況にあるのではないか

- 65歳以上の国保加入者の医療費が高く、生活習慣病やその他疾患による健康寿命が短い可能性
- 多様な福祉ニーズに対応ができ、安心して暮らせる街というアピールができるのではないか

- 市内に商業施設が少ないもしくは点在している可能性があり、自身による移動手段を確保できない交通弱者は日常生活に必要なものの入手がしにくい状況にあるのではないか

- とりわけ単身高齢者については同居家族の不在により、生活に必要な物品等の入手が困難であり、支援が必要ではないか

3.日南市の地域特性の把握

3.4 地域幸福度指標でみる日南市の特性と課題仮説（2/11）

地域幸福度指標

特徴

課題（仮説）

住環境	<ul style="list-style-type: none">● 住宅地の価格が全国に比して低く十分な広さの居住空間を確保できている傾向<ul style="list-style-type: none">- 住宅当たり延べ面積 52.8- 平均価格（住宅地）55- 専用住宅面積あたり家賃 61- 一戸建ての持ち家の割合 61.9● 空き家率が全国に比して高い傾向<ul style="list-style-type: none">- 空き家率 31.1
-----	--

移動・交通	<ul style="list-style-type: none">● 公共交通ネットワークが少ない傾向<ul style="list-style-type: none">- 駅・バス停留所徒歩圏人口カバー率 30.6● 車・バイク等で通勤通学する傾向<ul style="list-style-type: none">- 通勤通学に自家用車等を用いない割合 37.9
-------	---

- 一戸建ての持ち家や賃貸物件を希望する人にとって、比較的入手しやすい環境にあるのではないか
- 後述の豊かな自然環境と合わせて呼び込み、空き家対策と一体的に移住者への支援を強化することも一案ではないか
- 自身での交通手段を持たない人は、地域とのつながり等が持てず生活上の困りごとがあるのではないか
- コミュニティバスの路線や便数、時間帯などについて、住民の需要に応えられているかについて調査が必要か
- 交通資源の少なさにより、住民の移動は主に自家用車であるため、生活利便施設等には十分な駐車スペースが必要ではないか

3.日南市の地域特性の把握

3.4 地域幸福度指標でみる日南市の特性と課題仮説（3/11）

地域幸福度指標

特徴

課題（仮説）

- 全国に比して娯楽施設が多い傾向
 - 人口あたり娯楽事業所数 53.4

- 娯楽施設が多い傾向にあるものの公共交通ネットワークが少ない状況に鑑みると、来訪者の利便性・快適性向上を図る必要があるのではないか（短距離移動手段としてマイクロモビリティの導入や自転車道の整備など）

娯楽

- 待機児童数が少ない傾向
 - 人口あたり待機児童数 51.9
- 合計特殊出生率は高い水準
 - 合計特殊出生率 64.6

- 映画館、ボウリング場等の娯楽の選択肢がないあるいは少ないため、余暇活動は市外へ流出しているのではないか

- 子育てに関する満足は比較的高いのではないか
 - 保育施設等の待機児童も少なく入所が容易である可能性

子育て

3.日南市の地域特性の把握

3.4 地域幸福度指標でみる日南市の特性と課題仮説（4/11）

地域幸福度指標

特徴

課題（仮説）

初等教育・中等教育

- 市内の小・中・高校は生徒数が少ない
 - 1施設当たり小学生数 70.1
 - 1施設当たり中学生数 73.4
 - 1施設当たり高校生数 64.6

- 小規模校のメリットとして、児童・生徒ひとりひとりに目が届きやすく、きめ細かな学習指導が得られやすいことなどが考えられ、こうしたメリットを生かせないか

地域行政

- まちの財政指数は全国を下回っている
 - 財政指数 36.3

- 財政の立て直し（自主財源確保等）が必要なのではないか

- ふるさと納税による自主財源確保策の強化が必要なのではないか

- 高齢化率の高さにより将来の財政負担が懸念されるため、生産年齢人口の移住定住による安定した税収確保が必要ではないか

3.日南市の地域特性の把握

3.4 地域幸福度指標でみる日南市の特性と課題仮説（5/11）

地域幸福度指標		特徴	課題（仮説）
デジタル		<ul style="list-style-type: none">デジタルにおける指数が全体的に低い傾向<ul style="list-style-type: none">自治体DX指数 46.8デジタル政策指数 37.7デジタル生活指数 41.5	<ul style="list-style-type: none">デジタル政策を推進するための指針や体制整備が進んでいない可能性はないかデジタル交付金をはじめとする補助金等の活用や実証事業への参画が進んでいない可能性はないか地域の高校（ITに関係する学科等）との連携による事業創出の可能性はないか
公共空間 景観		<ul style="list-style-type: none">徒歩による公園緑地までのアクセスが比較的難しい傾向<ul style="list-style-type: none">公園緑地徒歩圏人口カバー率 37.4本市道路に歩道が整備されていない区間がある傾向<ul style="list-style-type: none">歩道設置率 38.2綺麗な景色があり歩きたくなるような街である<ul style="list-style-type: none">ウォーカブル指数 58.4自然景観指数 68.2	<ul style="list-style-type: none">公園が少ないもしくは点在している可能性歩行者にとって安全・容易にアクセスできていない可能性があり、子育て世代や子供にとって公園の規模や数に不満を抱えていないか公園・緑地は有効利用されているか公園・緑地の環境整備がなされているか

3.日南市の地域特性の把握

3.4 地域幸福度指標でみる日南市の特性と課題仮説（6/11）

地域幸福度指標		特徴	課題（仮説）
自然の恵み		<ul style="list-style-type: none">● 水、木に恵まれ豊かな自然環境を有している<ul style="list-style-type: none">- 水供給ポテンシャル 78.8- 木材供給ポテンシャル 80- 緑地へのアクセス度 68.8- 水域へのアクセス度 68	<ul style="list-style-type: none">● 恵まれた地域資源を観光振興にいかすためには、来訪者の快適性や移動手段を含めた満足度向上のための環境整備が必要なのではないか
自然共生		<ul style="list-style-type: none">● 特定の汚染物質は少ない街である<ul style="list-style-type: none">- NOx濃度 61.5● 全国に比して環境負荷が高い傾向<ul style="list-style-type: none">- PM2.5濃度 47.8- 人口あたりCO₂排出量 49.8- 環境政策指数 45.3● 資源の循環ができる仕組みが整っている。<ul style="list-style-type: none">- ゴミのリサイクル率 52.6- 人口あたり再生可能エネルギー発電容量 71.7	<ul style="list-style-type: none">● 良好的な自然環境と資源循環の仕組みがあるものの、全国に比して一部汚染物質も見られ、エネルギー消費も多くなっている可能性もあるため、総合的な環境政策を推進することにより、工芸な街としてもアピールの余地があるのではないか

3.日南市の地域特性の把握

3.4 地域幸福度指標でみる日南市の特性と課題仮説（7/11）

地域幸福度指標

特徴

課題（仮説）

自然災害

- 避難・救助の体制が整っている
 - 避難・救助 63
- ハード対策はされているものの防災への取組や災害の備えが不十分
 - 地震動 51.9
 - ハード対策 50.5
 - 高潮 40.9
 - 津波 36
 - 土砂災害 25.7
 - 防災教育 42.2
 - 防災まちづくり 39.4
 - 情報・デジタル防災 46.4

事故犯罪

- 交通事故が多い傾向
 - 人口あたり交通事故件数 45.7
 - 歩道設置率 38.2
- 地域コミュニティが強固で犯罪が少ない傾向
 - 人口あたり刑法犯認知件数 61.5
 - 自治会・町内会加入率 63.1

- 街としての防災への意識や防災情報等ソフト面の対策は行き届いていないのではないか。
- 災害のリスクが全国に比して高いため、移住者や観光客にとって安心して過ごせる環境なこと、街の防災意識をアピールすれば魅力向上につながるのではないか

- 公共交通の利便性、ドライバー教育、歩行者や自転車への安全対策（横断歩道・歩道整備）が不足していないか
- 単身高齢者割合が高く、今後も高齢化していく中で見守りが各地区で有効に機能しているか

3.日南市の地域特性の把握

3.4 地域幸福度指標でみる日南市の特性と課題仮説（8/11）

地域幸福度指標

特徴

雇用・所得

- 完全失業率が非常に高く（LWC指標は偏差値なので低くなっている）、若者層の完全失業率はさらに高い傾向。一方で、正規雇用者比率が高い
 - 完全失業率 37.1
 - 若者層の完全失業率 36.9
 - 正規雇用者比率 59.2
- 納税者あたり課税対象所得が低い
 - 紳税者あたり課税対象所得 42.4
- 新規事業所（または企業）の数が少ない
 - 創業比率 41.6
- 本市の高齢者は就業していない人が多い
 - 高齢者有業率 44.8

課題（仮説）

- 市民の正規雇用率の高さ及び完全失業率の低さに鑑みると、子育て介護などの時間的制約のある人（若者層）など自身のライフスタイルに合わせた柔軟な働き方が可能な事業所が少ないのでないか
- 高齢者の有業率の低さも、上記のような実態に起因しているのではないか
- 紳税者あたり課税対象所得の低さから、市内には高所得を求める賃金水準の事業所が少ないのでないか
- 新規事業の創業を考えている人は存在するものの、創業を希望する人への支援策が足りてない、あるいは支援策が周知されていない可能性はないか
- 産業構造が1次産業よりであるため、高齢者が働きづらくなっている可能性

3.日南市の地域特性の把握

3.4 地域幸福度指標でみる日南市の特性と課題仮説（9/11）

地域幸福度指標

特徴

課題（仮説）

健康
×
緑地

- 健康寿命が男女ともに短い
 - 健康寿命（男性） 44.2
 - 健康寿命（女性） 45.9
- 公園等の運動環境が近隣にない
 - 公園緑地徒歩圏カバー率 37.4

- 健康寿命が短い点について、生活習慣病対策（食事、運動、社会参画）をまちづくりの視点に生かすことができないか
- 公園等へのアクセスが良くないことも相まって、運動機会が多くない可能性はないか
 - 行政を中心とした健康保健指導が行き届いていない可能性。高齢単身者も極めて多いため、地域包括ケアシステムや訪問介護等のサポートが重要か

事業創造

- 本市には芸術、映画、コンピュータゲーム、服飾デザイン、広告など知的財産権を有した生産物の生産に関わるクリエイティブ産業が少ない
 - クリエイティブ産業事業所構成比 42.7
 - 大学発ベンチャー企業数 46.0
- 新規での法人設立は、比較的多く設立されている
 - 新規設立法人の割合 57.5

- 昼間の人口流入だけでなく、移住・定住による人口流入を叶える上では、テレワークを前提とした多様なライフスタイルに応じた柔軟な働き方が可能な業種の存在が不可欠であり、クリエイティブ産業の拡大・誘致が必要ではないか
- 業種の割合はわからないが、法人を設立する人はいるので、若者が就業を希望するような業種を増やすことができるのではないか

3.日南市の地域特性の把握

3.4 地域幸福度指標でみる日南市の特性と課題仮説（10/11）

地域幸福度指標

特徴

課題（仮説）

教育

- 人口に対して高学歴者の割合が少ない
 - 大卒・院卒者の割合 31.7
 - クリエイティブ産業事業所構成比 42.7
 - 大学発ベンチャー企業数 46.0
- 面積に対し、中高一貫校や大学数が少ない
 - 可住地面積あたり大学・短期大学数 46.4
 - 可住地面積あたり私立・国立中高一貫校数 47.1
- 人口あたりの学習制度が少ない
 - 人口あたり生涯学習講座数 43.0
 - 人口あたり生涯学習講座受講者数 47.1
 - 人口あたり青少年教育施設利用者数 47.4
 - 人口あたり女性教育施設利用者数 46.1

- 学歴のある若者があまり望まない職業が本市の中心産業となっているため、都心部への流出の原因となっているのではないか
- ベンチャー企業等の創業支援も若者繋留の一助となる可能性はないか
- 人口が減少するもとで、学校経営が厳しく少ない可能性。その結果、子どもの選択肢が少なくなってしまったのではないか
- 学習機会が設けられていることを住民に周知しきれていないのではないか

3.日南市の地域特性の把握

3.4 地域幸福度指標でみる日南市の特性と課題仮説（11/11）

地域幸福度指標

特徴

課題（仮説）

自治意識

- 住民の市政や街づくりに対する自主性や関心が高い
 - 居住期間が20年以上の人口割合 63.9
 - 自治会・町内会加入率 63.1
 - 首長選挙の投票率 63.8
 - 市区町村議会選挙の投票率 70.8

- 長期間居住している住民が多いもとで街づくりへの関心も高く、また市政への関心も強く持っている。しかし、高齢化が進む現状を鑑みると、互助機能が働いているコミュニティが存続していく見通しは低いため、公共の仕組みを再検討する必要ではないか

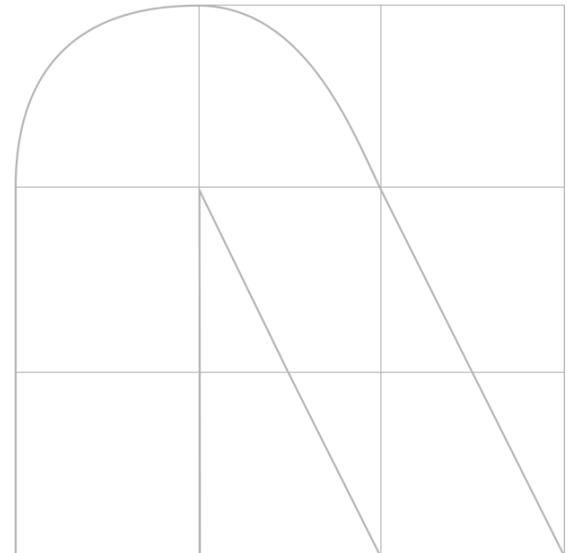
地域のつながり

- 既婚率も高く、市内で長く暮らす傾向
- 高齢単身世帯の指数が全国に比べかなり低い
 - 既婚者割合 70.3
 - 居住期間が20年以上の人口割合 63.9
 - 高齢単身世帯の割合 20.5
 - 拡大世帯割合 51.6
- 人口あたり自殺者数の値が全国に比してかなり悪い
 - 人口あたり自殺者数 21.3

- 定住者が多く、多世代同居等の割合も高いことから地域コミュニティ力が高いことが想定され、互助による支え合いの地域づくりなどが期待できるのではないか
- 人口減少・高齢化により地域コミュニティの活力が低下しており、特に高齢単身者への見守りなどの地域セーフティネット機能が必要なのではないか
- ひきこもりや高齢単身者等の生活弱者はそもそも困りごとの相談先や地域の支援者の存在を知らないのではないか
- プッシュ型通知、見守り、声掛けなどによる生活弱者対策を推進するべきではないか

地域特性の把握

～定量分析（油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画）～



1. 計画立案に際しての市民ワークショップから得られる示唆

油津の賑わいを醸し出すうえで欠かせない「子育て中の女性」の視点が抜け落ちている可能性

今後、油津の再興を図るうえでは、「各属性の住民の意見」を踏まえる必要がある。ただし、本計画立案に際して実施された住民ワークセッションにおいては、こうした参加住民の属性の分散が図られているようには見えず、「団体中心」の意見形成がなされている可能性が否めない

3回に亘る市民ワークショップは「団体」からの聴取が中心になっている可能性

表 I-1 第1回ワークショップ概要

開催日	令和5年5月9日（火）
場所	日南市テクノセンター
参加者	24名（8団体）
検討内容	①油津の「後世に残したい資源・資産、風景など」について ②油津の資源・資産等を活用するうえでの「課題・問題点」について ③油津の「将来像」について
当日の様子	

表 I-2 第2回ワークショップ概要

開催日	令和5年6月14日（水）
場所	日南市テクノセンター
参加者	18名（9団体）
検討内容	①資源・資産等の活用方法について ②観光資源を繋ぐ方法について ③更に必要な機能について
当日の様子	

表 I-3 第3回ワークショップ概要

開催日	令和6年1月31日（水）
場所	日南市テクノセンター
参加者	13名（6団体）
検討内容	①油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画（案）の概要説明 ②意見交換、質疑応答
当日の様子	

「子育て中の女性」といった視点が抜け落ちてしまっていることが懸念される

2. パブリックコメントで寄せられた住民意見から得られる示唆

計画素案そのものを対象に、パブリックコメントで住民から寄せられた定性的意見を確認すると、現実的な目線で且つ堅実な意見がみられる。

パブコメでの意見集約

- 意見の募集期間 : 令和6年3月5日(火)から
令和6年3月19日(火)
 - 意見の件数等 : 意見件数22件
提出者数2名

留意すべきポイント

- ✓ わずか2名のみが意見を提出していること
 - ✓ 属性上のバイアスが過度にかかっていること
 - ✓ 個人的なアイディアが多く披露されていること
 - ✓ アイディアの基となるような原因系たる「理由」「きっかけ」「動機」といったものが必ずしも明確ではないこと

題	二種類、二重の問題	西田重一郎
1) 何故か、豪華な車の運転者が多いとされているのであるが、他の地域では計画的 に、豪華な車を運転する人が多いのですか?	豪車の運転にあこがれ、それが他の車と競争できると認めたからです。	
2) 何故か、豪車の運転者が多いとされているのであるが、他の地域では計画的 に、豪車を運転する人が多いのですか?	豪車の運転にあこがれ、それが他の車と競争できると認めたからです。	
3) 何故か、豪車の運転者が多いとされているのであるが、他の地域では計画的 に、豪車を運転する人が多いのですか?	豪車の運転にあこがれ、それが他の車と競争できると認めたからです。	
4) 何故か、豪車の運転者が多いとされているのであるが、他の地域では計画的 に、豪車を運転する人が多いのですか?	豪車の運転にあこがれ、それが他の車と競争できると認めたからです。	
5) 何故か、豪車の運転者が多いとされているのであるが、他の地域では計画的 に、豪車を運転する人が多いのですか?	豪車の運転にあこがれ、それが他の車と競争できると認めたからです。	
6) 何故か、豪車の運転者が多いとされているのであるが、他の地域では計画的 に、豪車を運転する人が多いのですか?	豪車の運転にあこがれ、それが他の車と競争できると認めたからです。	
7) 何故か、豪車の運転者が多いとされているのであるが、他の地域では計画的 に、豪車を運転する人が多いのですか?	豪車の運転にあこがれ、それが他の車と競争できると認めたからです。	
8) 何故か、豪車の運転者が多いとされているのであるが、他の地域では計画的 に、豪車を運転する人が多いのですか?	豪車の運転にあこがれ、それが他の車と競争できると認めたからです。	
9) 何故か、豪車の運転者が多いとされているのであるが、他の地域では計画的 に、豪車を運転する人が多いのですか?	豪車の運転にあこがれ、それが他の車と競争できると認めたからです。	
10) 何故か、豪車の運転者が多いとされているのであるが、他の地域では計画的 に、豪車を運転する人が多いのですか?	豪車の運転にあこがれ、それが他の車と競争できると認めたからです。	

2. パブリックコメントで寄せられた住民意見から得られる示唆

2.1 パブコメにおける住民意見の類型化（1/2）

パブコメの意見は22件だが、2名の住民が意見提出したのみ。ただし、類型化を行うと、僅かではあるものの、参考となる情報が浮かび上がってくる。

分類	対象	要望、意見
ヒト	委託先	歴史的建造物を活かしたまちづくりの経験や造詣の深い専門家を国等にも知恵を借りながら、国事業（企業版ふるさと納税の専門家派遣も含む）の活用を行ってください
	こども	子ども連れ向けの室内大型アスレチック施設があると良い
	外部	瀬川瑛子さんを観光大使にしたらどうか
モノ	堀川運河	<p>堀川運河まつりの企画に加える。</p> <p>1. 「千代ろ舞音（ぶね）」の部 (1)「弁甲節」、「堀川運河」の歌、踊の普及 (2)「堀川運河」唄う歌手・瀬川瑛子さんの観光大使任命</p> <p>2. 花峯橋のもと「弁口花盛団花だ流し」コンクール ・弁甲いかだの小型のものに花を飾り付けて堀川に流す。 ・花は（1）スイートピー、（口）ほうずき、（ハ）百日草、（二）向日葵、（木）ひな菊、（ヘ）ざくろ（戦後、昭和30年代、盛大な花峯地域の「ざくろ祭り」参照）</p> <p>3. 「ほり・か・わ印足軽」仮装行列イベント (鉄砲、長柄、弓組、運河完成の江戸・1685年頃の時代。平時は石工、土木作業員等。非常時は足軽)</p>
	油津別館	油津別館はガイダンスセンターではなく、堀川夢広場とその駐車場一帯を含めて「道の駅」として売り出すべき。道の駅であれば全国に通用する
花峯橋	橋に由縁のあるイベントの開催	
		花峯橋の活用について水辺環境利活用に入っているが保存整備のことを学んで終わりという感じがする。体験メニューにても水質ありき。水質改善活動から市民協同が必要だと感じる
古民家	古民家やチョロ船など一回で十分、新規の需要しかないと思う。目玉になる継続してきもらう施設がない限り人はまず来ない	
空き家	空き家活用事業についての民間主導の体制づくりの検討については、空き家の所有者の意向は勿論、出資者、空き家事業の運営者については、その確保ができるかが大きな課題となると思われる。市内だけでなく、県内、県外も含めて広く検討してほしい。	
		油津は既に空き家となっている有形文化財もあることから、この活用を図るための家主のまちづくりへの意気込み、または家主から市土地開発公社（？）への売却後、市が保存と事業施設への改修として基金利用もあるのではないか。資料を見ると登録文化財の家主の考えが尋ねられていないようである。今後、家主はどうしたいのか、どうするのかの視点が欠けていると思う。
資料館	地域に由縁のあるモノの展示、歴史を念頭においた展示物	
駐車場	観光駐車場の整備が必要。	
		拠点のガイダンスセンターの整備、案内サインの整備や観光PRは周遊するためには必須であるが、歩いて周遊するためには観光客向け駐車場（ある程度の規模）が必須だと考える。ガイダンスセンターから離れているところに駐車場を整備したとしても全く意味がないので駐車場整備についても少し計画段階から頭に入れておくべきではないか。
食	日南は食事処が少ない、食堂街・ビルもない。食事が好きなものにとっては残念だし不便	
		観光滞在時間を増やすためには「食」が重要な要素だと思うが、計画に食に関する構想がない。食こそ計画の中で深堀すべきではないか
全般	油津の登録有形文化財の点在は、飫肥の伝建地区に比べ注目度・風情が弱く、合わせて老朽化が進んでいる。	

2. パブリックコメントで寄せられた住民意見から得られる示唆

2.1 パブコメにおける住民意見の類型化（2/2）

（つづき）

分類	対象	要望、意見
力ネ	財源	河野家、赤レンガの連結事業などを目指しているのであれば、市の地域再生計画に詳細を記載し、外部資本も取り入れてはどうか
	補助金	補助金の受け皿として観光DMOも必要であろう。日南市観光協会には物産振興部もあり、地域商社の機能も持つようにして補助金の受け皿として、合わせて文化財活用と市の観光発展のため事業拡大させてはどうか。
情報	経済効果	宮崎県公式ウォーキングアプリ「SALKO」を活用し、数パターンの距離のウォーキングマップを作成。現在3.4kmのコースが既にあるそうです。ポイント制度もあるそうです。県と連携してイベントができると良いですね。
		建物の建替え、施設等の整備をするのは構わないが、何十年後には建替え、整備をしないといけない時期が来るので、その為にも収益を生むシステムを構築する必要があると思う
公共交通	公共交通	周遊してもらうには公共交通機関の整備も重要では？と思います。レンタカーで来訪される方ばかりではないので現状では不便に思われる観光客も多いと思います。
		道路が狭隘のため一方通行の所も多々あり、巡回には歩くか自転車利用となると思うが、文化財にどれほどの魅力があるのかは発信不足である。日田の豆田町は生活道路が町の中心をとっているため、自動車も狭い中走り回っている。徒歩の観光客にとってはあまり安全とも言えないが、歩き回る魅力発信がある。
観光	観光	滞在時間を長くしてもらうのはもちろんですが、宿泊して夜に飲食店に行ってもらうのが一番効果大きいと思うので、宿泊施設の整備、宿泊してもらえるような取組が必要だと思う
		観光の目的は「食」と考える人が多いと思います。歴史文化もあるのでそこに食が入るともといいと思います。
PR	PR	既存の飲食店等に食べ歩きできるメニューを提案してもらいデジタルマップを作る。
		案内看板が少ない
PR	PR	油津はもともと港と商業で栄えた町であるため、観光開発をメインに置くのであれば、クルーザー基地としての油津港の展望、昔のように柳がなびく堀川沿いのように風情のあるまちにしてもよいのではないか（維持が大変なため撤去したのだろう）。太陽と海、風を感じ、食と潮・漁業の香りを感じ、その場を楽しむ観光ルートがない。観光客はどこにいるのだろうか、どこに行っているのだろうか
		観光地からは昼食難民がおり食事処を案内するのに困っているとも聞く。体験型観光、着地型観光が乏しい場合の観光の最終手段は「食」しかないのではないか。夜の飲食を楽しみに来る観光客もいるのではないか。

No.2 市民活動支援補助金の要件整理

日南市様

市民活動支援補助金の要件整理

2024年10月22日

株式会社NTTデータ経営研究所

情報種別：○○○○○○○
会社名：NTTデータ経営研究所
情報所有者：○○○○○○○

目次

1. 市民活動支援事業（概要）の確認
2. 補助事業に見られる課題
3. 市民活動支援事業の補助対象とする活動
4. 市民活動支援事業の補助対象とする団体
5. 自立した市民活動とするための制度例（京都府亀岡市）

【参考】審査の方法・基準（京都府亀岡市）

【参考】自走する活動への工夫・フォーラムの活用（京都府亀岡市）

1. 市民活動支援事業（概要）の確認

市民活動支援事業は本市の「油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画」（令和6年3月から令和11年3月まで）の事業（5年間）の一つであり、3ヵ年にわたり予算を確保。

油津地域の魅力創出、市民協働活動の推進を目的に、本計画で掲げる事業に沿った取組活動に対して補助金交付にて支援するもの



【取組方針（抜粋）】 地域住民が新たな魅力を創出 する事業に対し支援を行う。

【事業概要（抜粋）】
市民自らが考え、積極的に参加していくことが望まれるため、市民協働による事業推進を図る取組を実施します。

▼事業費予算

事業費 (5年間)	R6年度	R7年度	R8年度
5百万円	1百万円	3百万円	1百万円

出典：日南市「油津の歴史文化遺産を活用した街づくり計画」

2. 補助事業に見られる課題

日本都市計画学会の調査論文によると、全国的にまちづくり補助金における課題として、主に「応募件数が少ないと」「助成の効果が事業終了後に持続しない」と等が挙げられ、応募要件のハードルと、補助金がなくなった段階で活動レベルが低下しないか等を考慮する必要がある。

調査内容

表1：アンケート調査概要

調査期間	平成30年10月16日～12月8日
調査対象	地方中心都市で実施される提案型助成制度80制度
調査方法	サイトからのダウンロード、メールでの返送
回収率	85% (68票)
調査項目	1.回答者の基礎情報 2.制度の概要 3.制度のコースについて 4.金銭的支援以外の支援について 5.市民活動団体の助成対象事業後の様子について 6.制度の設置・設計について 7.過去の提案型助成制度について 8.対象制度以外の提案型助成制度について 9.コースごとの概要・運用について

表2：調査内容

設問	質問内容
2-1	制度を運営している主体を教えてください。
2-3	制度の目的な何ですか。
2-4	設問3で回答した制度の目的を通して達成したい、作りたいまちのビジョンはありますか。 まちのビジョンをお答えください。
2-12	財源となる資金はどこから調達していますか。
3-1	制度には事業申請の部門や助成のコースなどの分類は設定されていますか。
9-10	直近5年の事業化件数を教えてください。
9-11	運用の効果としてどのようなものが挙げられますか。
9-12	運用の課題としてどのようなものが挙げられますか。
9-13	設問12の課題の原因・理由としてどんなことが考えられますか。
9-15	運用するにあたって工夫していることはありますか。

調査結果

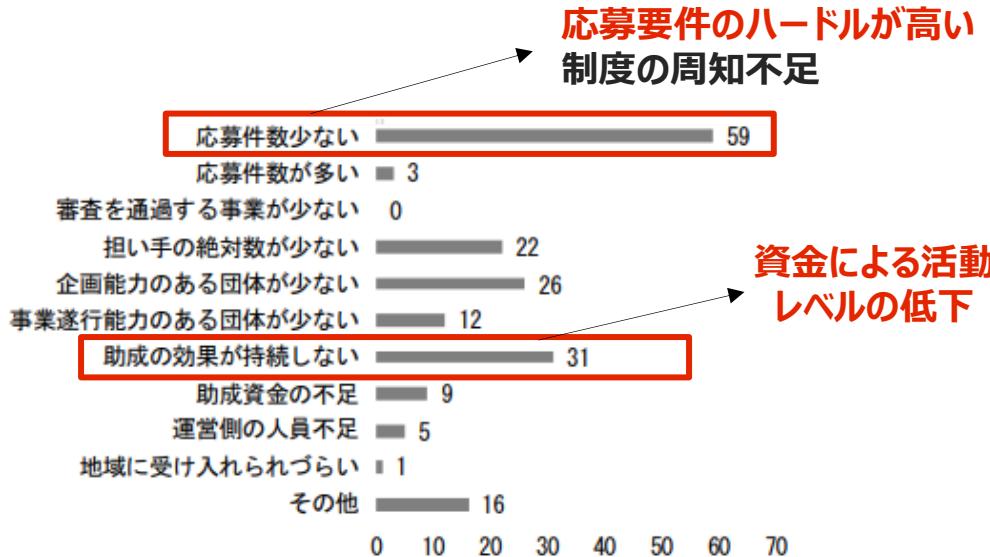


図6：運用の課題(n=124 コース) [設問9-12]

出典：[公益社団法人日本都市計画学会「地方都市における市民提案型まちづくり活動助成制度の実態と課題」](#)をもとにNTTデータ経営研究所にて作成

3. 市民活動支援事業の補助対象とする活動

油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画における4つの対象エリアを中心とした取組に絞りつつ、活動内容を幅広くすることで本事業の応募要件のハードルを低くされたい

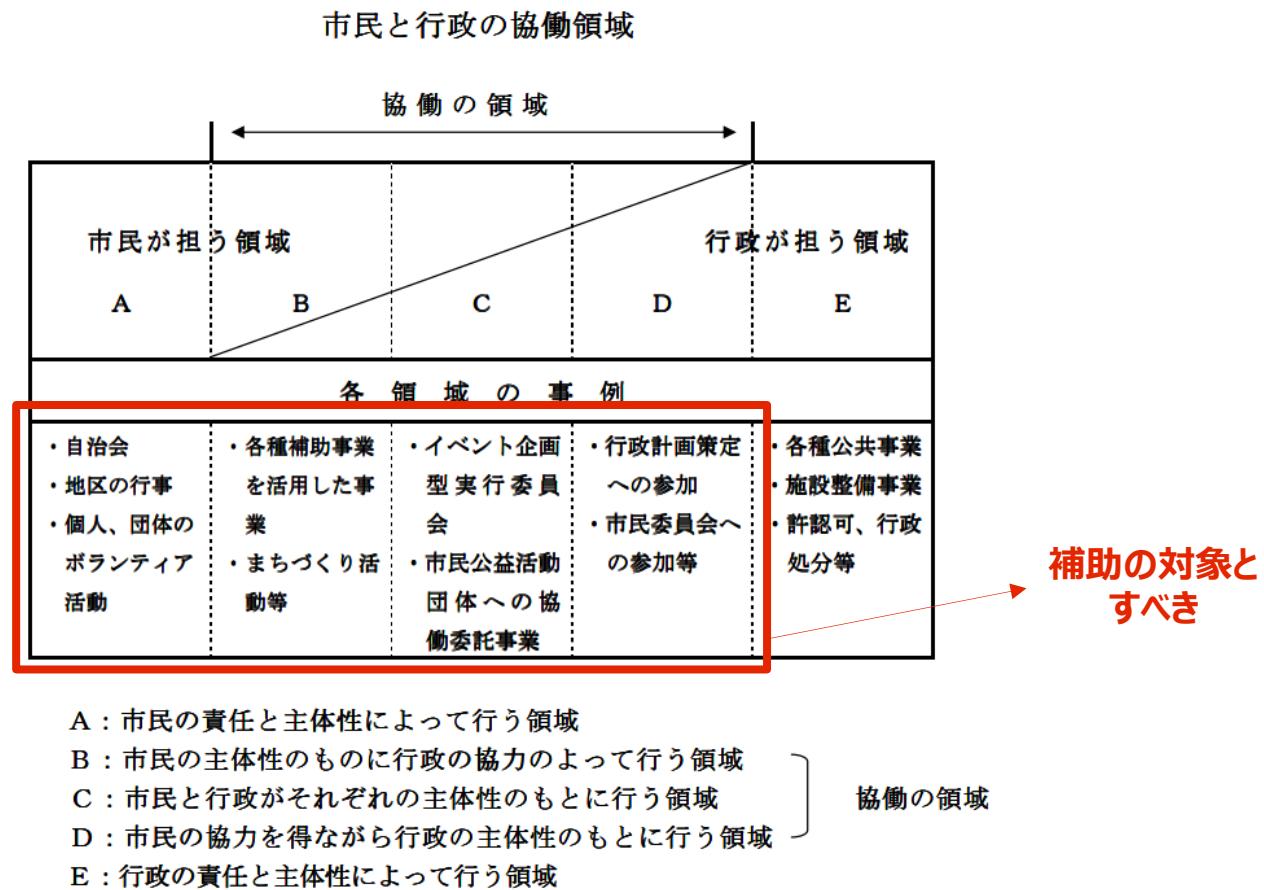
対象エリア	まちづくり計画の取組	補助対象の活動
堀川運河周辺	<ul style="list-style-type: none">- 周遊促進のためのルート設定- 滞在時間延長のための体験メニュー創出	<ul style="list-style-type: none">- 周遊（まちあるきツアー等）を促進する活動- 地域資源を活かした体験型観光に資する活動- 文化財施設・空き家等利活用に関する活動- 誘客・認知度向上を目的とした発信活動（物販・マルシェ等、PR活動等）- 景観の保全に寄与する活動等- その他当該地域の振興に資する活動
河野宗泰家・古民家等	<ul style="list-style-type: none">- 利活用に関する企画	
花峯橋	<ul style="list-style-type: none">- 利活用に関する企画	
日南市油津別館	<ul style="list-style-type: none">- 利活用に関する企画- 歴史文化周知伝承事業- 観光PR事業	

日南市・コーディネーター

市民協働での活動
範囲の設定は対象エリアのみ、幅広く活動を支援する

4. 市民活動支援事業の補助対象とする団体

日南市の市民協働まちづくり方針によると市民協働の活動はBからDを指すが、A（日頃市民が主体的に行うボランティアな活動）を含めて、油津まちづくり計画の趣旨に沿うものを補助の対象にすることで、応募への敷居を下げることが望ましい



出典：日南市市民協働まちづくり基本方針

5. 自立した市民活動とするための制度例（京都府亀岡市）

補助がなくなっても活動レベルが維持されるように、亀岡市では市民活動が軌道に乗るまでの補助として、3年間継続補助し段階的に交付率を低減している。

補助対象経費費目については、申請事業を実施するために必要な費目か否か事前協議のうえ決定している。

補助金概要

はじめてのまちづくり活動応援プログラム（亀岡市支えあいまちづくり協働支援金）

地域の課題解決による、豊かで魅力があり誰もが愛着心を持てるまちづくりを目指して、市民活動団体の自主的な取り組みを支援します。

このプログラムではこれから活動を始める、または、はじめてばかりの設立後3年以内の団体が活動を軌道に乗せるお手伝いをします。

詳細は[ページ下部](#)にあります募集要項をご確認ください。



支援金の概要

補助上限額/補助率など

交付上限額：15万円

交付率：活用1年目は（1）または（2）を選択してください。

活用2年目以降は（2）。

- （1）対象経費の10分の10（初回申請時のみ・他の補助金との併用不可）
- （2）対象経費の4分の3

補助回数：1団体3回まで活用可能※R4年度以前から通算

他補助金との併用：交付率を対象経費の10分の10を選択した場合は不可

低減していくような補助
3年で補助終了

対象の経費例

5 この支援金の対象となる経費

申請事業を実施するために必要な経費が対象となります。

対象となる経費

費目	内容	対象外経費例
報償費	講師やアドバイザーなどへの謝礼など	・団体構成員等への謝礼 ・交付額の30%を超えるもの
旅費	講師の交通費の実費など	・スタッフ交通費
消耗品費	用紙や封筒、文具や原材料費など	
印刷製本費	参加者募集のチラシなどの印刷代やコピー代など	交付額の40%を超えるもの
通信運搬費	参加者募集のチラシ送付代や荷物運搬の宅配便代など	
広告宣伝費	参加者募集の広告掲載料など	
保険料	ボランティア保険や行事保険など	
使用料及び賃借料	会議室や施設などの会場使用料やレンタカ一代など	
委託料	専門的な知識や技術に対し、業務を外部に委託する経費 例：託児、チラシデザイン、WEBサイト構築	・交付額の30%を超えるもの ・団体内で実施可能なもの
手数料	銀行の振込手数料など	
飲食費	事業実施に必要不可欠なもの	スタッフや一般参加者の飲食費全般
備品費	概ね3年以上同じ状態で使用できるもの	交付額の1/3を超えるもの

※備品の購入については、必ず申請前に事務局と協議をしてください。

原則として、申請時の計画になかった備品費については対象経費として認めることができません。
また、購入金額が安価なものであっても、長期に渡り繰り返し使用できると想定される物品は備品となります。

※上記に該当しないものや費用について不明な点は、ご相談ください。
※事前着手届を提出された場合は、交付決定日までの間に支出された経費も対象経費として算入できますが、
支援金が交付されなかった場合は全額申請団体の自己負担になります。

対象とならない経費

対象とならない経費の例は下記のとおりです。

- 個人給付的なもの（例：参加賞や賞品、参加者への給付を目的として支出するもの）
- 団体構成員等（事業実施補助者を含む）に支払う経費（報償費、人件費、交通費、飲食費）
- 団体としての支払が明確に確認できないもの
- 団体の運営に必要な経費（事務所家賃や構成員の名刺など）
- 交付額のうち、一定割合を超えるもの（報償費、印刷製本費、委託料、備品費）

※その他支出が不適切と判断したものについては、対象外となる場合があります。

出典：[亀岡市HP](#)

【参考】審査の方法・基準（京都府亀岡市）

「事業の継続性」が審査基準になっており、事前相談や審査会を通じて先の展望までアドバイスを行うことで市民協働の仕組み、継続性を持たせる取組の創出を目指している

審査基準

7 審査の方法・基準について

下記の5項目に基づき申請内容を総合的に判断し選考します。

なお、審査項目の「チャレンジ性」「事業の公益性」「課題解決力」については5項目のなかでも特に重要な視点として審査を行います。

項目	要件
チャレンジ性	◎新たに地域の課題解決を行おうとする熱意があること (例)・地域の課題を自分事として捉え主体的に活動しようとしているか
事業の公益性	◎地域の課題を的確に把握し、地域のために事業を企画していること (例)・地域の実情に合った課題を設定し、地域で共有している、又は共有を図っているか ・主体的な情報発信により事業効果を広く発信しようとしているか
課題解決力	◎設定した課題の解決を図る具体的な手段やその効果が示されていること (例)・事業の目的と手段の関係性が明確か ・設定した課題の解決に向けて前進を図ることができる手段が示されているか
事業の継続性	◎交付終了後の自立や継続的発展に向けた展望を持っていること (例)・次年度以降の事業計画において継続的、発展的な展望はあるか ・参加費や寄付金の獲得など、支援金終了後も活動を継続するための自己資金獲得に向けた展望はあるか
事業実現性	◎事業実施のために必要な体制が整っていること (例)・スケジュール、人員確保、他団体との事前調整などができる

- 審査会では審査委員より事業に関する質問・アドバイスを行います。1回体20分程度です。
- 市民協働推進を図るために事前に亀岡市が設置する「亀岡市まちづくり協働推進委員会」で協議後、同委員や外部有識者等で構成する審査会で審査を行います。審査会の結果を受けて、亀岡市内部での協議を経て、最終的に市長が交付、もしくは不交付の決定をします。
- 審査員の所属・氏名等については、審査の公平性を確保するため当日まで非公開とします。

採択までの流れ

項目	日 程	内 容
事前相談	令和6年4月1日（月）～5月13日（月）	申請前に必ず市民力推進課またはかめおか市民活動推進センターまでご相談ください。 (事業目的や内容について聞き取りを行います。) ※事前の相談等がない事業の申請は受け付けられません。
申請	～令和6年5月20日（月）厳守 ※その場で書類の確認を行いますので事前に連絡のうえ、時間に余裕をもってお越しください。	市民力推進課に持参により提出してください。その場で書類の確認をし、必要に応じて聞き取りを行います。 ※提出書類については一度受け取りますが、不備があれば受理をせず、修正や追加資料の提出が必要になる場合があります。なるべく早くご提出ください。 【提出時間】午前8時30分～午後5時15分（平日）
審査会	令和6年6月15日（土）出席必須	団体による事業の説明と審査委員による事業ヒアリング（1事業20分程度）を実施します。日程は申請時に調整し、先着順で決定します。 ※審査会では事業内容の説明の他に審査員からのアドバイスもあります。
交付決定	令和6年7月中（予定）	市長が交付または不交付の決定を行い通知を郵送します。
事業実施	～令和7年3月31日（月）	市民力推進課で実施事業について状況確認等を行います。 事業の変更や実施協力依頼（広報など）は早めに市民力推進課までご相談ください。
中間報告・交流会	令和6年11月～12月頃出席必須	申請団体同士の交流、中間報告のための場を設けます。 事業実施の上での困りごとの相談などにご活用ください。
実績報告・確定	事業終了後1ヶ月以内、もしくは令和7年3月31日（月）のいずれか早い日まで	実績報告書などの提出をしてください。様式は交付決定時にお渡します。報告後、市民力推進課で内容を確認し、交付確定を行います。 同時に事業報告を紙面（A1（594mm×841mm）程度）で作成して提出していただきます。
事業報告	令和7年4月以降	事業報告（紙面）を亀岡市役所等で掲示し、広く共有できるようにします。

出典：[亀岡市HP](#)

【参考】自走する活動への工夫・フォーラムの活用（京都府亀岡市）

活動が続くような工夫として、毎年開催される市民フォーラムにて市民活動を取り上げ、パネル展示等で活動紹介を行っている。

令和6年市民活動推進フォーラム

補助対象
経費費目



登録団体の活動紹介、交流、市民活動の意識向上を目的に毎年開催。

令和6年度は18団体がパネル展示を行い、市民活動を見知らせる機会として市民フォーラムを活用している。

出典：[亀岡市HP](#)

No.3 日南市来訪者アンケート(2023年度)の分析

日南市様

日南市来訪者アンケート(2023年度)の分析

2024年10月22日

株式会社NTTデータ経営研究所

情報種別：○○○○○○○
会社名：NTTデータ経営研究所
情報所有者：○○○○○○○

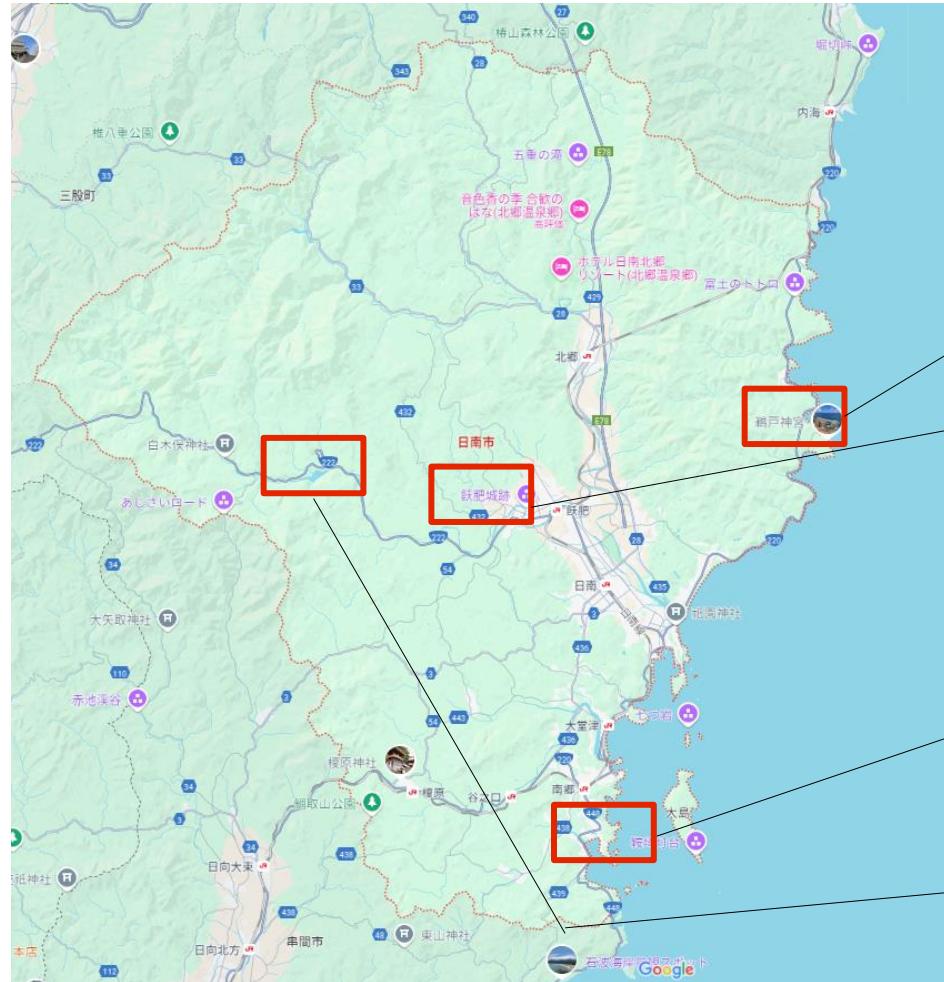
目次

1. 調査の概要
2. 鵜戸神宮からの旅行動線
3. 飫肥城跡からの旅行動線
4. 港の駅 めいつからの旅行動線
5. 道の駅 酒谷からの旅行動線
6. アンケート結果まとめ

1. 調査の概要

2023年度に日南市様にて「日南市来訪者アンケート」を以下の4か所で来訪者の属性や出発地、目的地等を調査を実施。弊社にて、当該調査結果を活用した来訪者の旅行行動線（次の目的地）の分析を実施

【調査実施地点】



鶴戸神宮

飫肥城跡

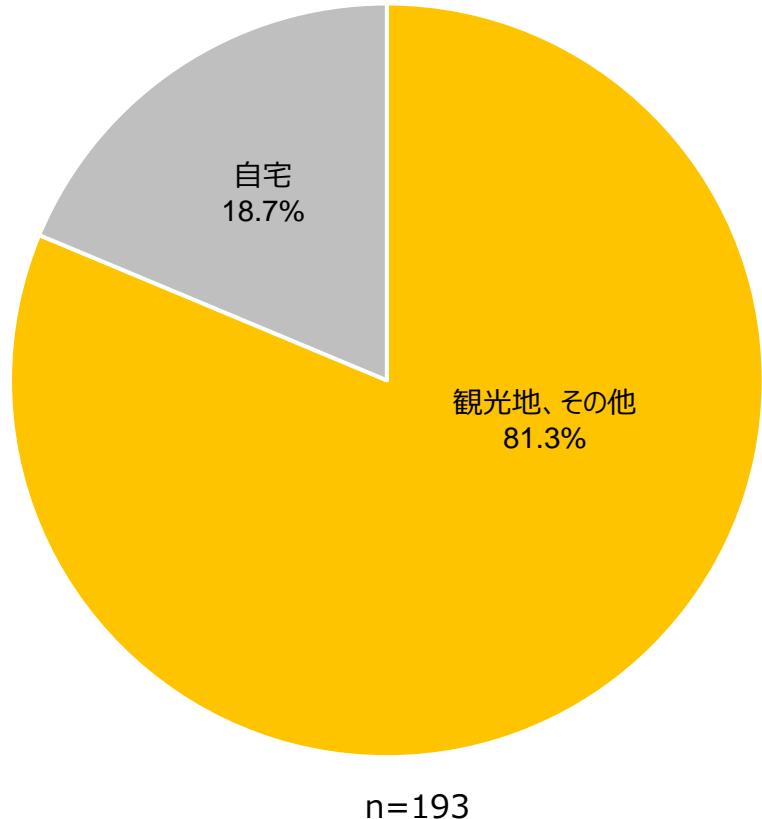
港の駅 めいつ

道の駅 酒谷

2. 鵜戸神宮からの旅行動線

鵜戸神宮来訪後の行先は「観光地、その他」が81.3%であり、回答者の多くは観光の途中に立ち寄っていることが伺える。なお、「観光地、その他」と回答した157人の具体的な観光地名をみると、回答が多かったのは「青島」、「サンメッセ日南」等であり、当地を訪れる観光客の多くが沿岸部で観光が完結しているものと思料

鵜戸神宮からの行先



観光地、その他の中訳 (n=157)

No	観光地	回答数
1	青島	31(19.7%)
2	サンメッセ日南	18(11.5%)
3	宮崎市	7(4.5%)
〃	都井岬	7(4.5%)

(総回答数157<無回答、複数回答あり>)

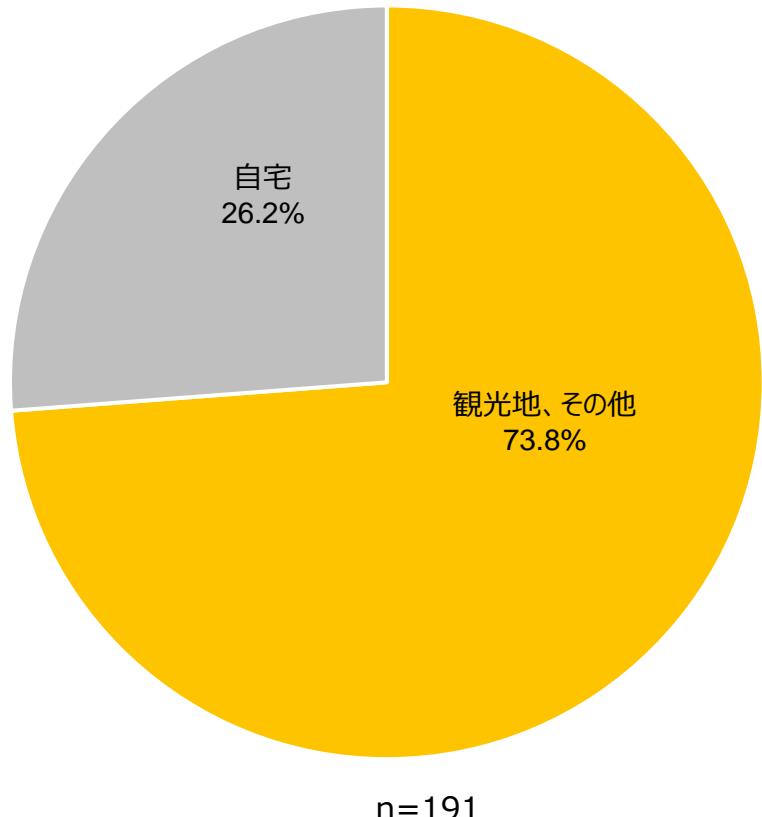
■その他、回答のあった観光地等

- ✓ 日南市内
- ✓ 高千穂市
- ✓ 飫肥(飫肥城跡含む)
- ✓ 鹿児島 等

3. 飫肥城跡からの旅行動線

飫肥城跡来訪後の行先として、「観光地、その他」が73.8%と、回答者の多くは観光の途中に立ち寄っていることが伺える。なお、「観光地、その他」と回答した141人の具体的な観光地名をみると、回答が多かったのは「鵜戸神宮」、「宮崎市」、「日南市内」等であり、当地を訪れる観光客のうち、一部は、日南市中心部への回遊を行っているものと思料。もっとも、当地から宮崎市への移動も相応にみられており、日南市は最終目的地となっていない可能性

飫肥城跡からの行先



観光地、その他の内訳(n=141)

No	観光地	回答数
1	鵜戸神宮	11(7.8%)
〃	宮崎市	11(7.8%)
3	日南市内	6(4.3%)
〃	都井岬	6(4.3%)

(総回答数141 <無回答、複数回答あり>)

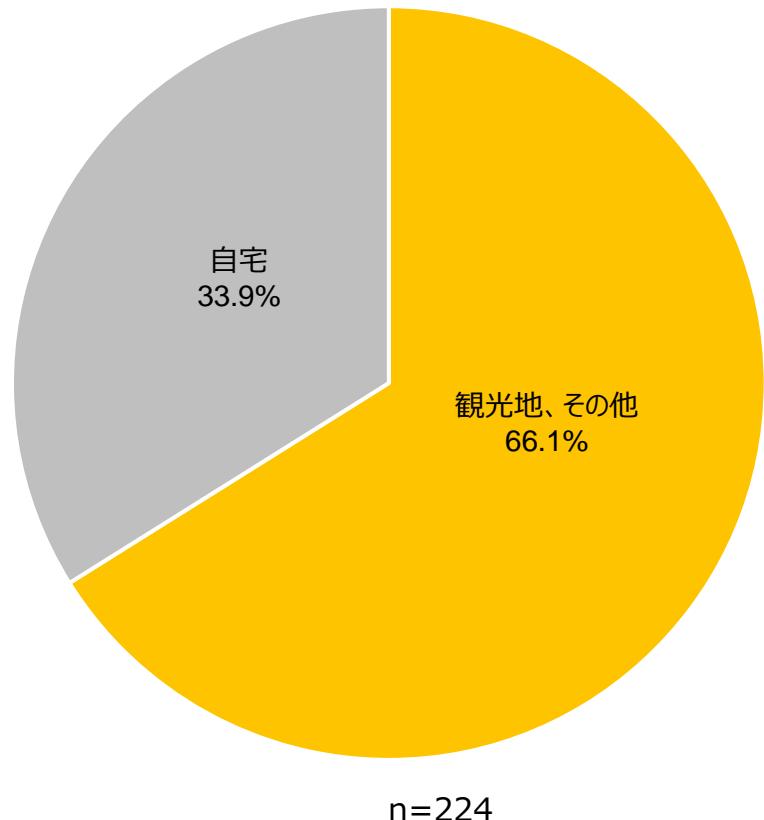
■その他、回答のあった観光地等

- ✓ 鹿児島市
- ✓ 青島
- ✓ 油津 等

4. 港の駅 めいつからの旅行動線

港の駅めいつ来訪後の行先として、「観光地、その他」が66.1%と、回答者の多くは観光の途中に立ち寄っていることが伺える。なお、「観光地、その他」と回答した148人の具体的な観光地名をみると、回答が多かったのは「飫肥」、「鵜戸神宮」、等であり、当地を訪れる観光客のうち、日南市の観光を目的としている人が相応にいるものと思料。当地への来訪者の居住地をみると(P8参照)、県内が77.0%と大半を占めており、小旅行や普段使いの買い物に訪れている可能性

港の駅めいつからの行先



観光地、その他の中訳(n=148)

No	観光地	回答数
1	飫肥(飫肥城跡含む)	16(10.8%)
2	鵜戸神宮	10(5.4%)
〃	都井岬	8(5.4%)
4	道の駅(名称不明)	6(4.1%)
〃	宮崎市	6(4.1%)
〃	青島	6(4.1%)

(総回答数148 <無回答、複数回答あり>)

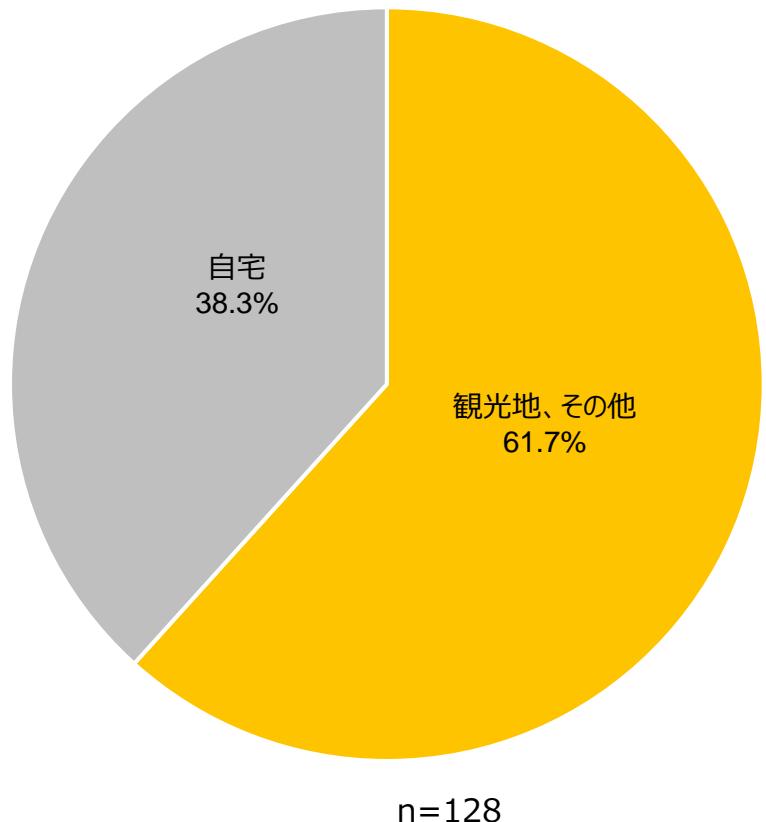
■その他、回答のあった観光地等

- ✓ 道の駅なんごう
- ✓ 南郷
- ✓ プロ野球キャンプ 等

5. 道の駅 酒谷からの旅行動線

道の駅酒谷来訪後の行先として、「観光地、その他」が61.7%と、回答者の多くは観光の途中に立ち寄っていることが伺える。なお、「観光地、その他」と回答した79人の具体的な観光地名をみると、回答が多かったのは「飫肥」、「串間市」、「あじさいロード」、「日南市内」等であり、当地を訪れる観光客のうち、日南市の観光を目的としている人が相応にいるものと思料。もっとも、当地への来訪者の居住地をみると(P8参照)、県内が66.3%と大半を占めており、小旅行や普段使いの買い物に訪れている可能性

道の駅酒谷からの行先



観光地、その他の内訳(n=79)

No	観光地	回答数
1	飫肥	8(10.1%)
2	串間市	6(7.6%)
3	あじさいロード	5(6.3%)
〃	日南市内	5(6.3%)

(総回答数79<無回答、複数回答あり>)

■その他、回答のあった観光地等

- ✓ 鵜戸神宮
- ✓ 都城市
- ✓ 南郷
- ✓ 目井津 等

6. アンケート結果まとめ

アンケートをもとに、各4地点で、来訪者の属性が異なるように感じられたため、回答しやの属性を集計し分析を実施。結果をみると、「港の駅めいつ」や「道の駅酒谷」では、県内からの来訪者が、大半を占めていることが分かった。各地点から行先とアンケート回答者の居住地分析を踏まえると、観光地の所在場所により、来訪者の動向に大きな差異があるものと思料

アンケート回答者の居住地分析

		アンケート回収地				
		鵜戸神宮	飫肥城跡	港の駅めいつ	道の駅酒谷	
回答者の居住地	県内	13.6%	36.0%	77.0%	66.3%	
	鹿児島	11.1%	8.0%	9.3%	23.1%	
	その他	75.3%	56.0%	13.7%	10.6%	

アンケート結果サマリー

- **鵜戸神宮**の様な、沿岸部の観光地への来訪客は、沿岸部を通り宮崎市や串間市に向かう傾向があるため、日南市内への回遊を促す取り組みが必要と思料。
- **飫肥城跡**の様な内陸部へ来訪客については、日南市内への回遊性が一定程度見られる。もっとも、最終目的地としては、宮崎市となっているように見えるため、宿泊地としての機能強化が必要と思料。
- **港の駅めいつや道の駅酒谷**への来訪者の大半は、県内からであり、小旅行や日常生活(買い物や外食)の一部として使用されている可能性。近隣地域からの利用に鑑みた回遊性向上の検討が必要と思料。

No.4 油津歴史文化遺産活用事業ワーキンググループ[°] における部会の構成メンバーについて

日南市様

油津歴史文化遺産活用事業ワーキンググループ における部会の構成メンバーについて

2024年11月1日

株式会社NTTデータ経営研究所

目次

1. 油津歴史文化遺産活用事業ワーキンググループの概要

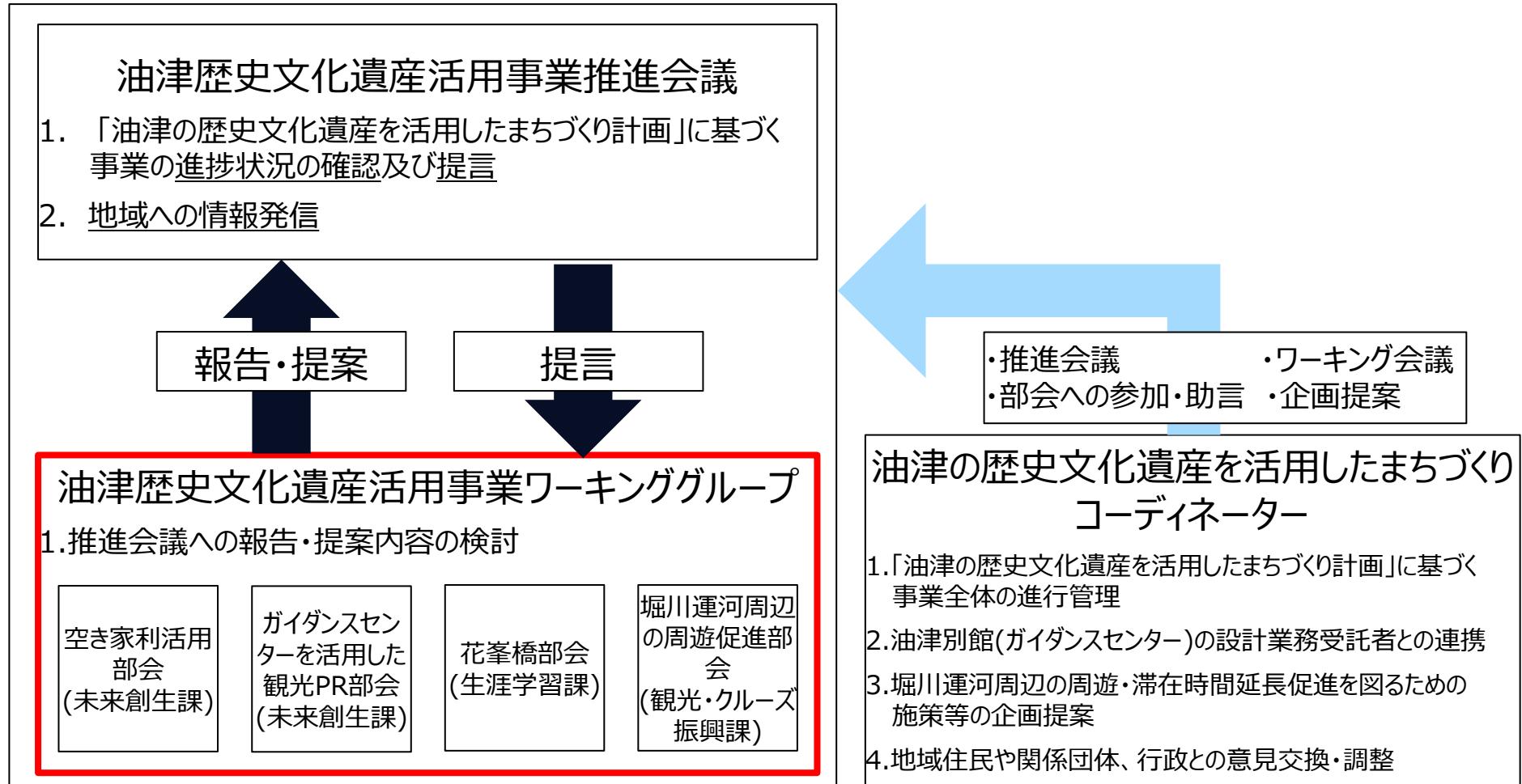
2. 各部会の構成メンバーについて

- ① 空き家利活用部会
- ② ガイダンスセンター(資料館)を活用した観光PR部会
- ③ 花峯橋部会
- ④ 堀川運河周辺の周遊促進部会

1. 油津歴史文化遺産活用事業ワーキンググループの概要

油津歴史文化遺産活用事業ワーキンググループにおける各部会の役割としては、部会で議論を行い油津歴史文化遺産活用事業推進会議に報告・提案を行うほか、油津歴史文化遺産活用事業推進会議からの提言に基づき議論を行うものと思料

体制図



2. 各部会の構成メンバーについて

①空き家利活用部会

当部会は、空き家の利活用の専門家は充足している。他方、実際に当地で空き家を活用すると想される事業者の視点が不足しているため、以下に示した事業者を追加することで、より具体的な議論ができるものと思料

構成メンバー案(日南市様作成)

N o.	区分	所属団体名	所属団体役 職名	氏名
1	地域代表	日南市自治会連合会		
2	地域代表	油津地域協議会		
3	関係団体	日南商工会議所		
4	有識者(文化 財・建築)	鹿児島大学	教授	木方十根
5		＜空き家利活用実績を有する 企業＞		
6		＜不動産業者＞		
7		＜創業支援が行える人＞		
8	行政(市)	未来創生課		
9	行政(市)	生涯学習課		
10				

弊社意見

- 空き家利活用の具体的な出口となるような業態や知見を持つメンバーが必要であると考え、以下のようなメンバーの追加を提案します。
 - 宿泊や店舗、空き家を利活用するような事業者、団体(ひなたの宿の運営事業者レジヤークリエイトの様なイメージ)
 - 小規模宿泊事業
 - 観光業、古民家を使った飲食、イベント(飫肥婚活イベント)等を実施している事業者(大清観光の様なイメージ)
 - 飲食業協会(カフェや休憩場所)、キッチンカー事業を実施している事業者
 - 宿泊業協会

2. 各部会の構成メンバーについて

②ガイダンスセンター(資料館)を活用した観光PR部会

ガイダンスセンター活用の対外的な主目的は、歴史教育であるため、当部会のメンバーに市内の子ども達に近い大人や実態を把握している市役所の職員を追加することで、具体的な議論ができるものと思料

構成メンバー案(日南市様作成)

N. o.	区分	所属団体名	所属団体役職名	氏名
1	地域代表	日南市自治会連合会		
2	地域代表	油津地域協議会		
3	関係団体	日南商工会議所		
4	関係団体	(一社) 日南市観光協会		
5	関係団体	(一社) 宮崎県建築士会 日南支部		
6	有識者 (公共調達)	上智大学	教授	楠 茂樹
7	有識者 (観光・交通)	宮崎空港ビル(株)	取締役 営業部長	藤本 誠一
8	行政(市)	未来創生課		
9	行政(市)	観光・クルーズ振興課		
10				

弊社意見

- ガイダンスセンター(資料館)活用の1番の目的は、歴史教育の場にすることであると認識しています。実際に子どもと接している人や実態に精通している人を加えることで具体的な議論可能です。
 - 教員
 - 保護者会 (未就学児、小学校~高校)
 - 市役所職員(周囲からの見られ方や意見の偏りに留意)
- 追加の機能については、子どもや子育て世帯の声を拾っているアンケートの結果をインプットにするのが良いと考えています。

2. 各部会の構成メンバーについて

③花峯橋部会

当部会については、花峯橋の整備手法の検討と誘客に向けた機能・目的の検討の2つのテーマがあり、同一のメンバーで両方の議論を行うことは困難。対応案として、年度ごとに議論のテーマを分け、それに応じてメンバーを変更することが良いと思料。

構成メンバー案(日南市様作成)

No.	区分	所属団体名	所属団体役職名	氏名
1	有識者(土木史、土木遺産)	第一効果大学工学部	教授(社会・地域連携センター長)	本田 泰寛
2	有識者(木質構造デザイン工学)	東京大学生産技術研究所	教授	藤原 幹雄
3	有識者(地域計画・まちづくり)	(一社)地域力想像デザインセンター	代表理事	高尾 忠志
4	行政(市)	生涯学習課		

弊社意見

- 花峯橋については、①整備手法の検討、②誘客に向けた機能・目的の検討の2つの論点があります。専門性の観点から、当該2点を同一メンバーで検討することが難しいため、年度ごとにメンバーの変更を行うことが良いと思料します。

【令和6年度】

- ①建て替えの工法を議論
 - 現行のメンバーで実施

【令和7年度】

- ②周辺の周遊などを踏まえたハード面での利活用(駐車スペース、消費の喚起)を議論
 - モビリティを運営できそうな民間団体と車両整備事業者など
 - 交通法規面での対応等については、別途警察に確認

2. 各部会の構成メンバーについて

④堀川運河周辺の周遊促進部会

当部会については、ご提案いただいたメンバーで充足している。特に、チヨロ船保存会のような現地の現状を把握しているメンバーの意見は重要なものと思料。

構成メンバー案(日南市様作成)

N. o.	区分	所属団体名	所属団体役 職名	氏名
1	地域代表	日南市自治会連合会	会長	益田 政司
2	地域代表	油津地域協議会	まちづくり 部会	
3	関係団体	日南商工会議所	企画係長	
4	関係団体	(一社) 日南市観光協会	職員	
5	関係団体	(一社) 日南青年会議所	まちの魅力 発信委員会	
6	関係団体	油津チヨロ船保存会	事務局	松田 繁
7	有識者 (観光・交通)	宮崎交通(株) 旅行部	課長	
8	行政(県)	宮崎県油津港湾事務所 港営課	副主幹	
9	行政(市)	観光・クルーズ振興課	課長補佐	谷口 誠一郎
10				

弊社意見

- 頂戴した当初案に違和感は、ございません。
- 特に、堀川運河の現状について詳しく理解していると思われる、「チヨロ船保存会」の様な方のご意見は貴重なものであると思料します。

No.5 計画事業費の活用案

日南市 様

計画事業費の活用案

油津の歴史文化遺産を活用したまちづくりコーディネーター業務

2024年11月22日

株式会社NTTデータ経営研究所
金融政策コンサルティングユニット 地域公共政策チーム

1. 令和7年度予算編成について（再掲） 1／2

令和7年度の①水辺利活用事業②空き家活用事業について、事業費予算の活用先を検討するもの

(単位：千円)

事業費区分	予算事業名	予算事業名	担当課 (室)	節	細節	内容	事業費				
							1. 国交省への移行申請費	2. 事業費	3. R6	4. R7	5. R8
河野市空き家整備事業	河野市空き家整備事業(辺津文化遺産)	河野市空き家整備事業 (辺津文化遺産)	未来創造課 (分室) 建設課	委託料	調査設計等委託料	○ 目標時の休憩スペースとして活用(生産の活用方法により、施設の整備方針を決める。)	30,000	5,000	5,000	5,000	25,000
	工事請負費			工事請負費	工事請負費	○ 施設の緑化、景観への配慮		25,000	0		25,000
河野市空き家整備事業	河野市空き家整備事業(辺津文化遺産)	河野市空き家整備事業 (辺津文化遺産)	未来創造課 (分室) 総務マネジメント課 (運営) 生涯学習課	委託料	調査設計等委託料	○ 調査・劣化調査	240,000	4,000	4,000	96,000	96,000
	委託料			工事請負費	工事請負費	○ 基本的には原状回復		96,000			
水辺利活用促進事業 (体験創設等)	水辺利活用事業(辺津文化遺産)	水辺利活用事業 (辺津文化遺産)	観光・クルーズ振興課	委託料	体験メニュー開設委託	○ 観光客を対象に、水辺での体験観光に必要な道具等の購入、諸苦等(社会実験含む)	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000
	委託料			旅費	旅費	× 場川運河の水質調査		950	190		
水辺利活用促進事業 (体験創設等)	旅費			旅費	旅費	× 出典旅費		470	94	94	94
	雇用費			雇用費	雇用費	×		80	16	16	16
水辺利活用促進事業 (両辺住民)	旅費			アドバイザー委託	アドバイザー委託	○ 専門家に委託し、事業全体の運営等に対するアドバイス等を行なうコーディネーター業務 †事業全体のプロジェクトマネージャー的なイメージ	161,500	40,000	8,000	8,000	0
	雇用費			雇用費	雇用費	×		0			
水辺利活用促進事業 (両辺住民)	雇用費			VR開発委託	VR開発委託	○ 回遊を促進するために必要なリフト事業	20,000	20,000	10,000	10,000	10,000
	雇用費			周遊情報計画委託	周遊情報計画委託	○		20,000	10,000	10,000	10,000
市民活動に対する補助金交付	市民活動支援事業(辺津文化遺産)	市民活動支援事業 (辺津文化遺産)	未来創造課	負担金補助及び交付費	市民団体活動費補助金	○ 水質美化啓発活動、イベントの開催、新たな価値を生み出す活動等を行う団体へ補助 (※ 新たな価値を生み出す活動+文化振興会でのアート展示など)	5,000	5,000	1,000	3,000	0
	負担金補助及び交付費							0			
ガイダンスセンターの展示資料の整備	ガイダンスセンター整備事業(辺津文化遺産)	ガイダンスセンター整備事業 (辺津文化遺産)	未来創造課 (運営) 生涯学習課	備品購入費	備品購入費(歴史資料収集)	○ ガイダンスセンターに展示する資料収集経費	30,000	10,000	5,000	10,000	10,000
	備品購入費			備品購入費(ジオラマ製作)	備品購入費(ジオラマ製作)	○ ガイダンスセンターに設置するジオラマ製作		10,000			
官民連携による既存施設活用計画	備品購入費			備品購入費(歴史資料の購入)	備品購入費(歴史資料の購入)	○ ガイダンスセンターに展示する資料収集経費		10,000			
	旅館施設利活用事業(辺津文化遺産)			委託料	調査設計等委託料	○ 宿泊事業者による空き家活用が促進されるような仕組みづくりの検討	46,000	3,000	3,000	23,000	23,000
官民連携による既存施設活用計画	旅館費			旅館費	旅館費	○ 空き家の利活用推進のための運営体制検討会 委員謝金(年3回開催)	50,344	924	324	300	61
	旅費			旅費	旅費	○ 空き家の利活用推進のための運営体制検討会 委員謝金(年3回開催)		3,115	676	1,578	61
官民連携による既存施設活用計画	雇用費			雇用費	雇用費	×		305	61	61	61
								0			

出所：2024年11月19日日南市様資料より抜粋

①、②の活用先の検討

1. 令和7年度予算編成について（再掲） 2／2

令和7年度の①水辺利活用事業②空き家活用事業について、事業費予算の活用先を検討するもの

まちづくり計画の事業 まちづくり計画26・27Pより	R6年度の取組目標 まちづくり計画28・29Pより	R7年度の取組目標 まちづくり計画28・29Pより
ガイダンスセンター(資料館)整備事業 <ul style="list-style-type: none">・資料館の整備・歴史文化周知伝承事業・観光PR事業	<ul style="list-style-type: none">■ プロポーザル・実施設計■ 展示検討<input type="checkbox"/> 観光PR戦略の検討<input type="checkbox"/> 運営者の検討	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 改修工事<input type="checkbox"/> 展示品の購入、整備<input type="checkbox"/> HPの開設・運用、パンフレット検討<input type="checkbox"/> 運営者の選定
水辺利活用事業 <ul style="list-style-type: none">・花峯橋復元事業・体験型観光メニューの創設・専門家派遣・周遊促進事業	<ul style="list-style-type: none">■ 花峯橋解体工事、地盤・部材調査<input type="checkbox"/> 部会の設置(花峯橋、周遊促進)<input type="checkbox"/> 体験メニュー、周遊促進検討■ コーディネーター委託<input type="checkbox"/> 事前調査(水質検査)	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 実施設計<input type="checkbox"/> 部会の運営(花峯橋、周遊促進)<input type="checkbox"/> 体験メニュー創設、VR開発、周遊促進委託<input type="checkbox"/> コーディネーター委託
河野宗泰家活用事業 <ul style="list-style-type: none">・河野宗泰家主屋整備事業・河野宗泰家庭園整備事業・赤レンガ館整備事業	<ul style="list-style-type: none">■ 耐震・劣化調査<input type="checkbox"/> 主屋の利活用検討<input type="checkbox"/> 赤レンガ館の活用検討	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 実施設計<input type="checkbox"/> 赤レンガ館の活用検討
空き家活用事業 <ul style="list-style-type: none">・空き家(文化財・古民家)活用事業	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 部会の設置<input type="checkbox"/> 利活用促進の検討	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 部会の運営<input type="checkbox"/> 運営体制の構築委託
市民協働によるまちづくり検討 <ul style="list-style-type: none">・市民活動支援事業・まちづくり検討会の設置	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 市民活動支援事業要綱作成・補助金交付■ まちづくり検討会の設置	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 市民活動支援事業補助金交付<input type="checkbox"/> まちづくり検討会の運営<input type="checkbox"/> 市民フォーラムの開催
その他 <ul style="list-style-type: none">・地域住民や関係団体、行政との意見交換	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 油津歴史文化遺産活用事業推進会議との意見交換<input type="checkbox"/> 地域住民との意見交換	<p>予算編成は計画通り(第5回会議にて説明有) 企画内容については 今回別途説明</p>

出所：2024年11月19日日南市様資料より抜粋

2. ①水辺利活用事業の活用案

まちづくり計画に掲げる水辺利活用事業の令和7年度の取組目標のうち、①体験メニュー創設委託料70,000千円、VR開発委託料10,000千円、周遊促進委託料10,000千円について、予算活用先や費目、対象業務を以下の通り細分化した

水辺利活用事業の取組目標 「体験メニュー創設委託」活用先・対象業務の内訳

単位：千円

節	細節	内容／業務概要の内訳	事業費
工事請負費	工事請負費	体験メニュー創出におけるチヨロ船新造 1隻×30,000千円	30,000
修繕費	工事請負費	体験メニュー創出におけるチヨロ船の修繕・メンテナンス・道具 4隻×5,000千円	20,000
委託料	調査設計等委託料	水辺の遊歩道整備計画の検討 水辺の遊歩道基礎調査 安全性・可能性調査 整備計画の策定	10,000
委託料	調査設計等委託料	周遊プラン基礎調査検討 外部事例の調査分析 周遊プランの基礎調査 体験プランの検討	10,000
合計			70,000

水辺利活用事業の取組目標 「VR開発委託、周遊促進委託」活用先・対象業務の内訳

単位：千円

節	細節	内容／業務概要の内訳	事業費
委託料	VR開発委託	回遊を促進するために必要なソフト事業 ↓ 回遊促進策の導出にかかる調査・研究等の委託	10,000
委託料	周遊策検討委託料	移動手段の検討 実装手法の検討 運営手法・運営主体の検討 収益モデルの検討	10,000
合計			20,000

2. ②空き家利活用事業の活用案

まちづくり計画に掲げる空き家利活用事業の令和7年度の取組目標のうち、②運営体制の構築委託23,000千円について予算活用先や費目、対象業務を以下の通り細分化した

空き家利活用事業の取組目標 「運営体制の構築委託」活用先・対象業務の内訳

単位：千円

節	細節	内容／業務概要の内訳	事業費
委託料	調査設計等委託料	空き家利活用における調査研究 空き家利活用部会の運営支援 空き家の現況調査分析 空き家利活用のTo-Be像の導出 空き家の利活用事例調査 先進事例の委員視察の企画	23,000
		合計	23,000

No.6 【企画案】市民フォーラム

日南市様

【企画案】市民フォーラム

2024年11月22日

（株）NTTデータ経営研究所
金融政策コンサルティングユニット 地域公共政策チーム

市民フォーラムの趣旨整理

市民フォーラムの検討に向けては、まずは目的を定めるとともに、当該目的達成に必要な要素の整理を行いました

目的の整理

- 油津地区の新たなにぎわい創出に向けた市民の関心度向上
- 油津地区のまちづくりへの市民参画に向けた機運の醸成

目的達成に必要なコンテンツ

- 油津地区の歴史の再認識
- 油津地区の現状と課題の共有
- 油津地区に期待される機能（ハード／ソフト）の検討・導出

市民フォーラムの構成案

市民フォーラムの開催に向けては前ページで整理した目的に鑑み、以下のとおり構成案を検討いたしました。主催は貴市未来創生課様を想定しておりますが、運営そのものを市民活動団体に委ねることも一案です

プログラム(案)

1. 開会
2. 挨拶
3. 油津地区の歴史文化(説明)
4. 油津地区の現状と課題
5. まちづくり活動事例発表
 - 補助金活用団体
 - 中学生
6. 閉会

市民フォーラムの開催までのプロセス

市民フォーラムの事前準備から開催日当日までのプロセスを大きく3つに整理し、それぞれに必要なりソース(ヒト・モノ・カネ)の分配について導出しました

フォーラム準備から開催当日までのプロセスとリソースの分配

関係者調整

イベント周知

イベント実施

ヒト

①登壇依頼

- ・市民活動団体
- ・中学生(ワークショップ)

②アナウンサー依頼

③来賓依頼

モノ
(情報)

①チラシ作成・配布・掲示

- ・チラシ／ポスター

②広報紙掲載

③記者会への情報提供

④のぼり・横断幕作成

カネ

①謝金(あるいは記念品)

- ・登壇者／アナウンサー
／来賓

②委託料 *委託の場合

- ・フォーラム運営主体

イベント周知

イベント実施

①受付対応

- ・来場者対応の人員配置

②接待対応

- ・登壇者／アナウンサー／来賓

③誘導(駐車場ガードマン)

①参加者アンケート配布・回収

- ・油津への関心度／市民活動意欲

②参加者への粗品等の配布

- ・飲み物／粗品

③式次第作成

①消耗品費

- ・登壇者のお弁当／飲み物
- ・参加者への粗品等

②謝金

- ・駐車場の警備ガードマン

No.7 油津地区に関する保護者向けアンケート分析

日南市様

油津地区に関する保護者向けアンケート分析

2024年12月24日

株式会社 NTTデータ経営研究所

目次

1.属性質問

2.油津地区に関する質問

3.自由意見分析

調査概要

1. 調査の目的

油津地区が果たしている役割、不足する機能、ならびに期待されている機能について分析するもの

2. 調査方法

日南市内の保育所及び認定こども園等を通じて、調査票を配布し、Google formにて実施

3. 調査対象

お子様をお持ちの保護者

4. 実施期間

2024年10月16日～2024年10月30日

5. 調査項目

1. 属性質問（居住地区、性別、年代、お子様の年齢）
2. 油津地区に関する質問（訪問頻度、訪問日、訪問目的、交通手段、地区の魅力、必要な機能、期待する機能・サービスなど）
3. 油津地区に対する自由意見

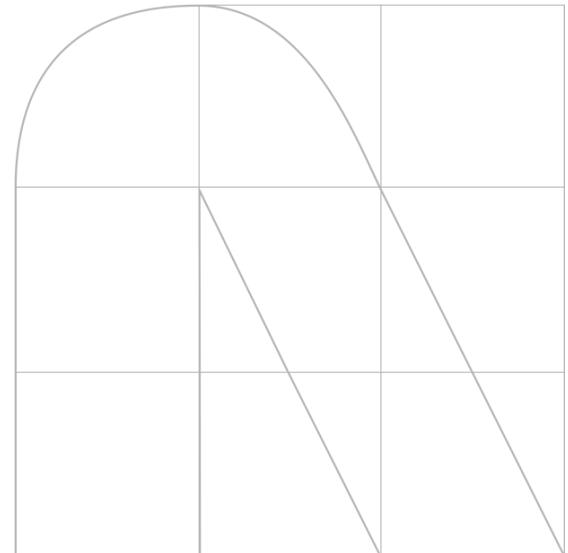
6. 取得サンプル数

サンプル475人（11月5日現在）

1

属性質問

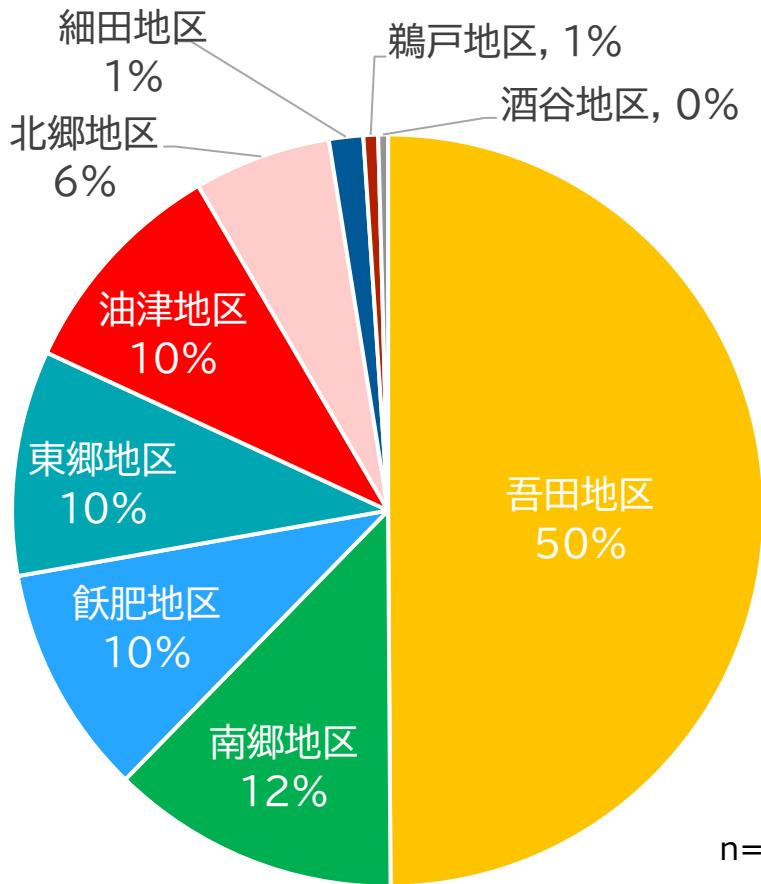
1. 居住地区
2. 年代
3. 子どもの年齢



1. 居住地区

日南市内の回答者のうち、「吾田地区」が50%と最も多く、次いで南郷地区が12%、飫肥地区・東郷地区・油津地区が10%となっており、調査地区である油津地区以外の方からの回答がほとんどを占めている

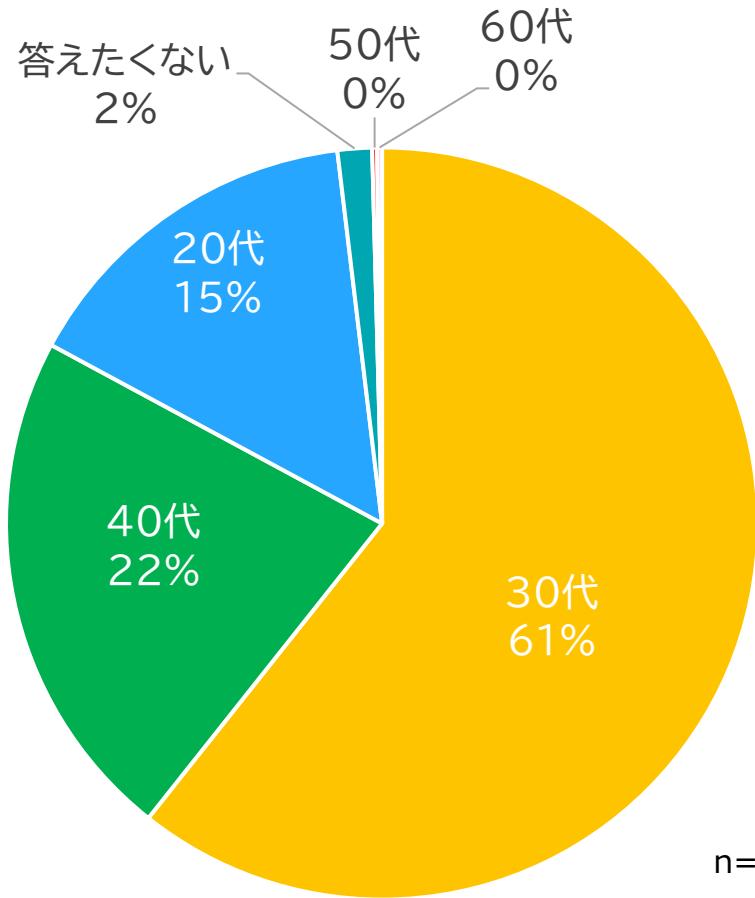
図1-1 居住地区について



2. 年代

回答者の年齢構成は「30代」が61%と全体の半数以上を占め、次いで「40代」は22%、「20代」が15%となって いる

図1-2 年代について

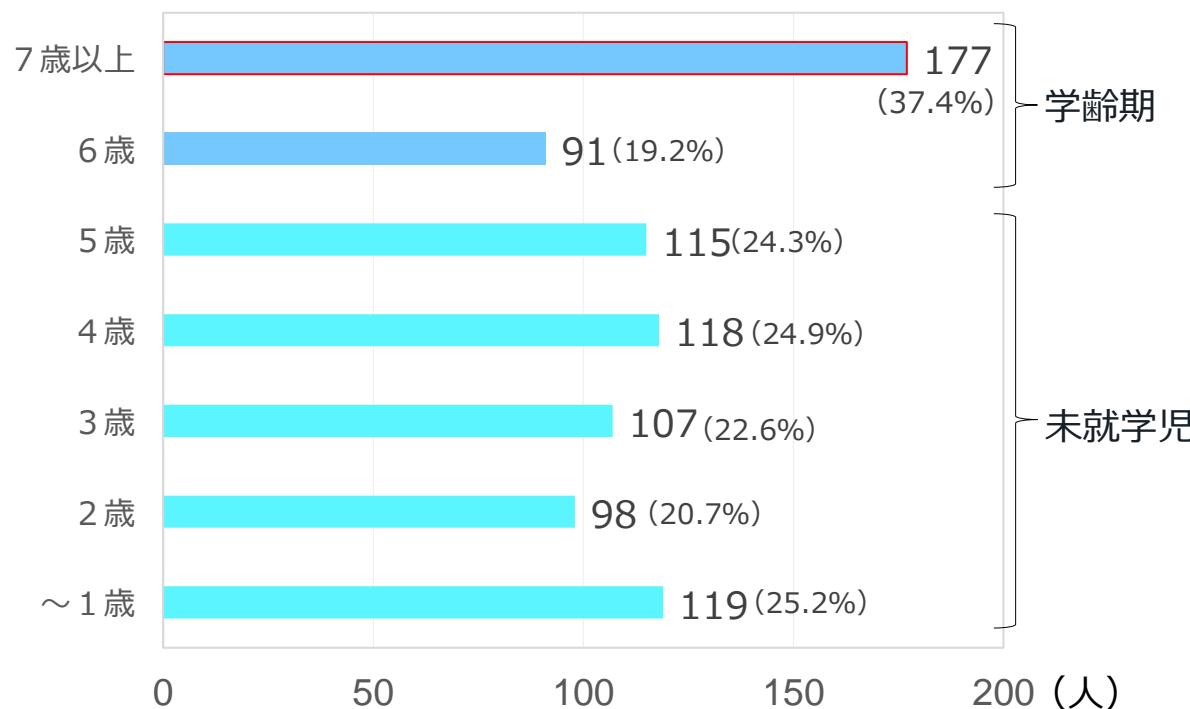


3. 子どもの年齢 —単純集計

未就学児をおもちの人の割合が高いと想定されるが、年代別では「7歳以上」をもつ方の回答が37.4%と最も高く、学齢期の子どもをもつ家庭も一定数みられる

図1-3 子どもの年代（複数回答※）

n=473



※2名以上のお子様をおもちの場合、該当するすべての年齢を回答

3. 子どもの年齢 —クロス集計

「6歳」と「7歳以上」の回答内訳をみると、学齢期の子どもをもつ方は229名(全体の48%)にのぼり、その内180名が未就学児もいる家庭であることが判明。日南市の子育て世帯には、未就学児と学齢期の子どもを同時に子育てする家庭も一定数いることから、子どもの成長に応じて長期的に利用できる機能設計が重要

図1-4 6歳の回答内訳 n=91

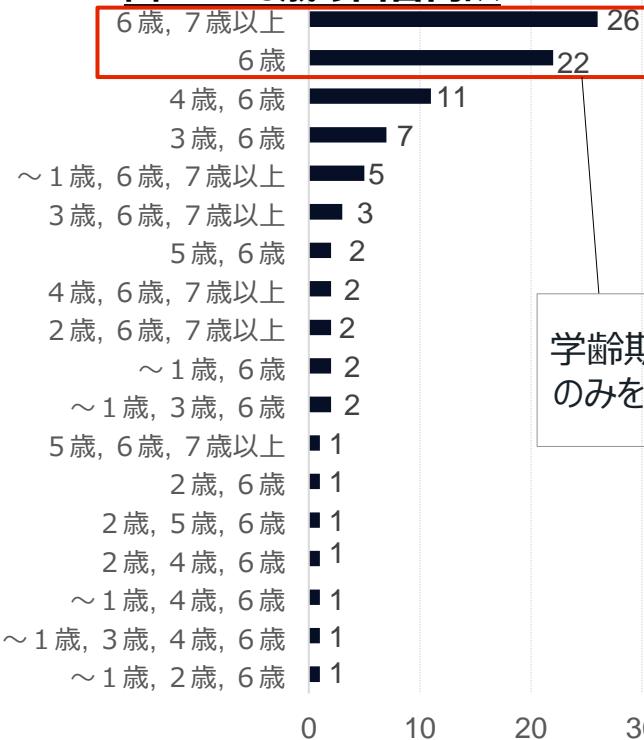
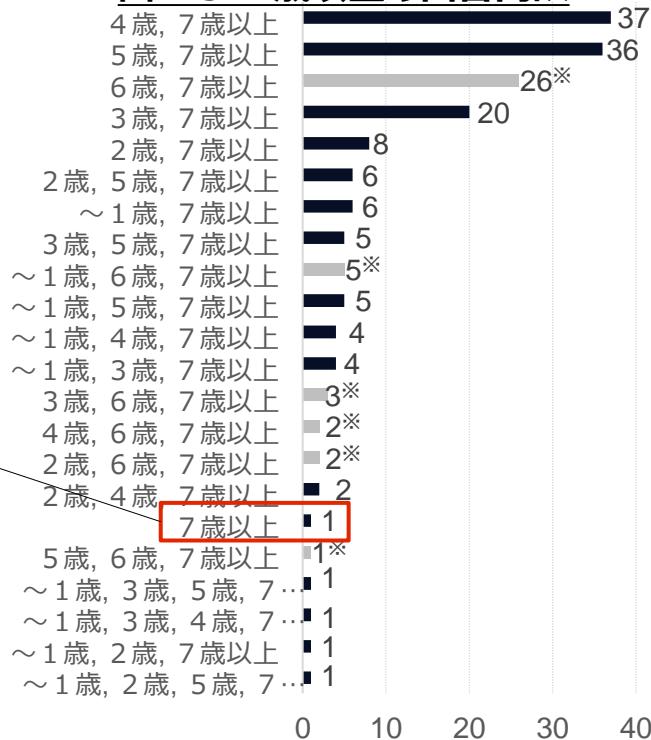


図1-5 7歳以上の回答内訳 n=177



- ✓ 6歳以上の学齢期の子どもをもつ方は229名*** (全体の48%)
- ✓ そのうち、未就学児もおもちの方が180名 (全体の37.8%)

未就学児と学齢期の子ども両方をもつ家庭が多い可能性があるため、長期的な利用ができる機能が重要

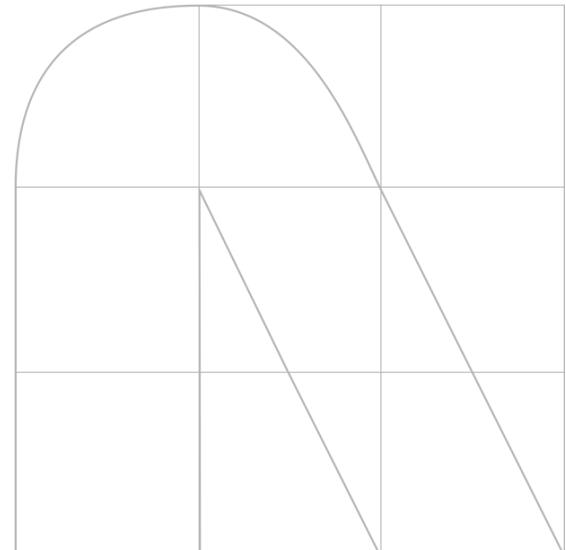
※n=(177-39)=138 「6歳」の回答との重複が39名

※※重複回答 (39人) を除く

2

油津地区に関する質問

1. 来訪頻度
2. 来訪日
3. 来訪目的
4. 交通手段
5. 魅力
6. 不足している機能
7. 期待する機能

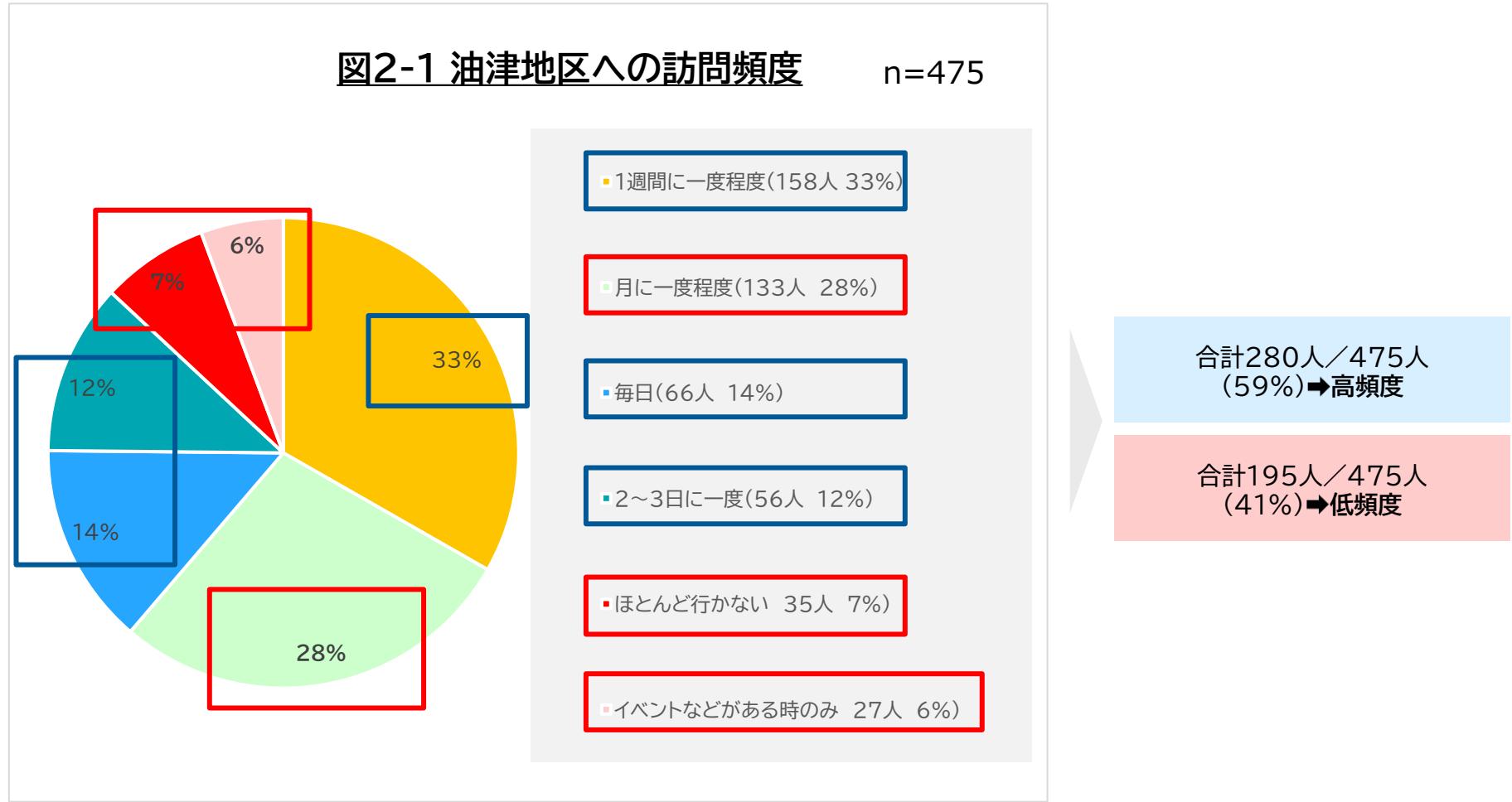


1. 油津地区への来訪頻度

－全体集計

「週に一度程度」来訪している人が33%と最も多く、次いで「月に一度程度」の回答が多い。来訪頻度が「1週間に一度程度」以上の人々は高頻度の利用、「月に一度程度」「イベントがあるとき」「ほとんど行かない」人は低頻度の利用に留まっているとすると、高頻度利用は59%、低頻度利用は41%と、高頻度層が半数以上を占めている

図2-1 油津地区への訪問頻度 n=475

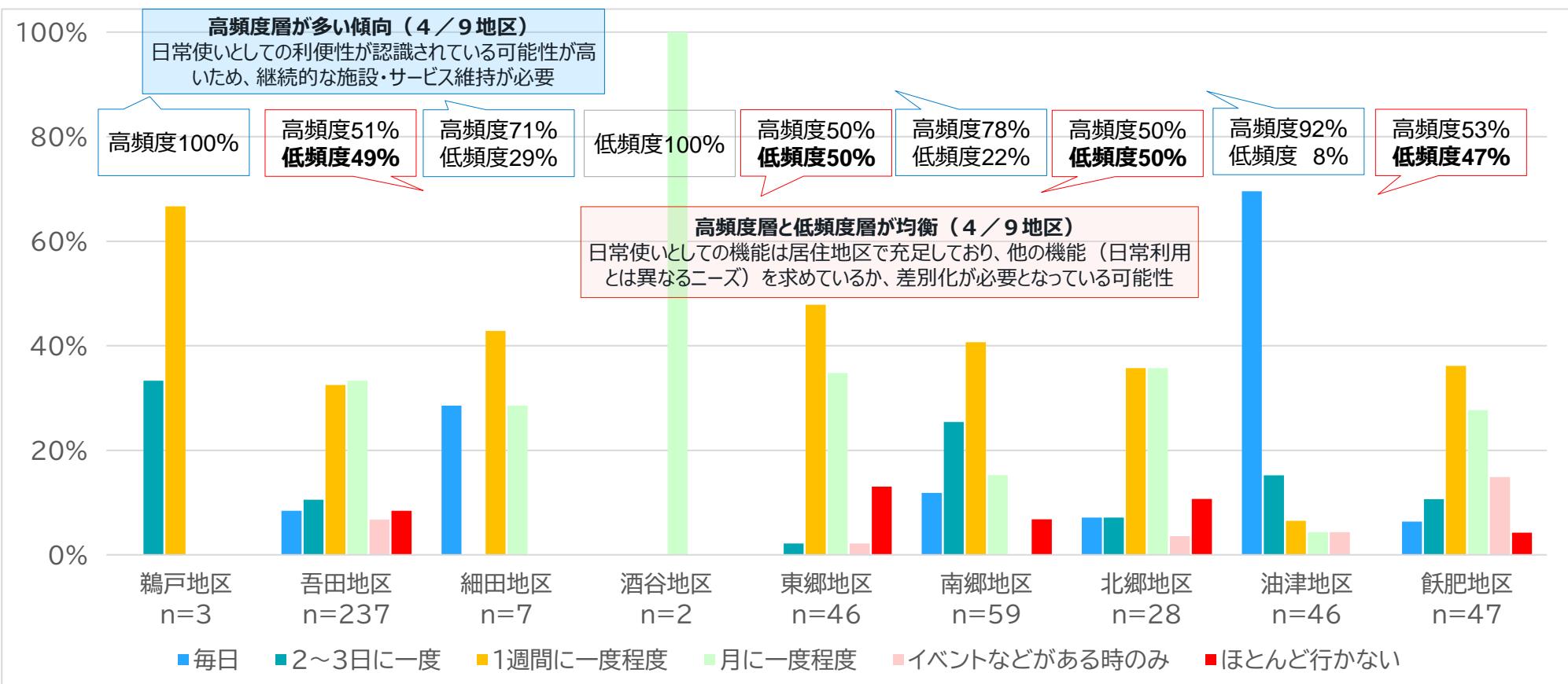


1. 油津地区への来訪頻度

— 地区別集計

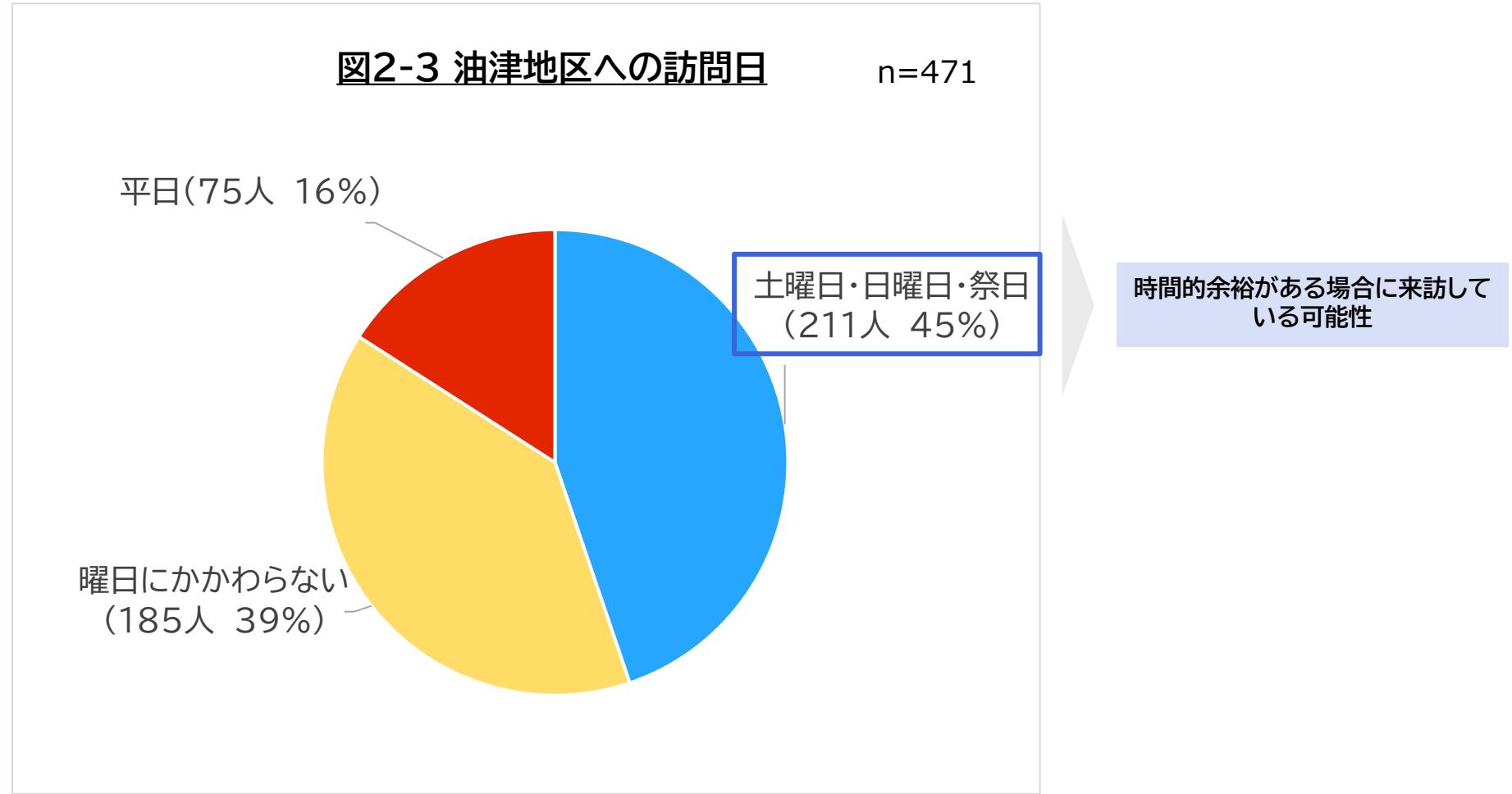
9地区のうち4地区が高頻度の来訪割合が多い一方、4地区では高頻度層と低頻度層の割合が均衡しており、地区ごとにはばらつきが見られる。この結果から、エリアごとに不足している要素に着目することが重要（p.14「利用目的」以降で詳細を捕捉）

図2-2 地区別にみた訪問頻度 n=475



2. 油津地区への来訪日 — 全体集計

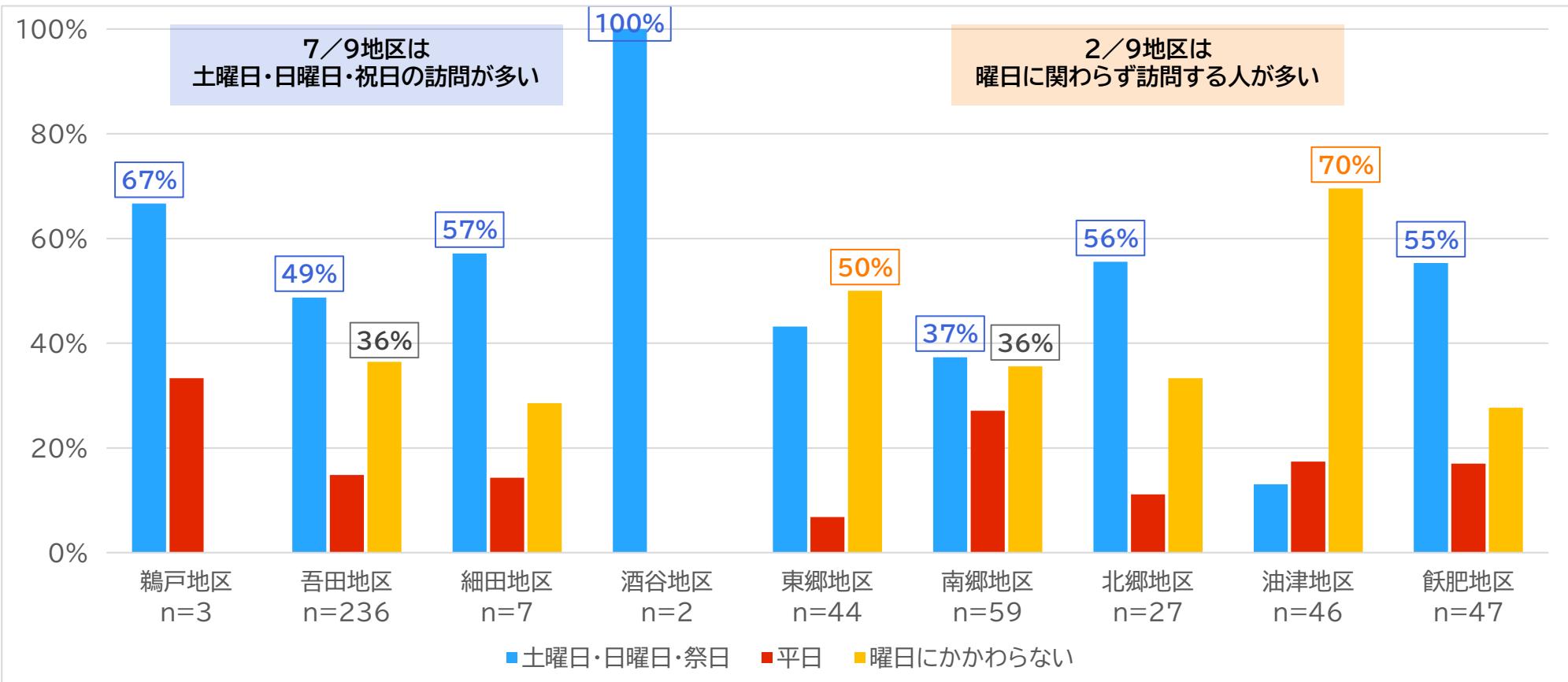
「土曜日・日曜日・祭日」の割合が45%と最も多く、次いで「曜日にかかわらない」人が39%、「平日」利用者については16%と続いている。土日・祝日が半数近いことから、比較的時間に余裕がある場合に来訪されている可能性が高い（P.14「利用目的」以降で詳細を捕捉）



2. 油津地区への来訪日 - 地区別集計

地区別では、7地区の人が土曜日・日曜日・祭日での訪問が多く、2地区の人が曜日を問わず利用する割合が高い。油津地区の人は曜日に関わらず訪問する人が多いため、他の地区のほとんどが土曜日・日曜日・祝日の訪問が多い

図2-4 地区別にみた訪問日

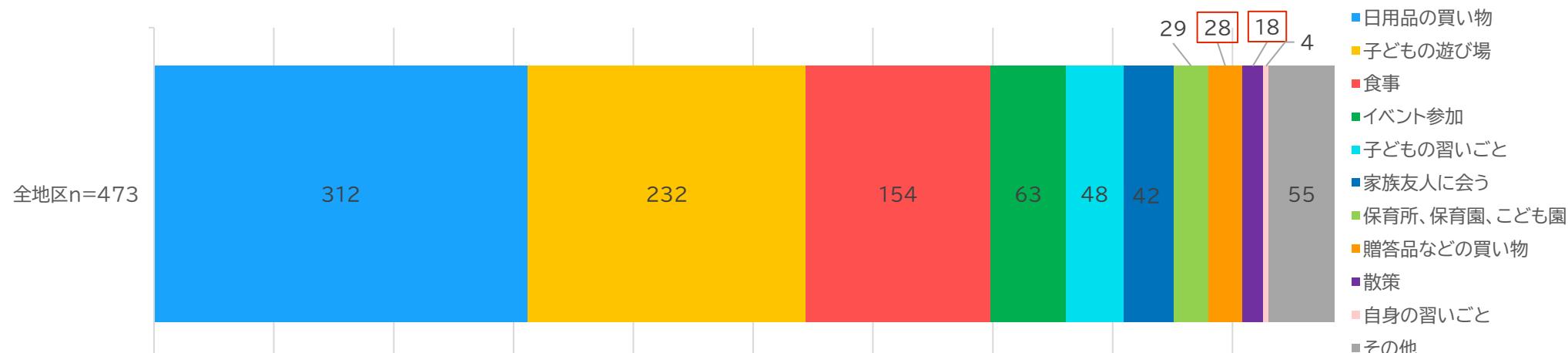


3. 油津地区への来訪目的

— 全体集計

「日用品の買い物」を目的に来訪する方が312人と最も多く、次いで「子どもの遊び場」、「食事」、「イベント参加」の順に回答が多い。「贈答品の買い物」「散策」などについては30人以下の回答に留まっており、これらの機能として認知されていないあるいは、別の地域でニーズを満たしている可能性が高い

油津地域来訪目的回答数※



その他の内訳 (上位10位)	回答数
仕事	19
病院	9
自宅	7
銀行	5
seria	1
イベント	1
ゲームセンター	1
ことこと	1
まなびピアの図書館	1
ランニング	1

3. 油津地域への来訪目的

— 鵜戸地区

鵜戸地区の人全員が、日用品の買い物を選択している。また、鵜戸地区からは1週間に1度の頻度で土日・祝日の来訪が最も多いことから、時間に比較的余裕がある週末に、油津地域にしかない買い物のニーズを満たしている可能性が高い。

油津地域来訪目的回答数※(鵜戸地区)

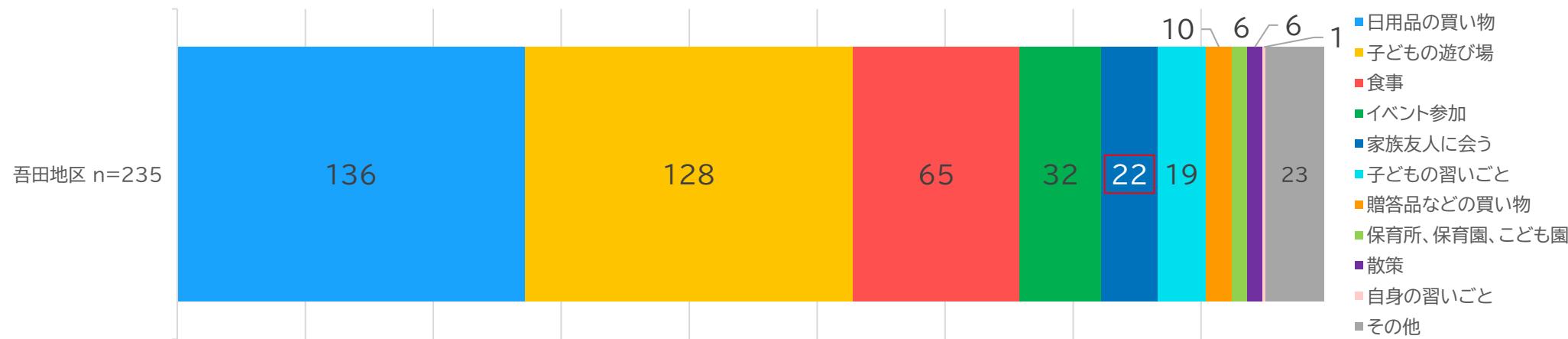


3. 油津地域への来訪目的

— 吾田地区

吾田地区では、半数以上が「日用品の買い物」、「子どもの遊び場」を目的に来訪している。また、「イベント参加」に次いで「家族友人に会う」回答数が多くなっており、全体と比較して違う傾向がみられる。一方、吾田地区から「月に一度程度」来訪される人が最も多いことから、吾田地区にある機能との差別化が必要と考えられる

油津地域来訪目的回答数※(吾田地区)



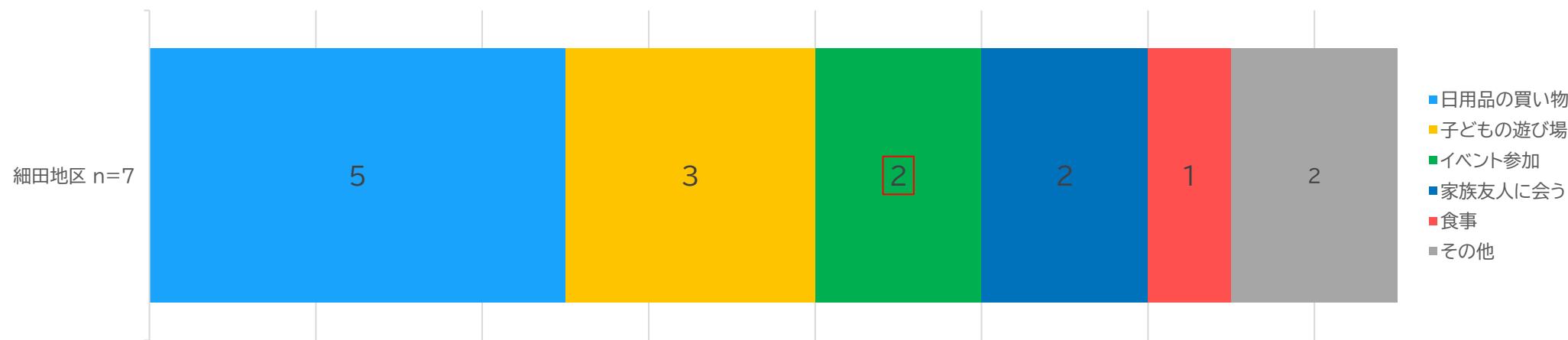
その他の内訳	回答数
仕事	11
病院	4
銀行	2
seria	1
ゲームセンター	1
海	1
子供の遊びの送迎	1
職場	1
整骨院	1

3. 油津地区への来訪目的

—細田地区

細田地区では、ほとんどの人が「日用品の買い物」、次いで「子どもの遊び場」の回答が多く全体の傾向と同様。一方、「イベント参加」や「家族友人に会う」回答は3番目に多く、全体の傾向と異なっている。細田地区の人にとっては油津地区ではイベントがあると認知されている可能性が高い

油津地区来訪目的回答数※(細田地区)



※複数回答あり

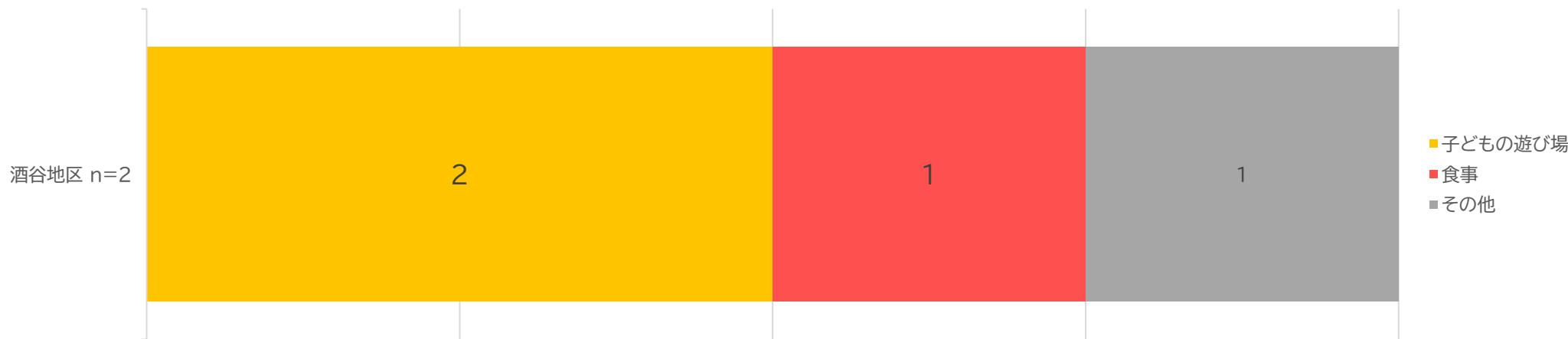
その他の内訳	回答数
仕事	2

3. 油津地区への来訪目的

— 酒谷地区

酒谷地区は、「子どもの遊び場」、「食事」、「図書館」のみの回答となっている。回答者数に留意が必要であるが、この結果から、油津地区へのニーズが限定されているか、別の地区を利用している可能性が高い

油津地区来訪目的回答数※(酒谷地区)



※複数回答あり

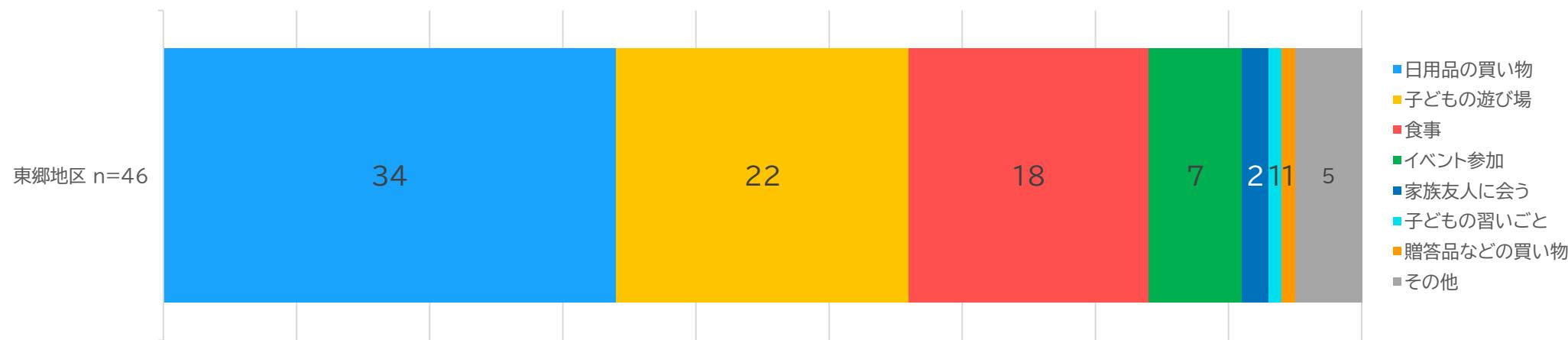
その他の内訳	回答数
まなびピアの図書館	1

3. 油津地区への来訪目的

— 東郷地区

東郷地区からは、「日用品の買い物」を目的に来訪する人が最も多く、次いで「子どもの遊び場」、「食事」が多い。東郷地区は来訪頻度が低い人の割合も高いことから、東郷地区にある機能との差別化が必要と考えられる

油津地区来訪目的回答数※(東郷地区)



※複数回答あり

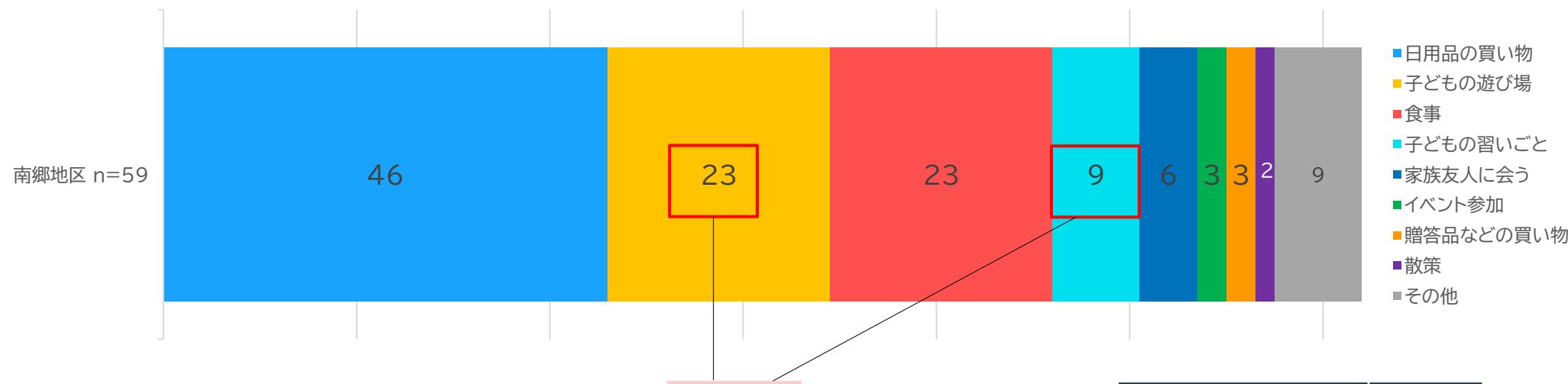
その他の内訳	回答数
銀行	2
ランニング	1
港	1
イベント	1

3. 油津地区への来訪目的

— 南郷地区

南郷地区からは、ほとんどの来訪目的が「日用品の買い物」と他地区と同様の傾向となっている一方、「子どもの習いごと」が上位に位置し、他の地区とは異なる傾向がみられる。この結果から、子どもへの教育・学習の場所として利用している傾向もみられる

油津地区来訪目的回答数※(南郷地区)



その他の内訳	回答数
仕事	3
病院	3
子供の病院	1
支援センター	1
美容院	1

3. 油津地区への来訪目的

— 北郷地区

北郷地区からは、多くの人が「日用品の買い物」を目的に来訪し、次いで「子どもの遊び場」、「食事」、「イベント参加」が多くなっている。北郷地区では「月に一程度」の訪問する割合が一番多いことから、北郷地区にある機能との差別化が必要と考えられる

油津地区来訪目的回答数※(北郷地区)



※複数回答あり

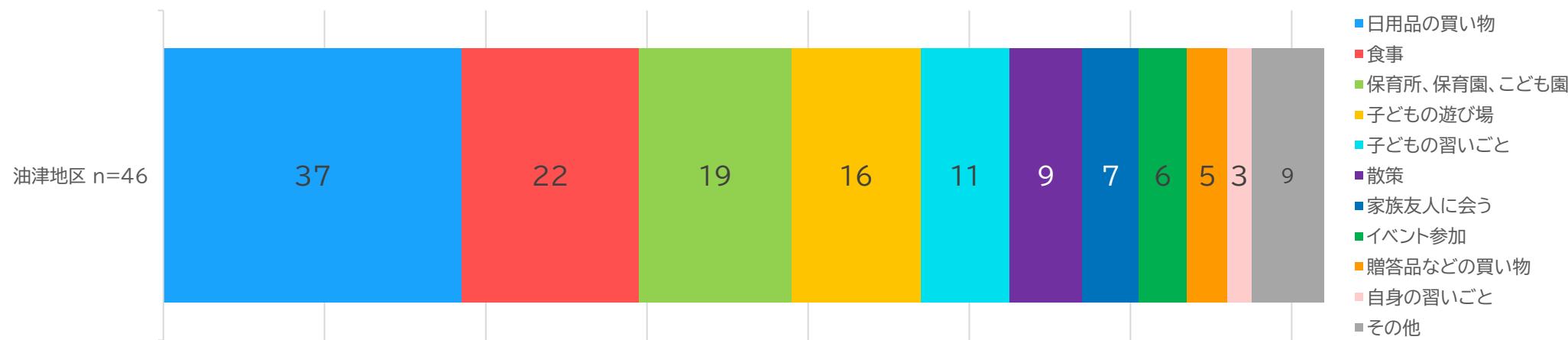
その他の内訳	回答数
ことこと	1
銀行	1
仕事	1
病院	1

3. 油津地区への来訪目的

— 油津地区

油津地区からは、「日用品の買い物」での利用が多い一方、それ以外の目的でも幅広く利用されている傾向が読み取れる。「その他」の内訳について特定の目的がないことからも、地元住民にとって地域内で機能が完結している可能性が高い

油津地区来訪目的回答数※(油津地区)



※複数回答あり

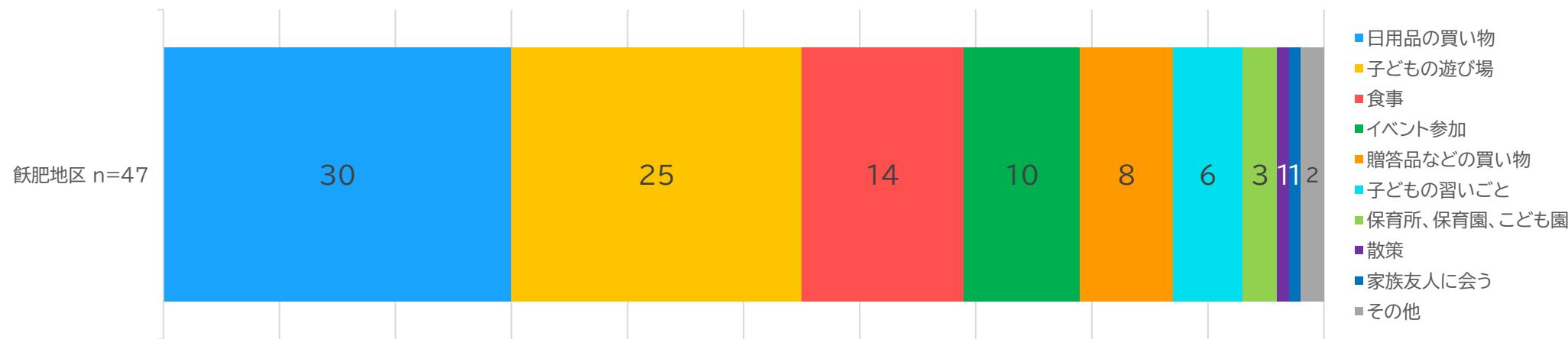
その他の内訳	回答数
自宅	7
仕事	1
犬の散歩	1

3. 油津地区への来訪目的

— 飫肥地区

飫肥地区では「日用品の買い物」、「子どもの遊び場」、「食事」「イベント参加」の回答数が多いのは全体割合と同様の傾向にある一方、「贈答品などの買い物」が多い傾向は飫肥地区にのみみられる。贈答品のニーズを油津地区で満たしている可能性が高い

油津地区来訪目的回答数※(飫肥地区)



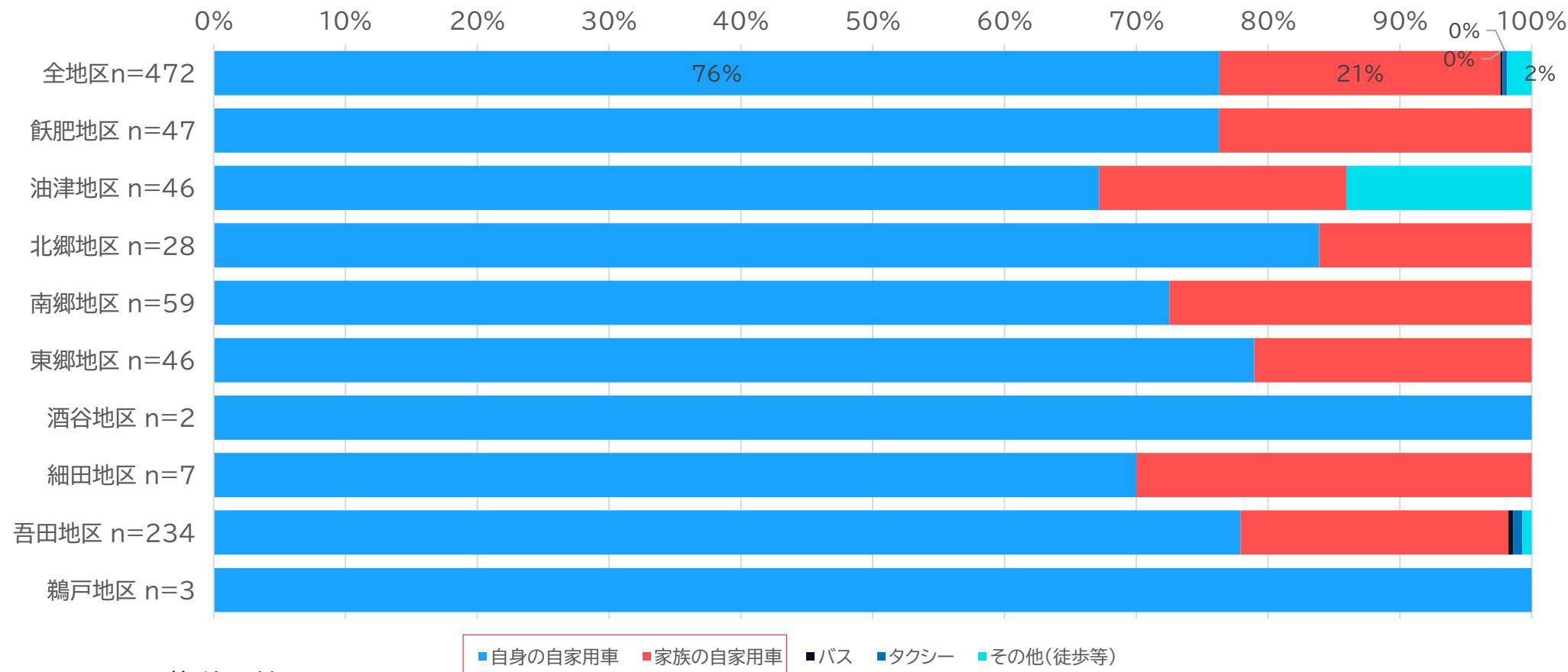
※複数回答あり

その他の内訳	回答数
仕事	1
病院	1

4. 油津地区への交通手段

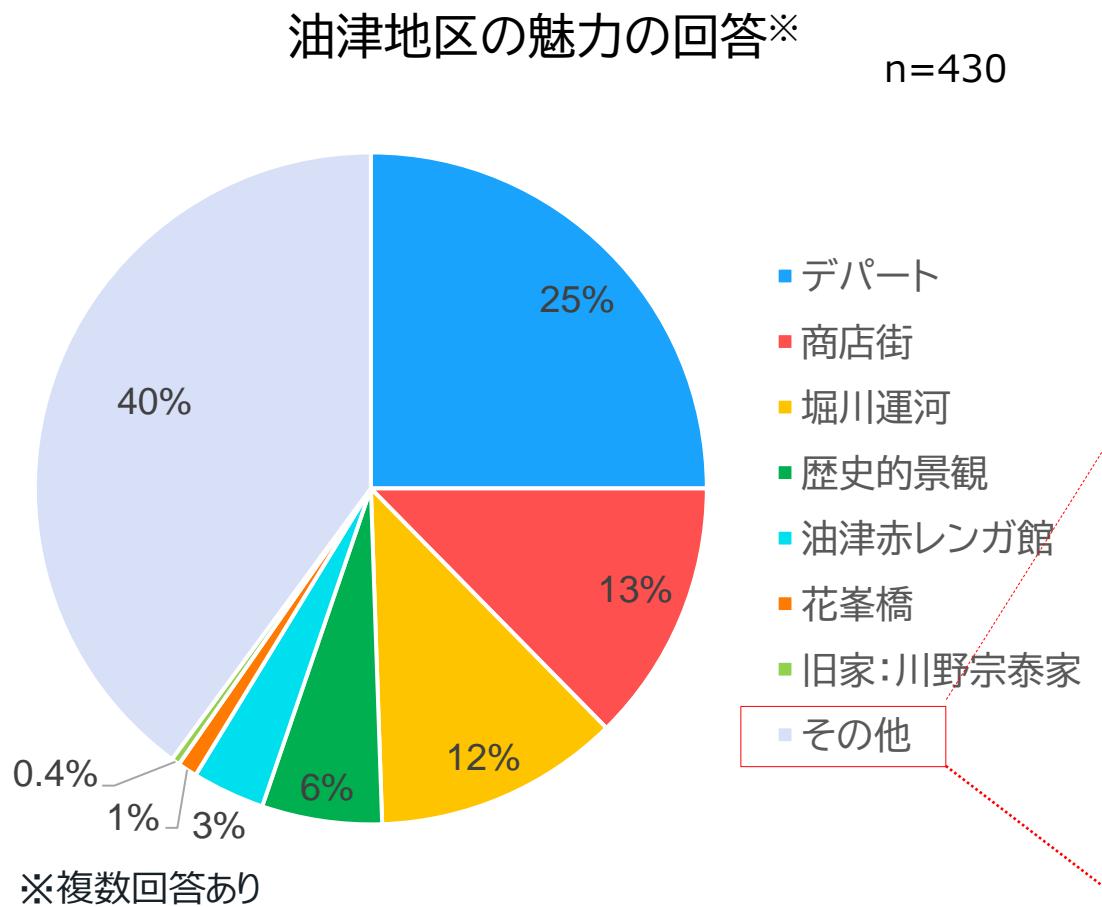
油津地区への交通手段を確認すると、ほとんどの地区から「自家用車」で来訪されていることが分かる

油津地区への交通手段※



5. 油津地区の魅力

市内住民から油津の魅力として、最も多いのが「デパート」、次いでその他の「堀川夢ひろば」に感じている人が多い



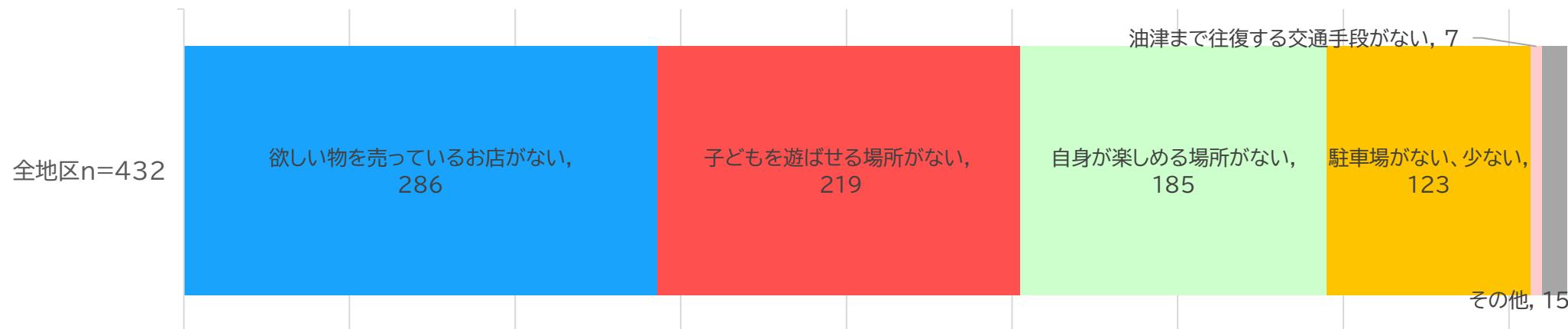
その他の回答内訳 (回答数297)

その他の内訳	回答数(全体の割合)
堀川夢ひろば	129(17.3%)
油津港	90(12.1%)
ことこと	23(3.1%)
特になし	21(2.8%)
サピア	4(0.5%)
ゲームセンター	3(0.4%)
ニトリ	3(0.4%)
カフェ	2(0.3%)
ボウリング場	2(0.3%)
レインボーカフェ	2(0.3%)
飲食店	2(0.3%)
スーパーの数	1(0.1%)
ダイレックス	1(0.1%)
海	1(0.1%)
自然豊かな場所	1(0.1%)
自宅	1(0.1%)
田村鮮魚店	1(0.1%)
買い物できるお店がある	1(0.1%)
油津駅	1(0.1%)
アーケード街	1(0.1%)
居酒屋	1(0.1%)
みうら (パン屋)	1(0.1%)
梅ヶ浜	1(0.1%)
港祭り	1(0.1%)
堀川運河	1(0.1%)
屋根付きの駐車場	1(0.1%)

6. 油津地区来訪への困りごと - 全体集計

訪問目的で「日用品の買い物」「子どもの遊び場」の割合が多かったにも関わらず、困りごととして「欲しいものを売っているお店がない」「子どもを遊ばせる場所がない」「自身が楽しめる場所がない」という回答が多くみられた。この結果から、来訪者に対する期待に合っていない可能性が高い。またアクセスに関する不満も多くみられた。

油津地区に対する困りごと※



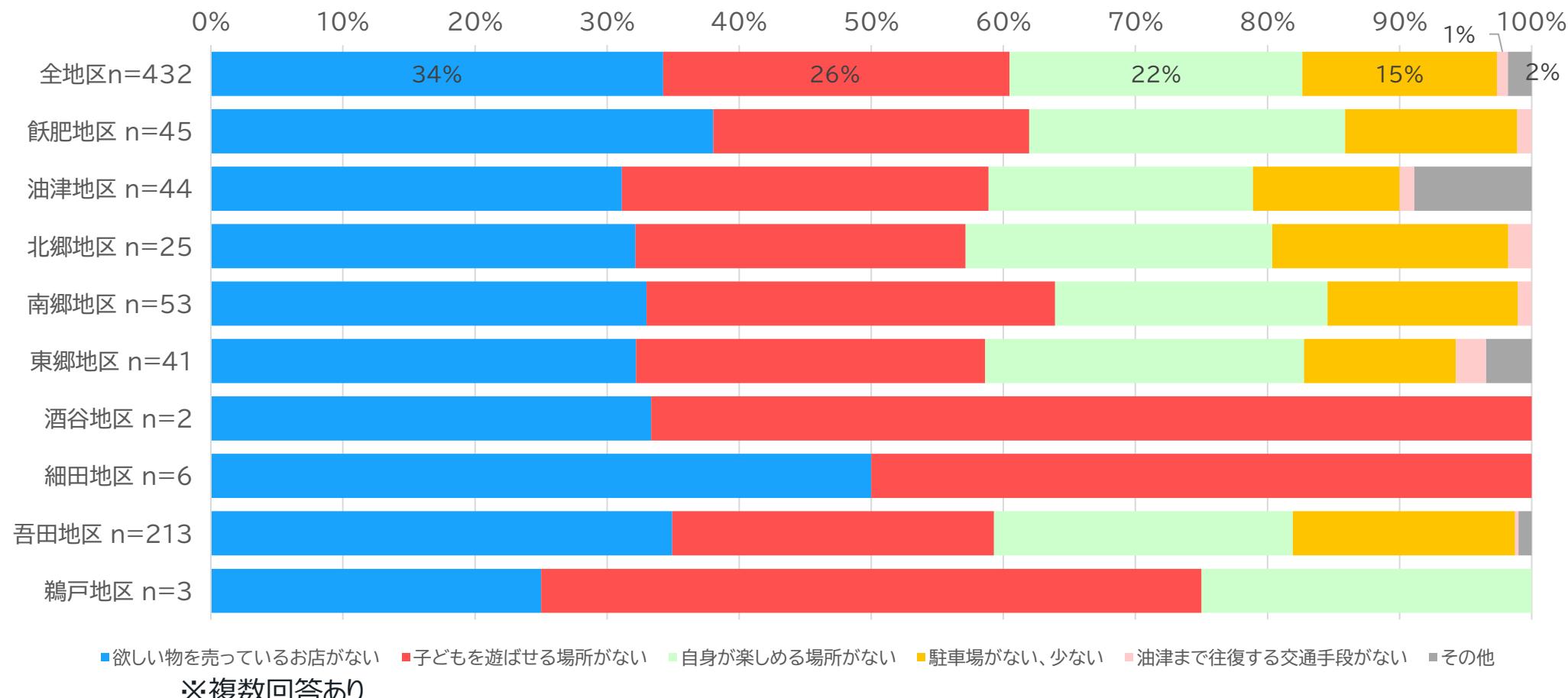
その他の記述	キーワード
子どもと一緒に食事ができるお店を増やしてほしい	食事
商店街の立体駐車場があるが施設を利用して割引があるがそれでも料金がかかってしまうこと。	駐車場
若者が集まれるコンテンツが無い	子どもの遊び場
お店自体少ない。スーパー、デパートなど閉店が早くて仕事帰りに利用できない。	日用品の買い物
飲食店の美味しいお店が少ない	食事
雨の日に子どもを遊ばせる所がない(小学校以上になるとことことでは物足りない)	子どもの遊び場
雨天時に遊べる場所が少ない	自身の楽しめる場
屋外で安心して遊ばせられる公園がない	子どもの遊び場
子連れの飲食店がない	食事
室内で遊ばせるところはあるが、公園が少ないと感じる。	子どもの遊び場
特になし（5件）	

※複数回答あり

6. 油津地区来訪への困りごと - 地区別集計

訪問目的で「日用品の買い物」「子どもの遊び場」の割合が多かったにも関わらず、困りごととして「欲しいものを売っているお店がない」「子どもを遊ばせる場所がない」「自身が楽しめる場所がない」という回答が多くみられた。この結果から、来訪者に対する期待に合っていない可能性が高い。またアクセスに関する不満も多くみられた。

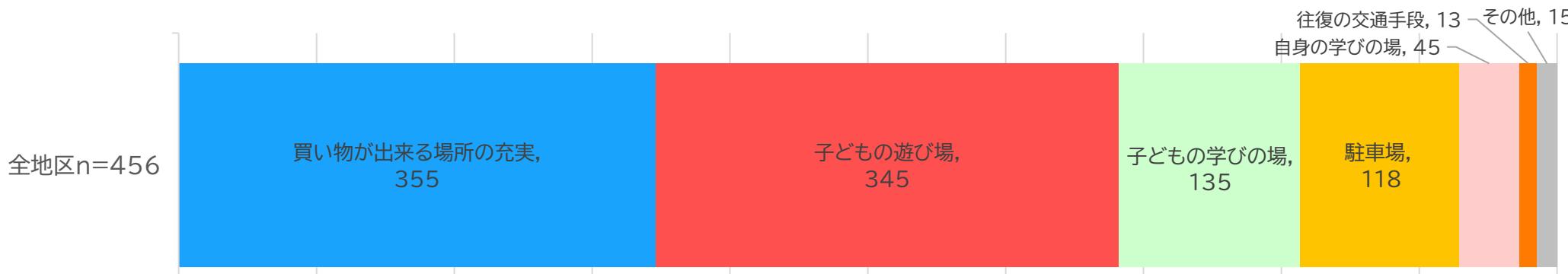
油津地区に対する困りごと※



7. 油津地区に整備してほしい施設・機能 —全体集計

今後整備してほしい施設、期待する機能として、「買い物ができる場所」「子どもの遊び場」が多く挙げられている。訪問目的と困りごとと同様に回答が多くなっていることから、買い物のできる場所、子どもの遊び場の充実を始めとする他地区との差別化が必要と考えられる

油津地区に期待する機能※



その他の記述

キーワード

産婦人科	産婦人科
わからない	—
商店街の屋根は雨の日に困ります	商店街
特にない	—
銀天街周辺の道路	道路
飲食店	食事
食事ができる所の充実（子供と行ける、ママ友ランチができるなど）	食事
子どもと一緒にでも安心なお食事何処を増やして欲しいです。	食事
子連れ飲食店	食事
自転車道路を整備して欲しい	道路
大型複合施設(高速道路が整備されたら可能性大)	商業施設（多様な機能）
人と人が繋がれる場所	交流拠点
ケンタッキー	食事
天候に関わらず子供が体を動かして遊べる施設。安全上、未就学児、小学生など分けて。楽しいものなら有料でも入る	子どもの遊び場
夜も子連れで入れる飲食店	食事

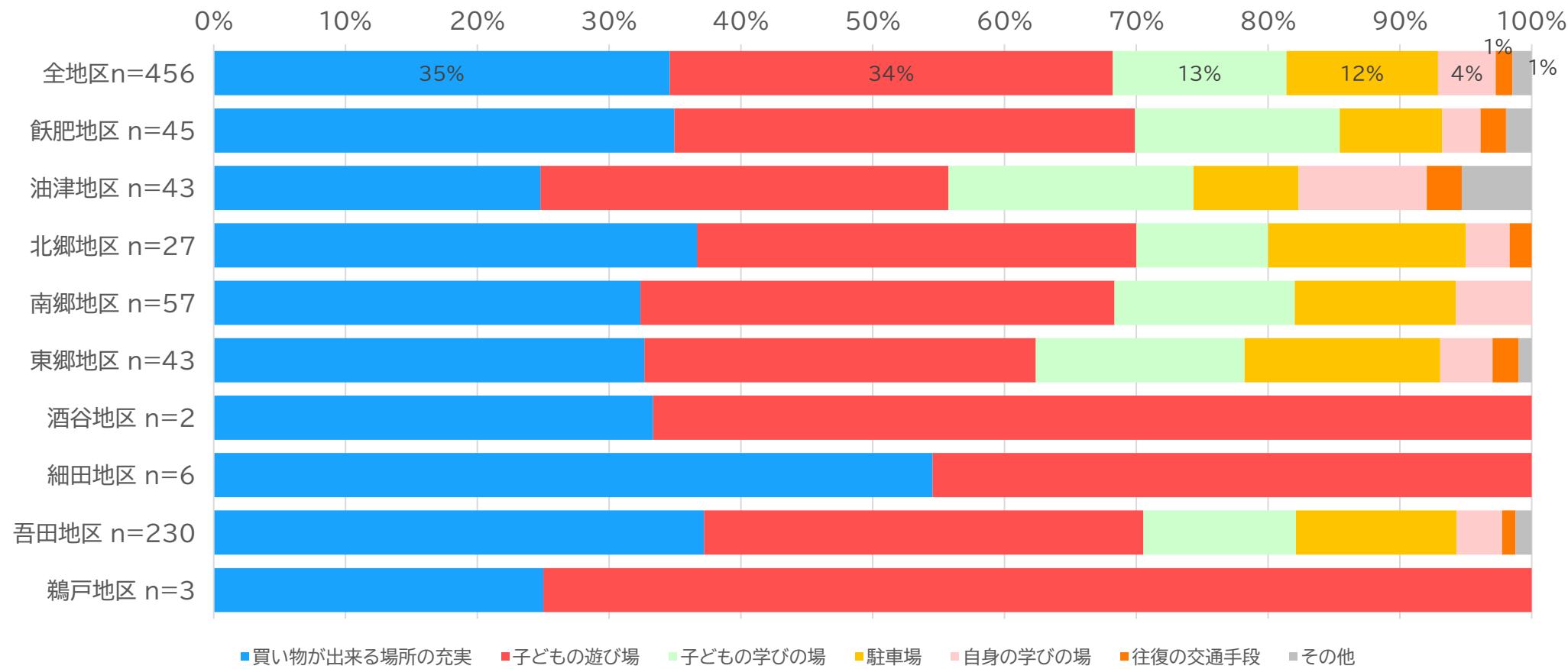
※複数回答あり

7. 油津地区に整備してほしい施設・機能・サービス

－地区別集計

今後整備してほしい施設、期待する機能として、「買い物ができる場所」「子どもの遊び場」が多く挙げられている。訪問目的と困りごとと同様に回答が多くなっていることから、買い物のできる場所、子どもの遊び場の充実を始めとする他地区との差別化が必要と考えられる

油津地区に期待する機能※

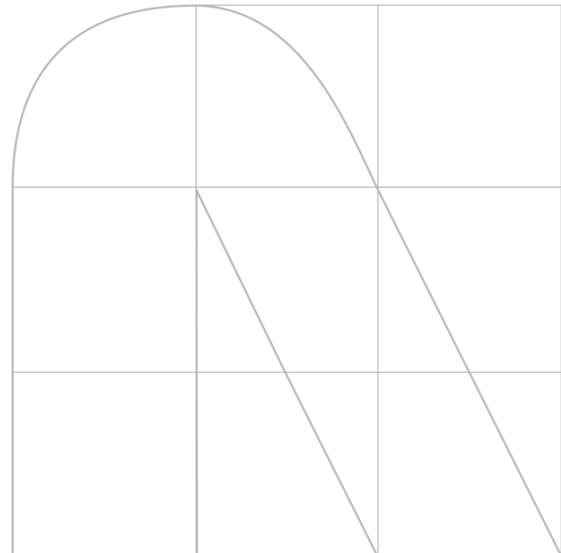


※複数回答あり

3

自由意見分析

1. 分析手法
2. カテゴリー分布分析
3. 感情傾向分析
4. 類似性意見抽出



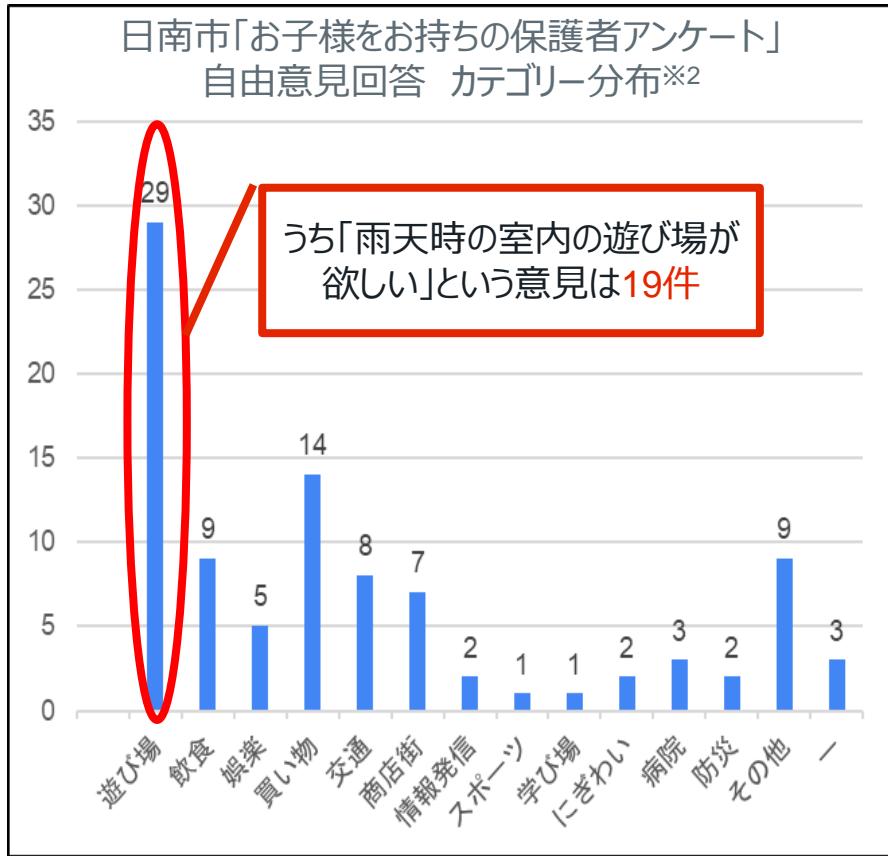
1. 分析手法

アンケートの設問（8）「その他、ご意見やお考えなどがありましたらお聞かせください」の自由回答について、テーマ別カテゴリ分布分析、感情傾向分析、意見類似性抽出の三つの分析手法を用いて、回答者の関心分野の傾向、意見のポジティブ・ネガティブ傾向、および意見の重複度や共通点を明らかにした



2. カテゴリー分布分析

カテゴリー分布では「遊び場」に関する意見が29件、「買い物」に関する意見が14件、「飲食」に関する意見が9件と多く見られた。「遊び場」に関する意見の中でも、室内の遊び場を求める声が19件と多く、回答者の関心度は高いと考えられる※



※ P26「油津地区への来訪に際して困りごとはありますか」の設問の回答にも、「買い物」「遊び場」等に関心が高いという同様の傾向がみられる。
※2 分析の都合上、一回答に複数意見が含まれる場合は、複数意見として件数を算出。

「遊び場」に関する意見 (29件)

【主な意見】

- ・ **屋内遊び場が欲しい**
- ・ **屋内の遊び場** (年齢別にわけてあるとなお良い) がないので、**雨の日の日南は本当に行くことすることができないので検討していただきたい**
- ・ **雨の日でもゆっくり遊び過ごせる施設が欲しいです**
- ・ **大きい遊具のある公園があれば行きたい**

「買い物」に関する意見 (14件)

【主な意見】

- ・ **大型商業施設を入れて欲しい**
- ・ **家族と一緒に過ごせるデパート、お店、遊び場が欲しいです**
- ・ **宮崎市内まで行かなくても洋服や買い物ができると市が活性化するのではないかと思います**

「飲食」に関する意見 (9件)

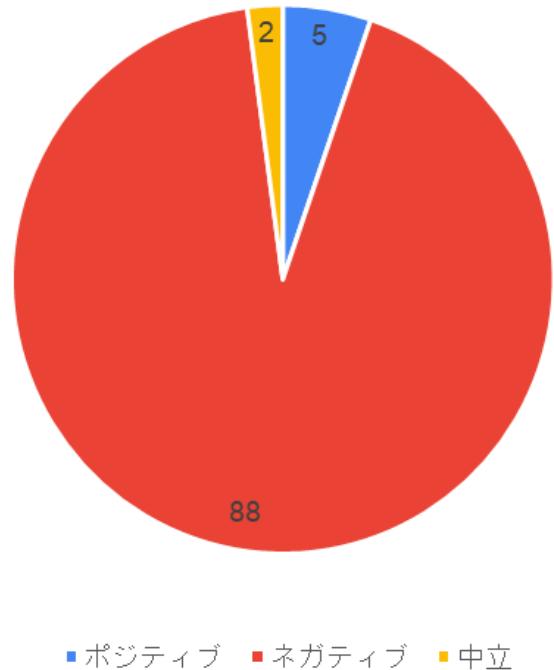
【主な意見】

- ・ **カフェ、ランチできる場所入れてほしい**
- ・ **せっかくことがあります、その後、子連れで気軽にかけるカフェやワクワクするような食事処がないのが残念**
- ・ **昔に比べて商店街にも行く人が少なくなったので、もう少し家族で食事が出来るところや遊べる場所を作ってほしい**

3. 感情傾向分析

感情傾向分析では、ポジティブ傾向の回答が5件、ネガティブ傾向の回答が88件、中立傾向の回答が2件であり、ポジティブ傾向の回答には、「山形屋があることが助かる」、「油津にはコトコトなどあって充実している」などの意見がみられた ※参考：P21 「油津地区の魅力として何がありますか」の設問の回答にも、25%が「デパート」と回答

日南市「お子様をお持ちの保護者アンケート」
自由意見回答 感情傾向分析※2



ポジティブ傾向意見 5件

【主な意見】

- ・ **山形屋が日南市内にあることがとても助かります。**贈答品やちょっと贅沢なものを買える唯一の場所なので潰れないようにお願いしたいです
- ・ **油津にはコトコトなどあって充実している**

ネガティブ傾向意見 88件

【主な意見】

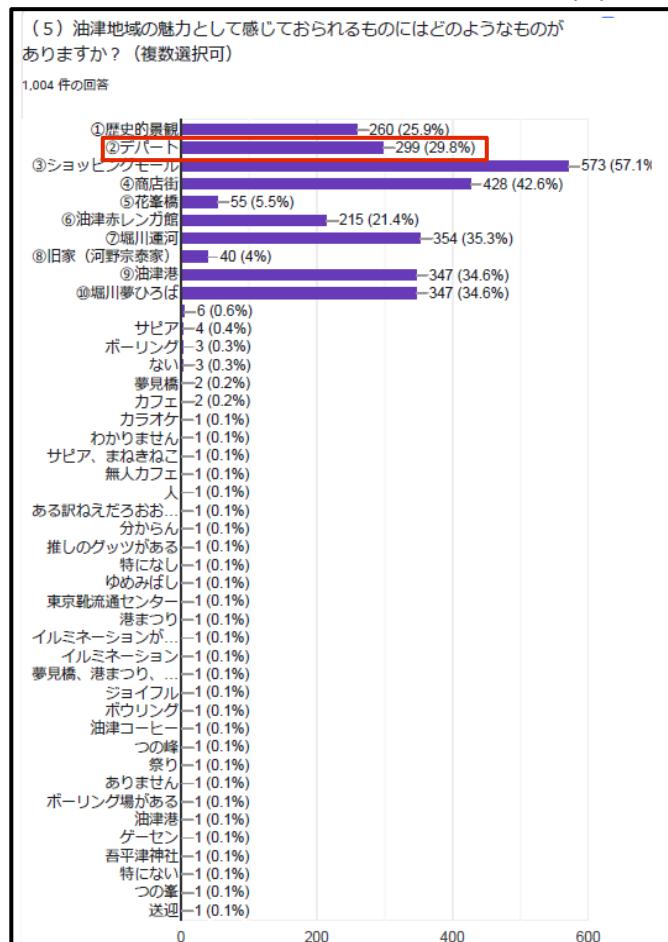
- ・ **油津商店街がイベント時以外、がらんとしていて、子供を連れて歩くにはかなり寂しさを感じます**
- ・ (前の設問で) 油津の魅力を複数あげましたが、**もう少し街全体が賑わっていると魅力的に感じる**と思う

※2 分析の都合上、一回答に複数意見が含まれる場合は、複数意見として件数を算出。

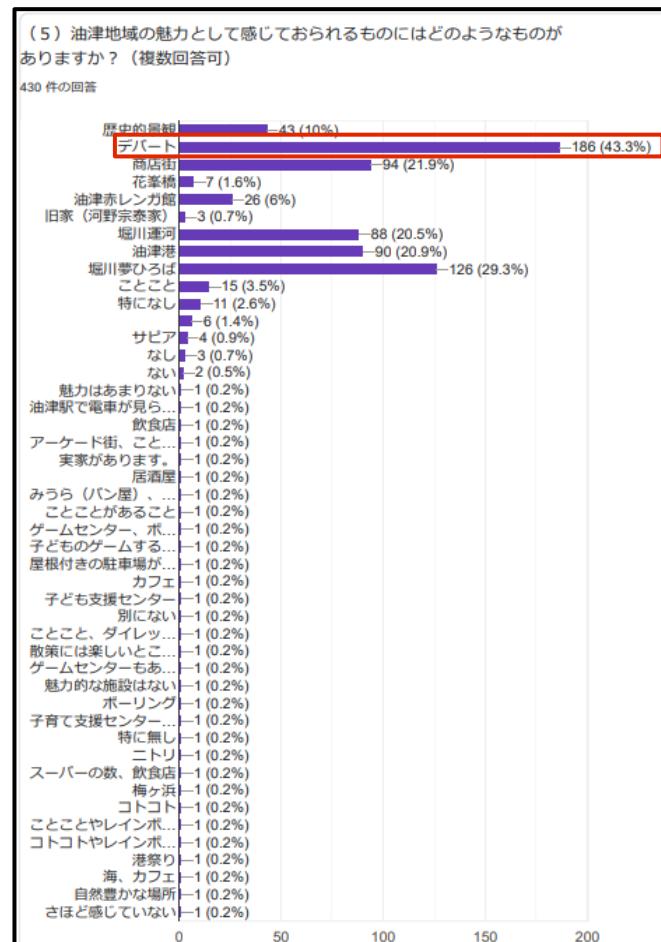
2. 感情傾向分析 ~ (参考) 油津地区の魅力としての「デパート」

ポジティブ傾向の回答として意見のあった、「山形屋があることが助かる」について、同アンケート及び、日南市「中学生向けアンケート」設問(5)「油津地区の魅力として感じておられるものにどのようなものがありますか?」の回答の傾向からも、同様に多くの人が「デパート」を油津地区の魅力と感じていることが伺える

日南市「中学生向けアンケート」 設問(5)回答



日南市「お子様をお持ちの保護者アンケート」 設問(5)回答



4. 類似性意見抽出

類似している意見で多かった意見は「成長過程に合わせた遊び場が欲しい（9件）」「子連れで行ける飲食店が欲しい（6件）」「公園が欲しい（6件）」「商店街の屋根を補修してほしい（4件）」の四つ。「ことこと」の対象年齢と異なるこどもたちの遊び場を望む声が多く見られた※

成長過程に合わせた遊び場が欲しい（9件）

【主な意見】

- ・ 小さい子連れにはことことがあるのでよいが、小学生以上は遊べない。小学生でも遊べる室内施設があるとよいと思う
- ・ 子育て支援センターでは子どもがもっと小さい頃にお世話になつてました。3歳、4歳になった今では物足りなさを感じます
- ・ 油津だけでなく、他の地区にも同様に、子供達が遊べる施設など、小さい子から大きい子まで大人も遊べるアスレチックなど、他の県からも足を運んで来るような所を増やして欲しいです。ゴーカードや草スキーなどあるといいなと思います

商店街の屋根を補修してほしい（3件）

【主な意見】

- ・ 山形屋裏の商店街も屋根を修理してくれたら雨の日も行きやすいなあと思います
- ・ 商店街の屋根の修復、商店街の店舗を借りる方が自由にリノベ、DIYでき、家賃を低く設定していただけたらもっと商店街も活気づく気がします

公園が欲しい（6件）

【主な意見】

- ・ 低料金（300円くらい）で利用できる室内公園（わんぱく公園くらい遊具があるもの）がほしいです
- ・ 油津にも北郷道の駅みたいな公園を作つてほしい
- ・ 油津の中心地にもわんぱく公園のような規模の公園があればいいなと思うことはあります

子連れで行ける飲食店が欲しい（6件）

【主な意見】

- ・ ママ友や子どもとゆっくりランチするお店が増えるといいなと思います
- ・ せっかくことがあります、その後、子連れで気軽に行けるカフェやワクワクするような食事処がないのが残念
- ・ 子連れでも行きやすいおしゃれなカフェ作つてほしい
- ・ もう少し家族で食事が出来るとこや遊べる場所を作つてほしい

※ 分析の都合上、一回答に複数意見が含まれる場合は、複数意見として件数を算出。

No.8 建設費用の高騰を受けた公共事業の入札への影響

日南市様

建設費用の高騰を受けた 公共事業の入札への影響

2024年1月29日

株式会社NTTデータ経営研究所

目次

1. 昨今の建設費用をめぐる動向
2. コスト高となっている要因
 - ①人件費の高騰
 - ②資材価格の高騰
 - ③円安
3. 実際に入札不調により工事が実施できなくなった事例
4. まとめ

1. 昨今の建設費用をめぐる動向

国土交通省が公表している建設工事費デフレーター※における、2015年以降の建設工事費の推移をみると、上昇傾向であることがわかる。2024年度は、月次ベースでみると横ばいで推移しているものの、依然として高い水準にある

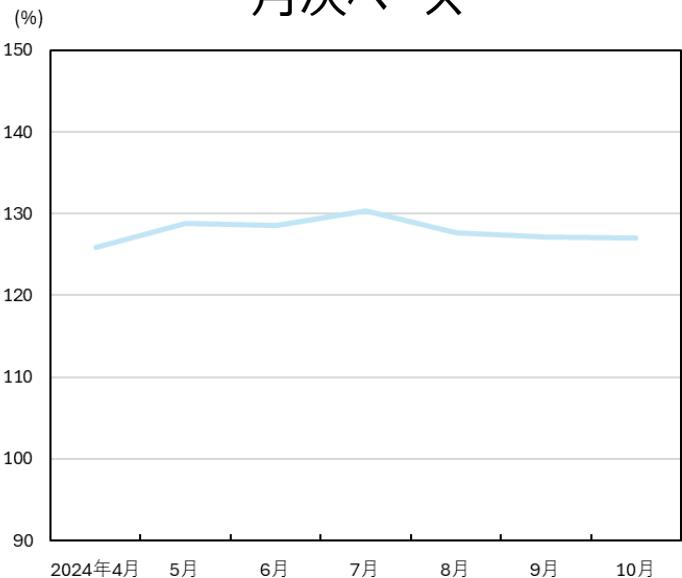
※国内の建設工事全般を対象として、建設工事にかかる名目工事費を基準年度の実質額に変換することを目的に国土交通省が作成・公表している指標

建設工事費デフレーター(2015年基準)

年度ベース



月次ベース



出典：国土交通省「建設工事費デフレーター」

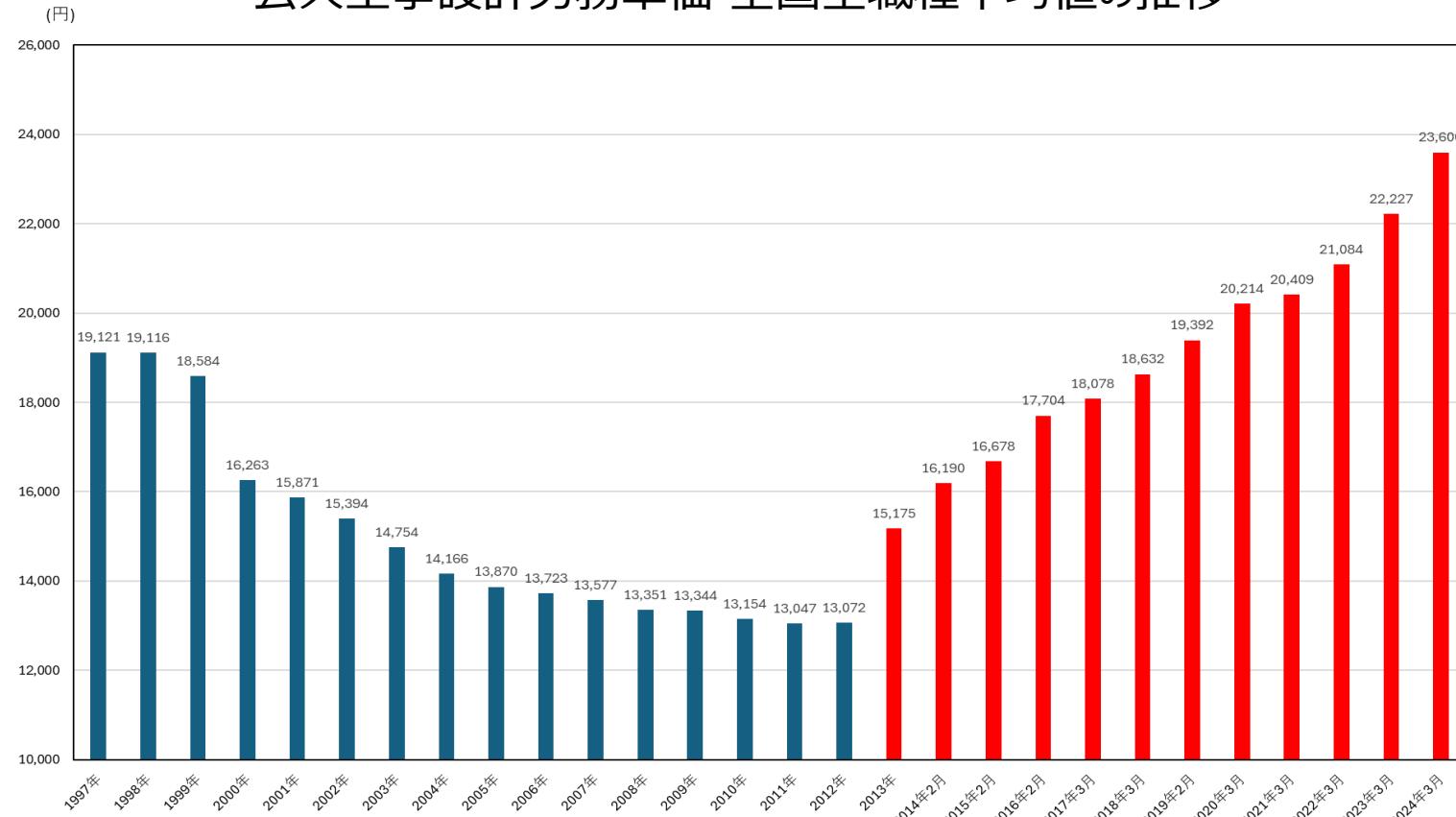
2. コスト高となっている要因

① 人件費の高騰

国土交通省が公表している公共工事設計労務単価※をみると、2013年以降上昇が継続しており、極めて高い水準となっている

※公共工事に従事する労働者の賃金単価の目安であり、施主が公共工事を発注する際に工事費の算出に使用される建設労働者の単価

公共工事設計労務単価 全国全職種平均値の推移



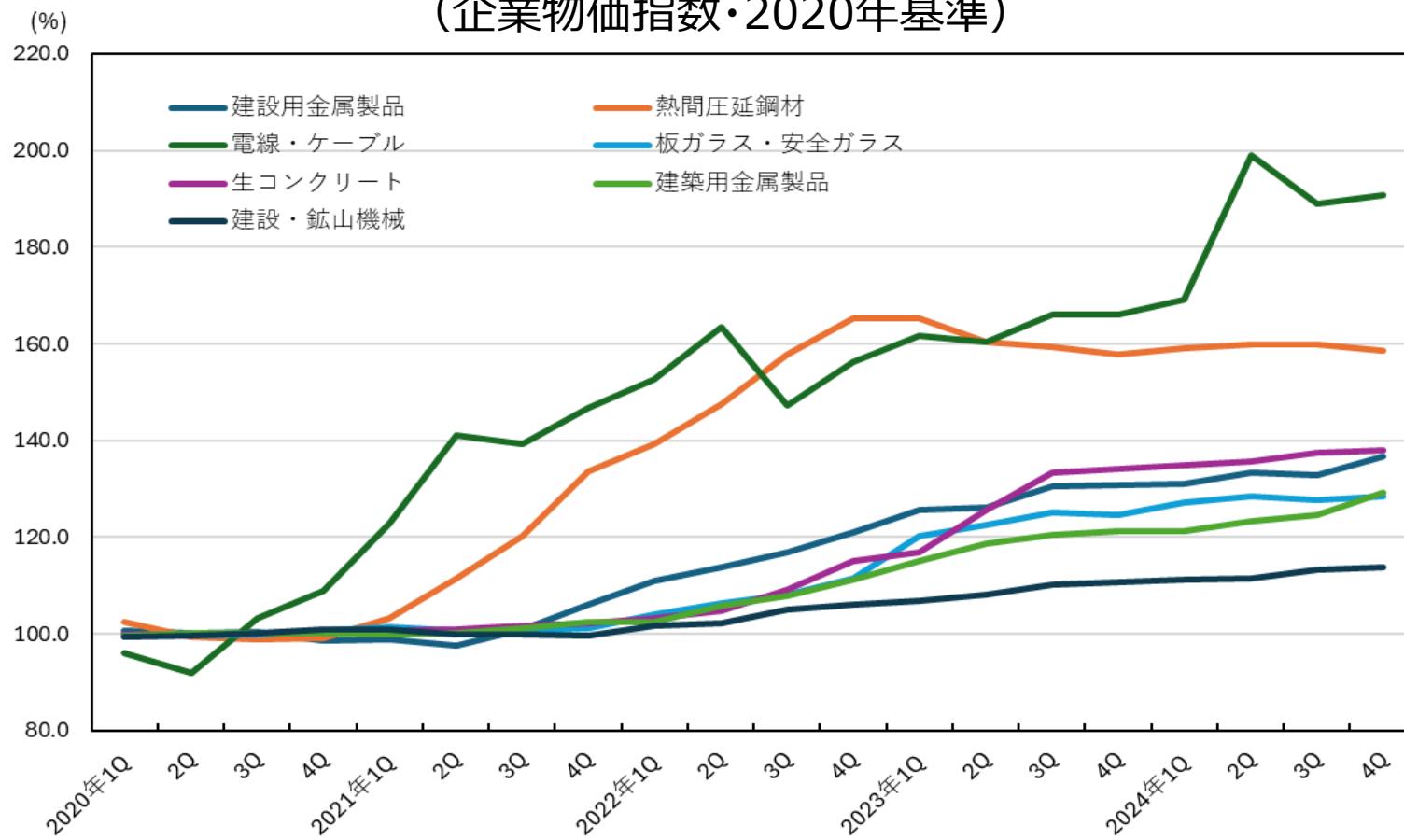
出典：国土交通省「令和6年3月から適用する公共工事設計労務単価について」

2. コスト高となっている要因

②資材価格の高騰

日本銀行が公表している企業物価指数より、建設に関する項目を抜粋した。基準となっている2020年以降の動向をみると、いずれも上昇トレンドにある。2024年入り後は、電線・ケーブルを除き価格の上昇は一服した様に見えるが、依然として高い水準にある

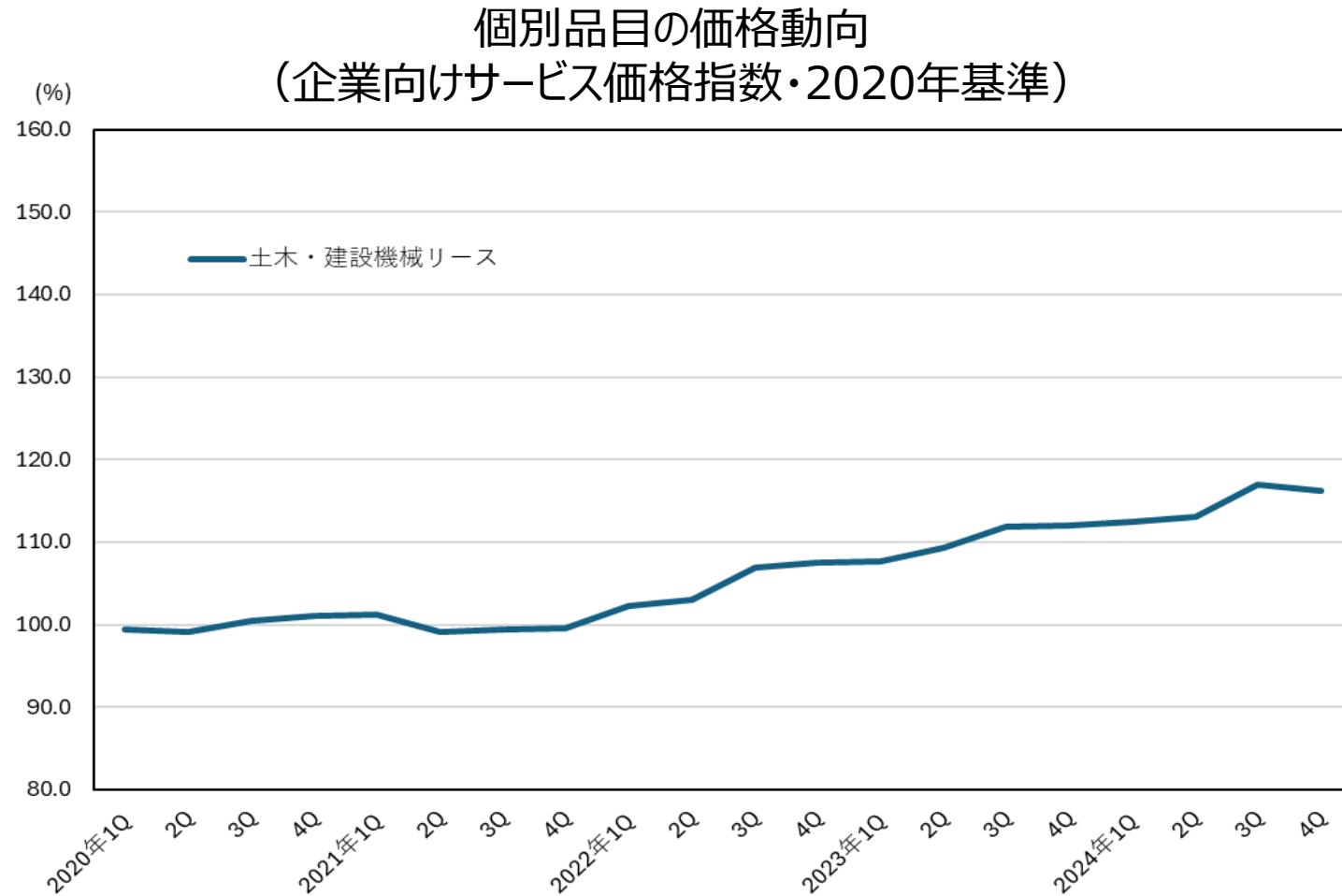
個別品目の価格動向
(企業物価指数・2020年基準)



出典：日本銀行調査統計局「企業物価指数」

(参考)建機リースの動向

日本銀行が公表している企業向けサービス価格指数より、土木・建設機械リースの項目を抜粋した。基準となっている2020年以降の動向をみると、上昇トレンドにある。

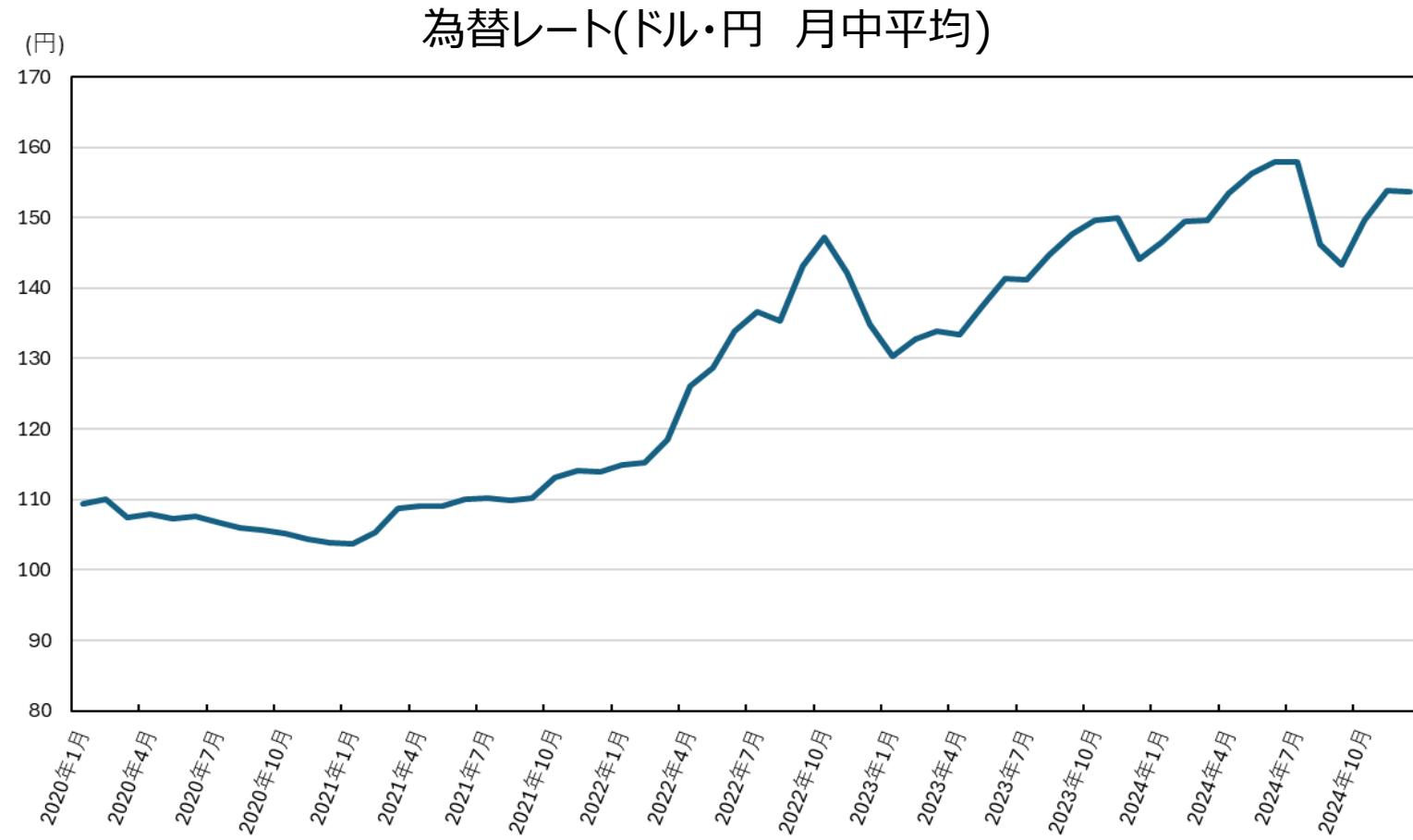


出典：日本銀行調査統計局「企業向けサービス価格指数」

2. コスト高となっている要因

③円安

2020年以降の米ドル・円の為替レートをみると、大幅な円安傾向となっている。輸入材を使用する場合、円安についても建設費高騰に寄与するものと思料



出典：日本銀行金融市場局「外国為替市況(東京市場 ドル・円 スポット 17時時点/月中平均)」

3. 実際に入札不調により工事が実施できなくなった事例

①大分県別府市の事例

大分県別府市の図書館建設事業では、入札を実施したものの、建設費の高騰により予定額を大幅に上回る入札しかなく、不成立となった。その後、議会で補正予算の承認を受け、再入札を実施することで事業者の選定を行うことができた事例

項目	内容	
事業内容	新図書館等整備事業	
当初予算	約27.5億円	
入札価格	約32.6億円(+ 5.1億円)	
経緯	2023年10月16日	・一般競争入札(予定価格は約27億5,000万円)に対し、共同企業体1社の入札があり、入札金額が33億5,000万円であったため、不成立となった。
	11月2日	・市議会臨時会で、新しい図書館の建設工事をめぐる補正予算案について総額43億5800万円(他2件含む・+5億4000万円)の補正予算が可決された。 — 一部の議員からは規模の縮小を含む事業の見直しを求める声もあった。
	12月6日	・2023年に、予定価格を約5億1,000万円引き上げ再入札を実施。共同体1社から入札があり32億6,100万円で落札。
	2024年1月22日	・着工

3. 実際に入札不調により工事が実施できなくなった事例

②静岡県伊東市の事例

静岡県伊東市の図書館建設事業では、入札を実施したものの、建設費の高騰により予定額を大幅に上回る入札しかなく、不成立となった。建設費の高騰を鑑み、建設費用を抑制するために建築規模の縮小を実施したほか、建設予算の増額を決定した事例

項目	内容	
事業内容	新図書館建設事業	
当初予算	約37億円	
入札価格	約42億円(+約5億円・規模縮小)	
経緯	2023年5月	・一般競争入札(予定価格は約37億円)に対し、1社から入れがあったものの予定額を超過していたため、不成立となった。
	6~10月	・建設資材や人件費の高騰の状況を見極めるとしてゼネコンにヒアリングを実施。
	11月	・建設価格を抑えることはが難しいため規模を縮小し再設計することを決定。
	2024年9月	・延べ床面積を7400平方メートルから5700平方メートルへと大幅に縮小したほか、駐車台数を18%減の約90台、蔵書数も16%減の25万冊へと縮減することで、建設費を圧縮。 ・建設費を当初の37億円から42億円への増額。

(参考)入札後に工事が実施できなくなった事例

東京都の中野サンプラザでは、基本協定書締結から着工までの間に建設費の高騰を受け、費用の再調整が行われた。2024年1月から9月の間に900億円上振れており、これを中野区が許容できず、着工に至っていない

項目	内容
事業内容	中野サンプラザの建て替え
提案時費用	総事業費:約1,810億円
2024年1月時点の費用	総事業費:約2,639億円(内工事費:1,845億円)
2024年9月時点の費用	総事業費:約3,539億円(内工事費:2,745億円・1月対比+900億円)
事業者	野村不動産、東急不動産、住友商事、JR東日本、 ヒューリック(撤退済)
建設者	清水建設
経緯	2021年5月6日 ・中野駅新北口駅前エリア拠点施設整備事業に関する基本協定書を中野区と締結
	2023年7月 ・中野サンプラザ閉館。
	2024年9月 ・解体工事着工予定であったが、建設者の清水建設からは資材確保や人件費の高騰などを理由に工事費増加の申し出。
	10月 ・建設費の高騰を理由に、事業者側から施行認可申請の取り下げ。
	2029年 ・完成予定となっているが、施工主の中野区と工事費の折り合いがつかず着工できていない状況。

4. まとめ

建設費用の動向をみると、上昇ペースは鈍化しているものの、依然として高い水準にある。今後についても、労務費を中心に上昇トレンドが継続することが見込まれるため、予算策定の際に費用上昇を念頭に置く必要があるものと思料

	内容
建設関係費用	<ul style="list-style-type: none">● 建設関係費用は依然として高い水準にあり、トレンドとしても上昇基調にある<ul style="list-style-type: none">- その内労務費は極めて高い水準となっており、明確に上昇基調にある- その他資材等についても高い水準にあるほか、外部要因により価格が急激に変化するリスクも含んでいる

予算編成を実施する際には、建設費用の上昇を念頭に置く必要
特に、予算編成から執行までのリードタイムが長いものについては、特に注意が必要

No.9 油津地区に関する中学生向けアンケート分析

日南市様

油津地区に関する中学生向けアンケート分析

2025年1月29日

株式会社 NTTデータ経営研究所

目次

1.属性質問

2.油津地区に関する質問

3.自由意見分析

調査概要

1. 調査の目的

油津地区が果たしている役割、不足する機能、ならびに期待されている機能について分析するもの

2. 調査方法

日南市内の全中学校を対象に、調査票を配布し、Google formにて実施

3. 調査対象

中学生1年生～3年生

4. 実施期間

2024年11月中旬～2024年12月5日

5. 調査項目

1. 属性質問（居住地区、性別、学年）
2. 油津地区に関する質問（訪問頻度、訪問日、訪問目的、交通手段、地区の魅力、必要な機能、期待する機能・サービスなど）
3. 油津地区に対する自由意見

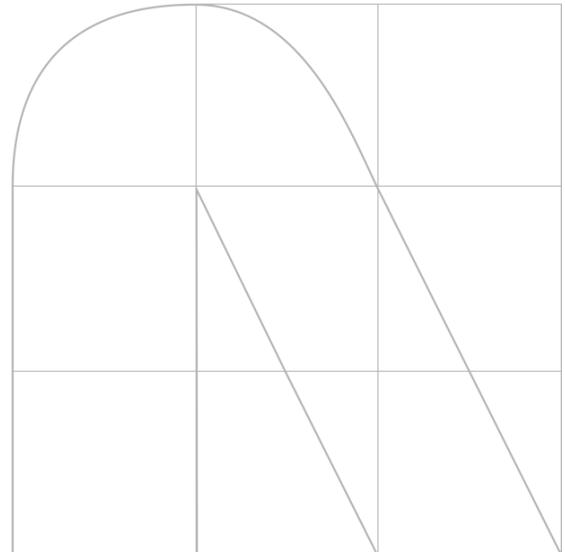
6. 取得サンプル数

サンプル1,022人（12月5日現在）

1

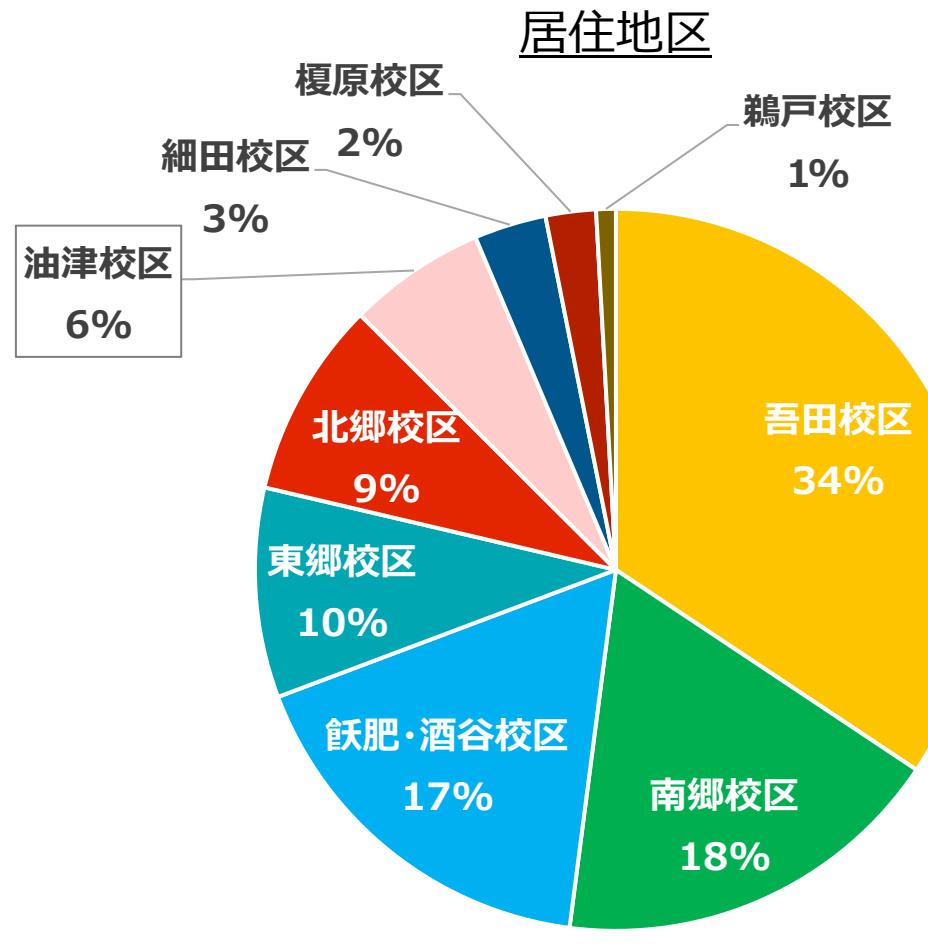
属性質問

1. 居住地区
2. 性別
3. 学年



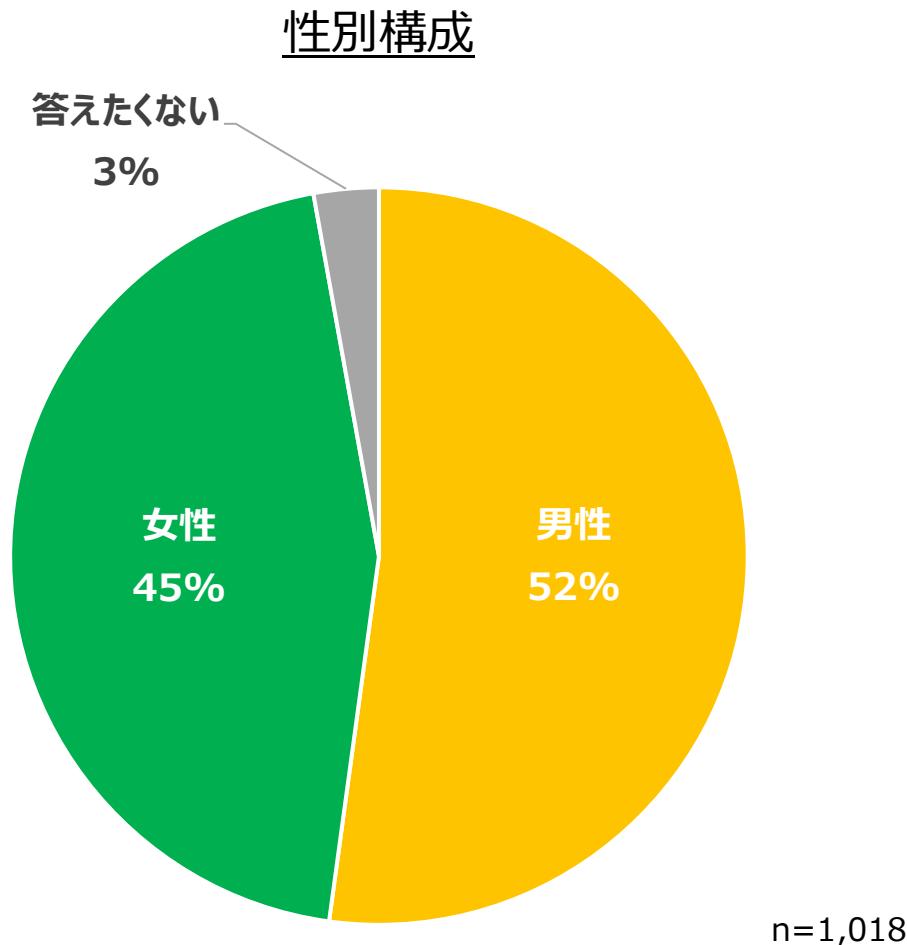
1. 居住校区

日南市内の回答者のうち、94%が調査対象地区である油津校区以外の方からの回答である



2. 性別

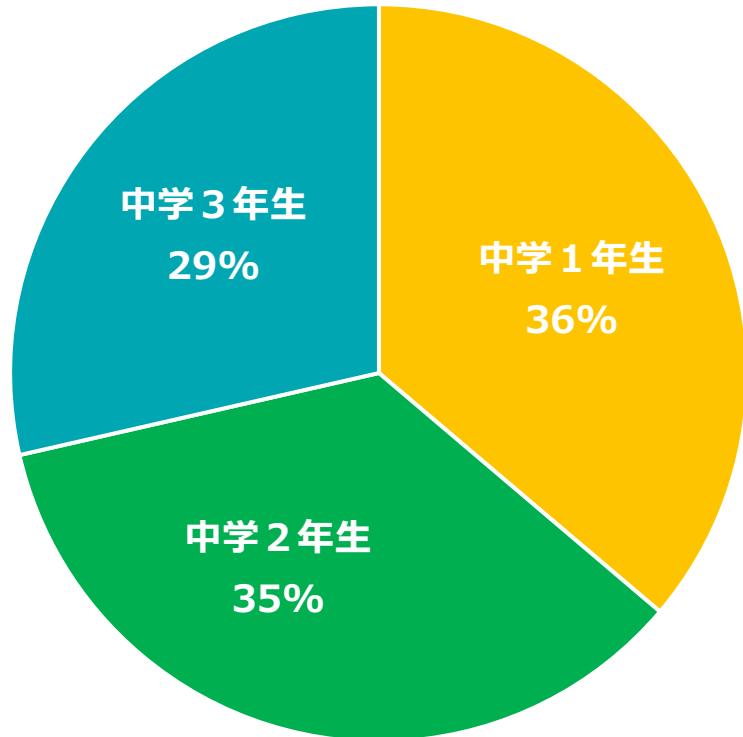
回答者の性別割合は男性がやや多いものの、大きく偏りはみられない



3. 学年

回答者の学年別割合は中学1年～2年生がやや多いものの、全学年から回答が得られ、学年間の偏りは小さい

学年構成

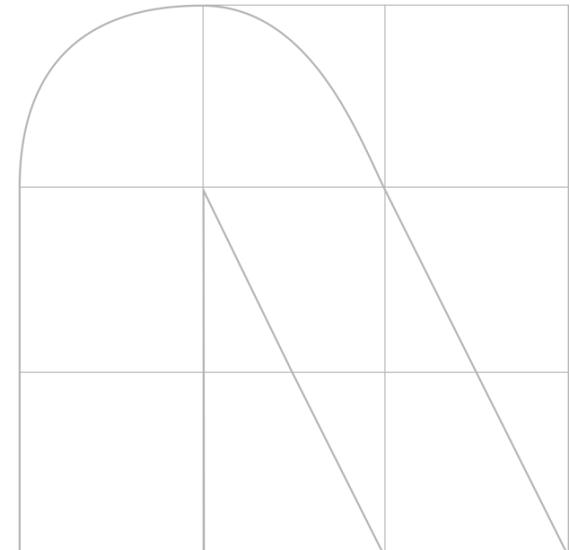


n=1,022

2

油津地区に関する質問

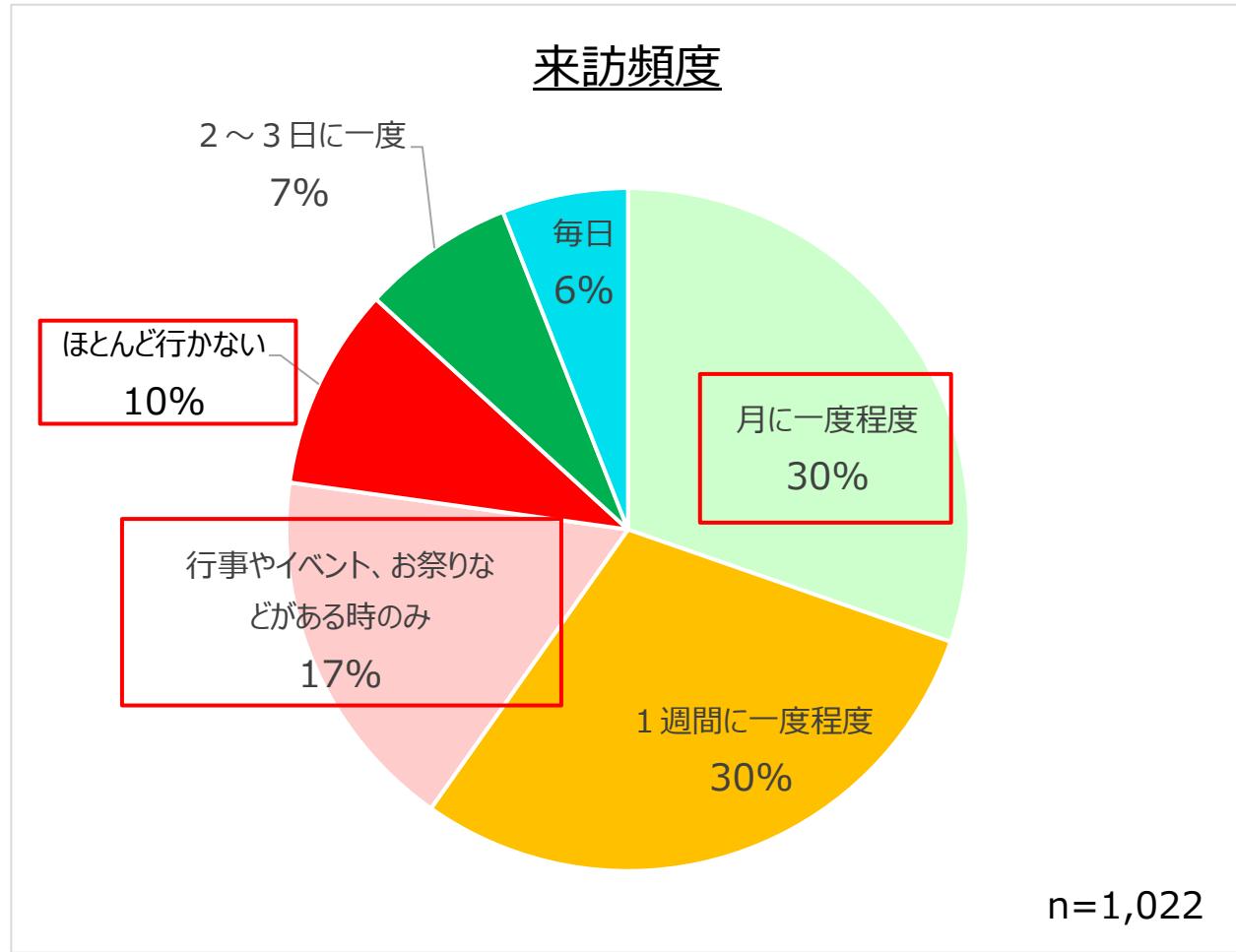
1. 来訪頻度
2. 来訪日
3. 交通手段
4. 来訪目的
5. 魅力
6. 不足している機能
7. 期待する機能



1. 油津地区への来訪頻度

－全体集計

「月に一度程度」、「行事やイベント、お祭りなどがある時のみ」、「ほとんど行かない」の人は低頻度の利用に留まっているとすると、中学生は低頻度利用が57%であり、多くの学生にとって日常的に利用されていないと推察される



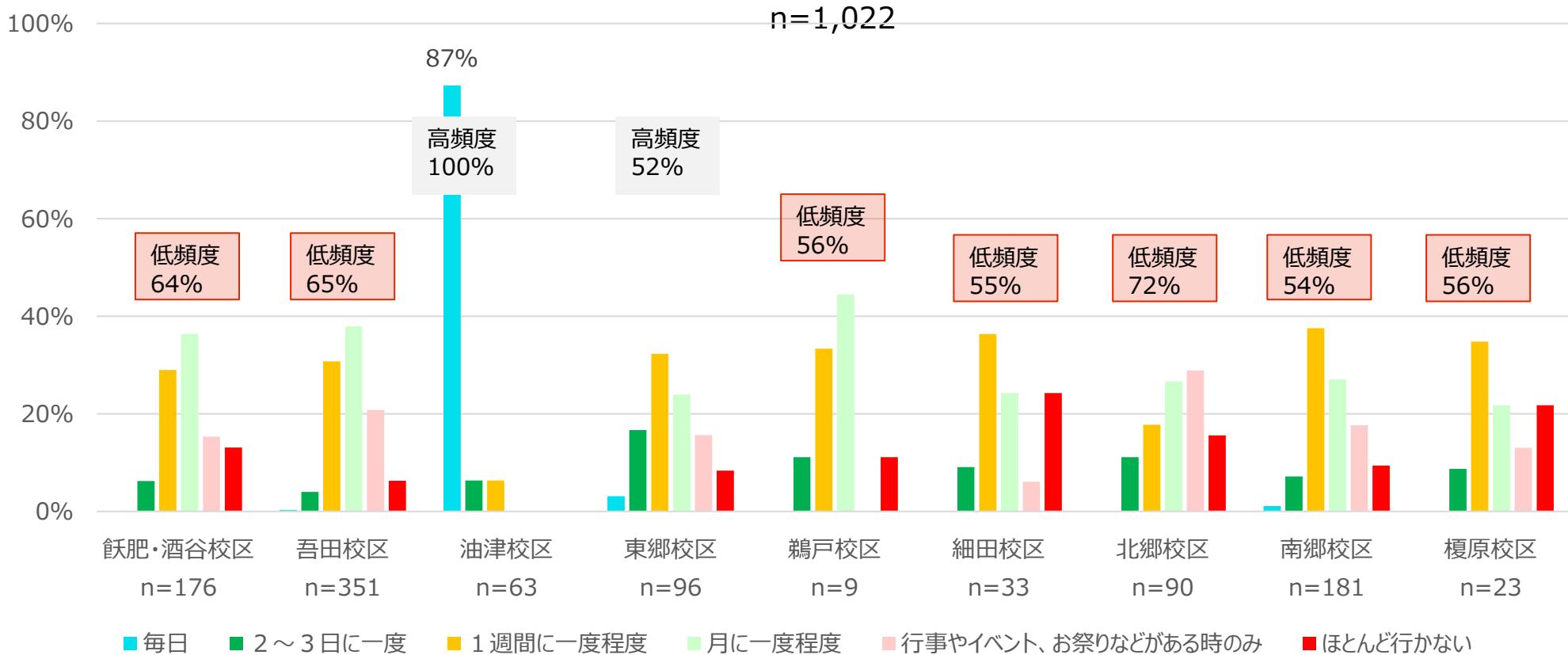
合計586人／1,022人
(57%) → 低頻度の利用

合計436人／1,022人
(43%) → 高頻度の利用

1. 油津地区への来訪頻度 - 校区別集計

来訪頻度の居住校区別にみると、油津地区居住の中学生は他の地区と比べると高頻度で来訪している一方、9地区のうち7地区が来訪頻度が低い結果がみられた。これには、距離やアクセス手段が影響している可能性が高いが、来訪に関する困りごとや期待されている機能を捕捉する必要がある

地区別にみた来訪頻度

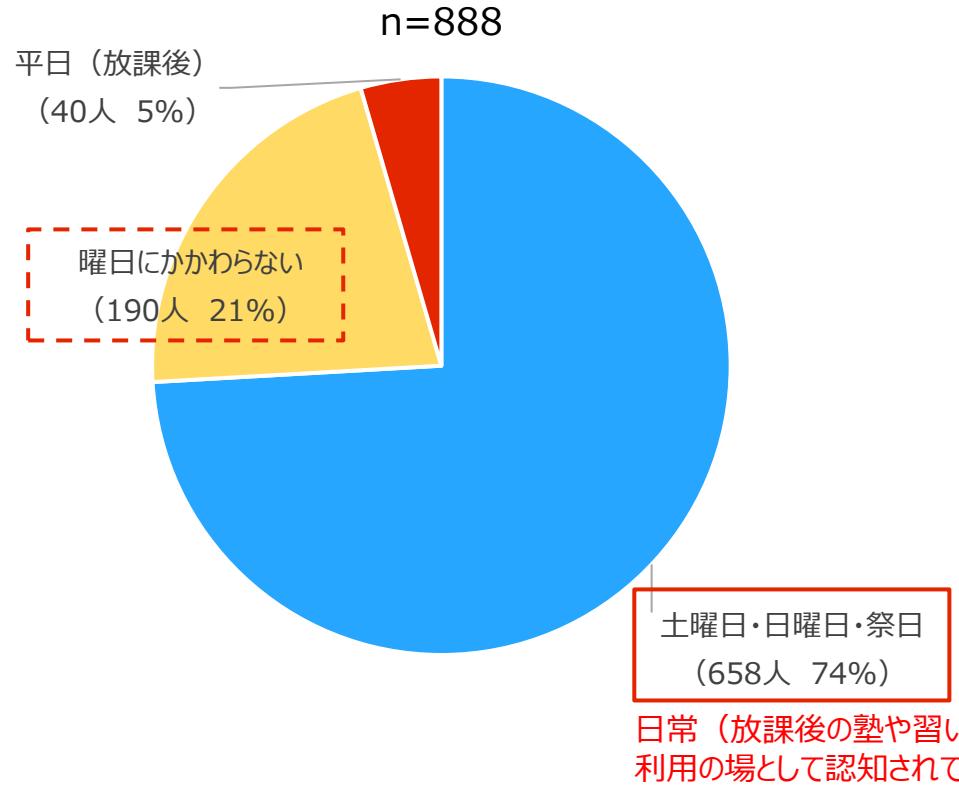


2. 油津地区への来訪日

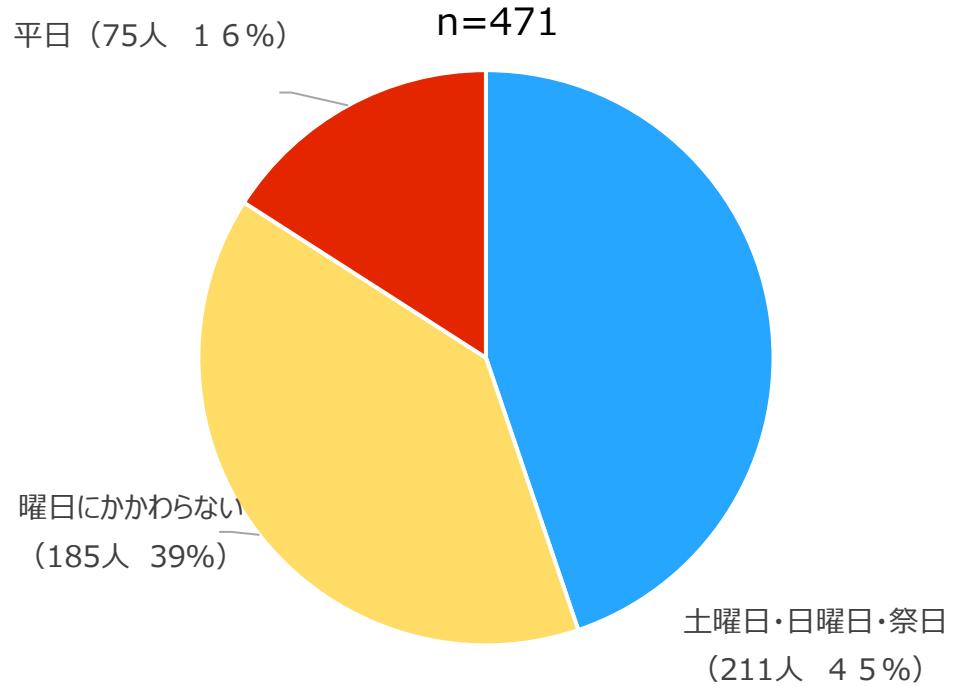
— 保護者向けアンケートとの全体比較

休校日かつ、遠距離の移動がしやすい土日・祝日が74%と大半を占めている一方、曜日に関わらず来訪される人も一定数確認できる。保護者よりも日常利用の場として認知していない傾向がわかる

【中学生回答】油津地区への来訪日



【保護者回答】油津地区への来訪日



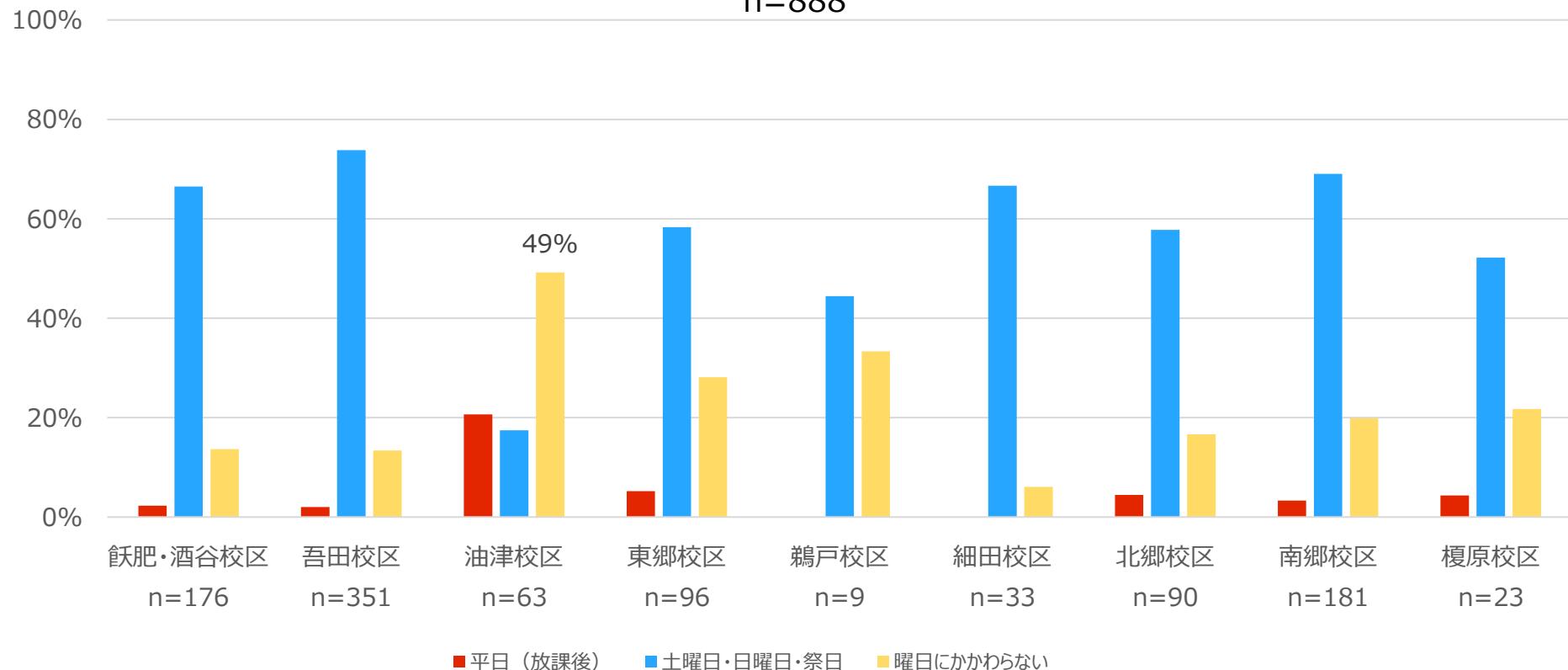
2. 油津地区への来訪日

— 地区別集計

曜日を問わず利用する割合が最も高い地区は油津校区のみであった。8地区は土日・祝日の来訪が多く、ほとんどの地区的子どもにとって、日常利用（買い物、塾や習い事等）はされていない可能性

地区別にみた来訪日

n=888

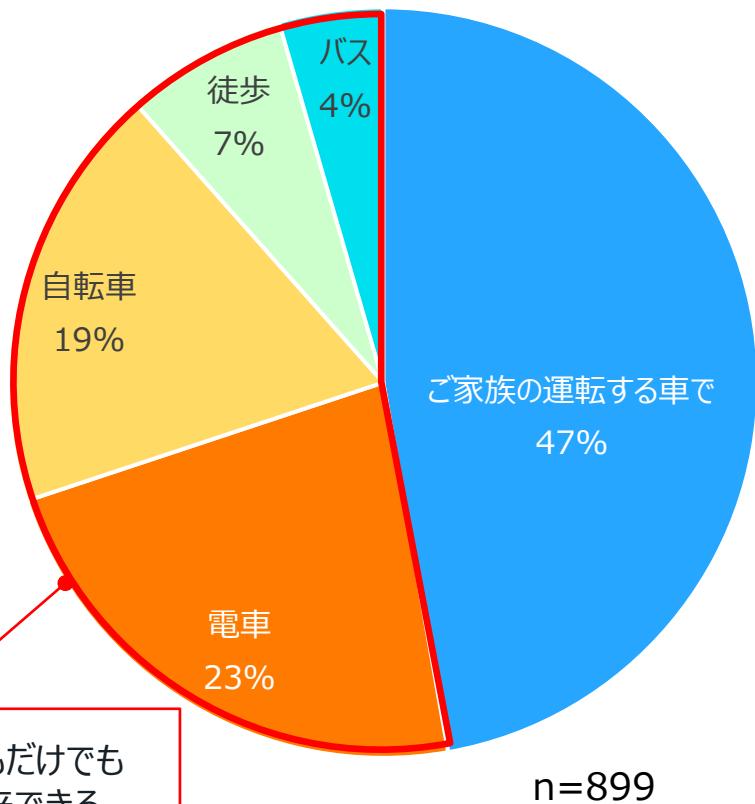


3. 油津地区への交通手段

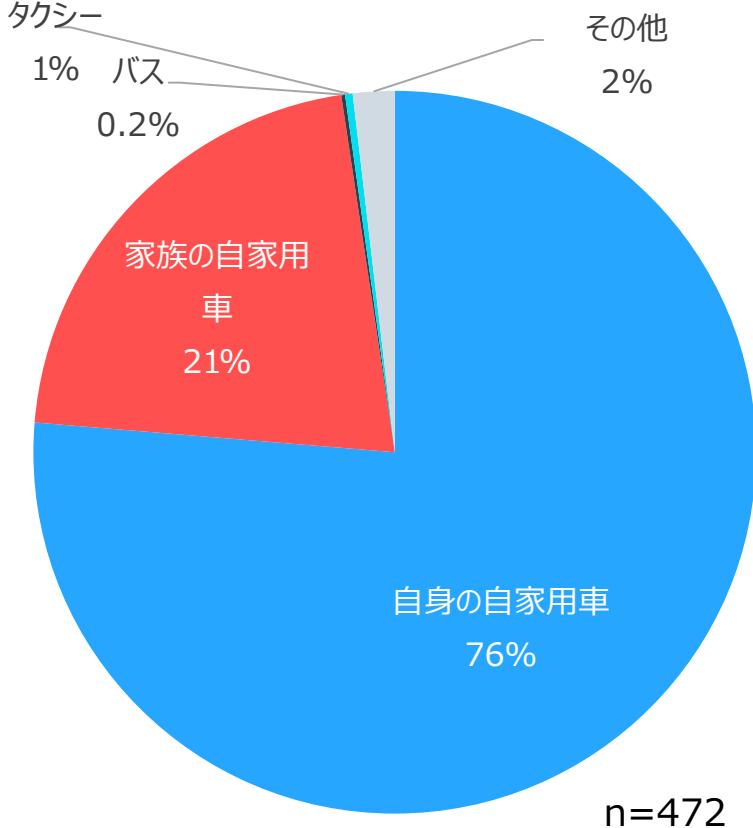
— 保護者向けアンケートとの全体比較

中学生の油津往訪の手段は「家族の運転する車」が最多であるが、交通手段として保護者の同伴が不要な手段（「電車」「自転車」「徒歩」「バス」）が53%に上る。この結果から、家族同伴以外にも、友人や一人で来訪しているであろう学生が一定数確認できる

【中学生回答】交通手段※



【保護者回答】油津地区への交通手段※



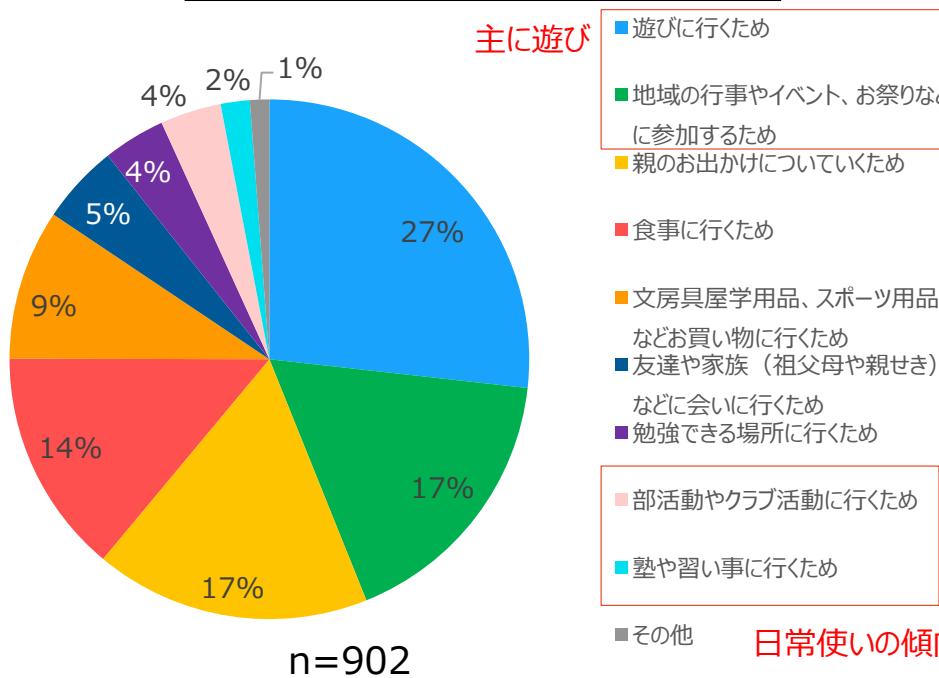
※複数回答あり

4. 油津地区への来訪目的

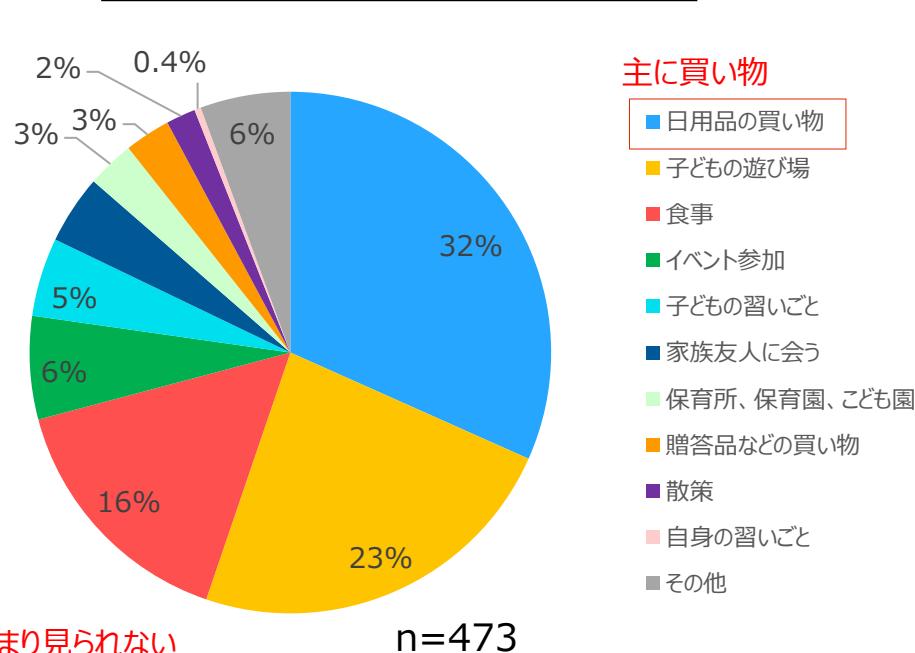
— 保護者向けアンケートとの全体比較

学生の来訪目的は「遊びに行く」「地域の行事・イベント参加」「親のお出かけについていく」が上位に挙がっており、遊びが主な動機であることがわかる。また、来訪日で確認された通り、日常使い（部活や塾習い事等）としては割合は低い。一方、保護者の来訪目的は日用品の買い物や子どもの遊び場が目的の中心になっている

【中学生回答】来訪目的回答数※



【保護者回答】来訪目的回答数※



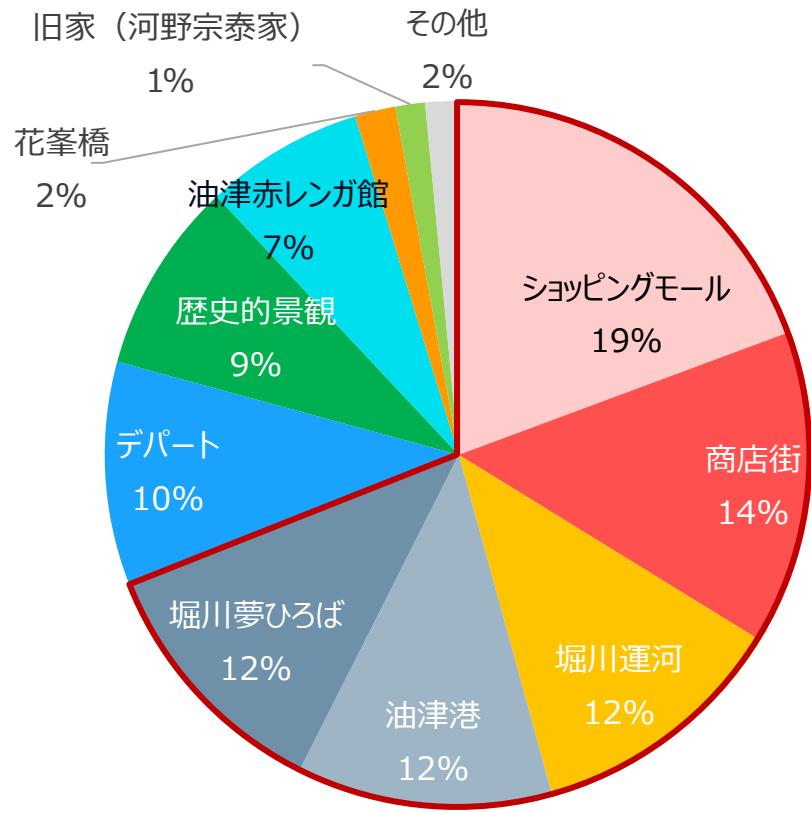
※複数回答あり

5. 油津地区の魅力

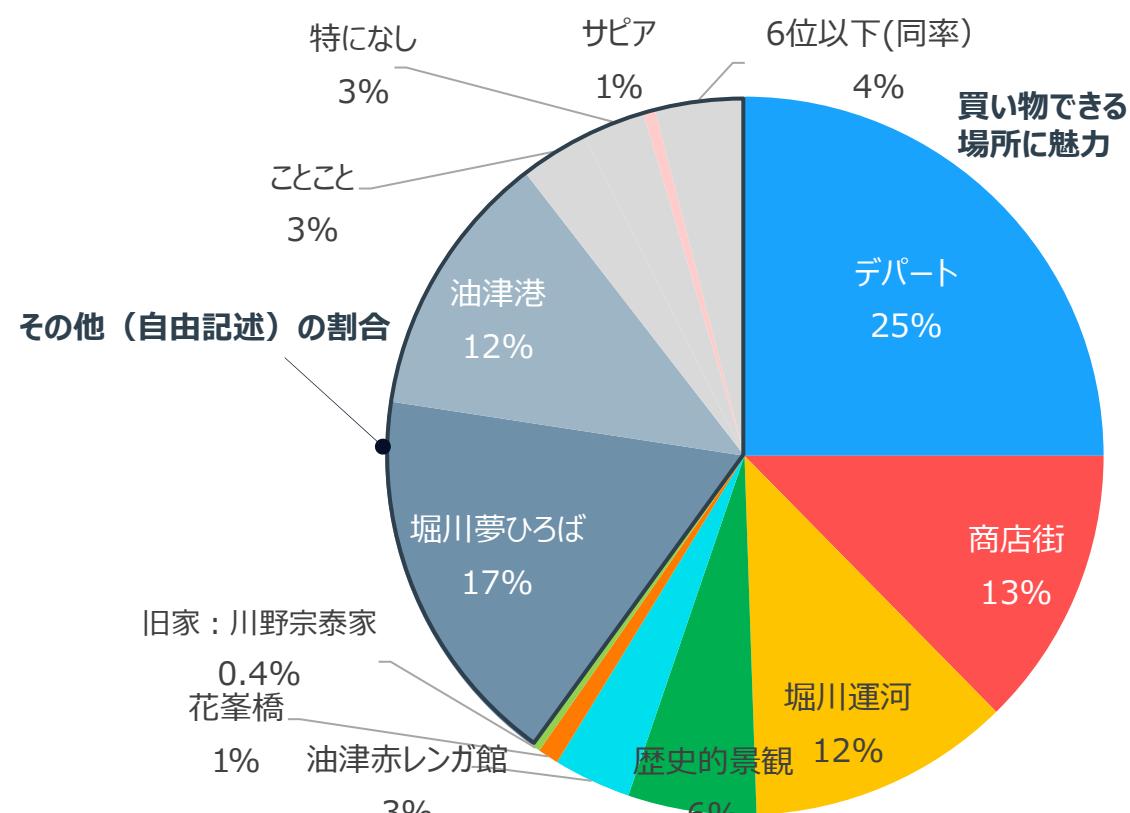
— 保護者向けアンケートとの全体比較

主に遊びが中心となっている中学生において「ショッピングモール」、「商店街」が多く、次いで上位である「油津港」や「堀川運河」等について、これらが遊びの場として認知されているか、どのように利用しているのか等子どもにとっての機能をワークショップ等で追加で確認する必要がある。

【中学生回答】油津地域の魅力※



【保護者回答】油津地区の魅力※

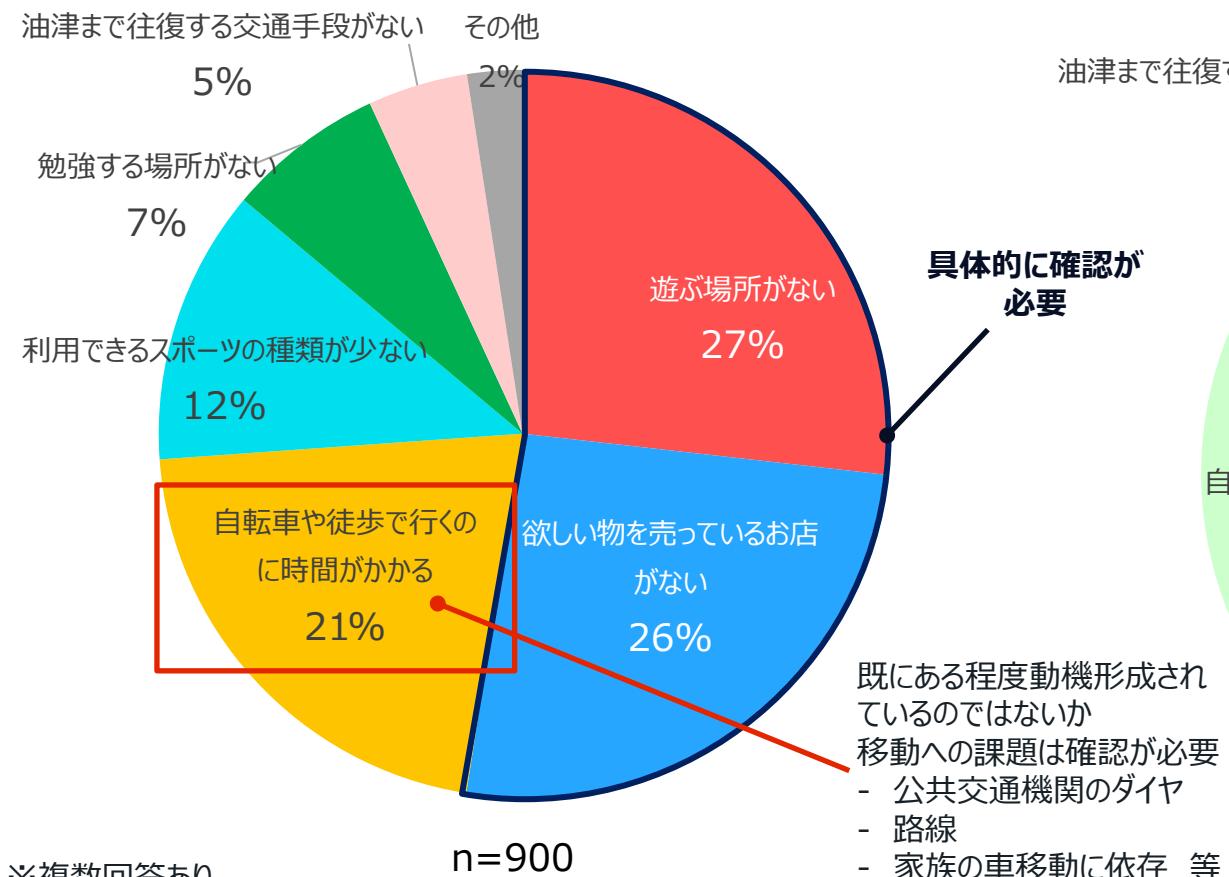


6. 油津地区来訪への困りごと

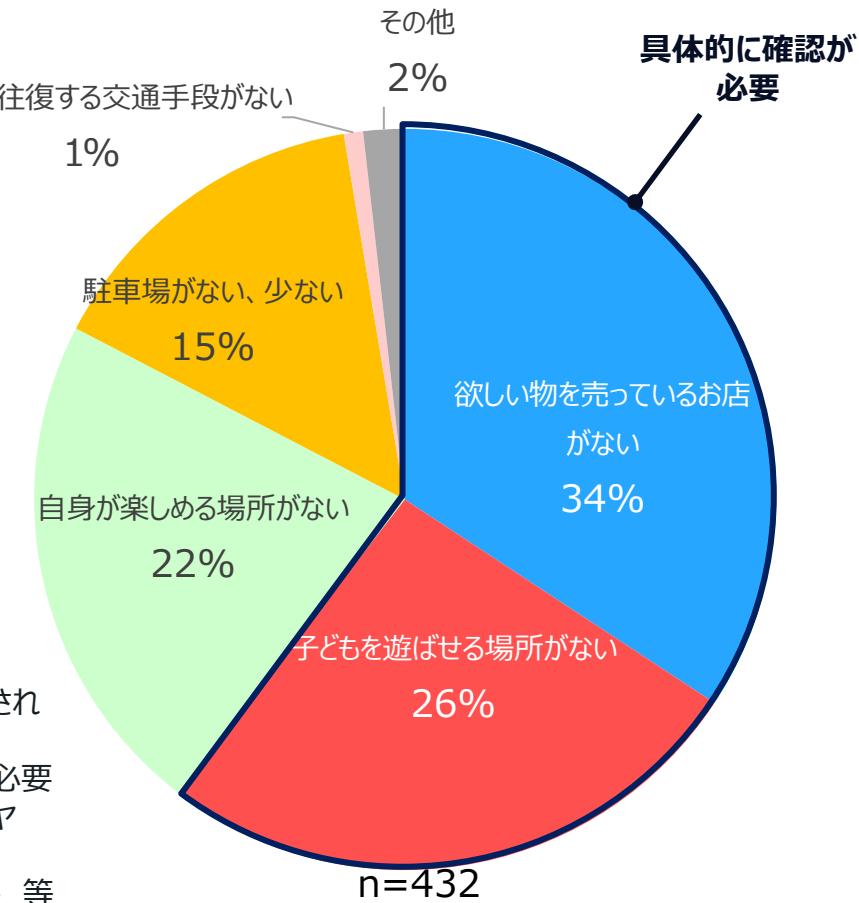
－ 保護者向けアンケートとの全体比較

中学生は、「遊ぶ場所がない」「買い物するお店がない」が上位に来ており、各ワークショップ等で具体的な機能を確認する必要。他方、移動に時間がかかるとの回答も多く見られた。これは、来訪の動機はあるが、移動時間が障壁となっている可能性がある。そのため、移動に関してどの地区の方が、どのような課題があるか、合わせて検証が必要

【中学生回答】油津地区に対する困りごと※



【保護者回答】油津地区に対する困りごと※

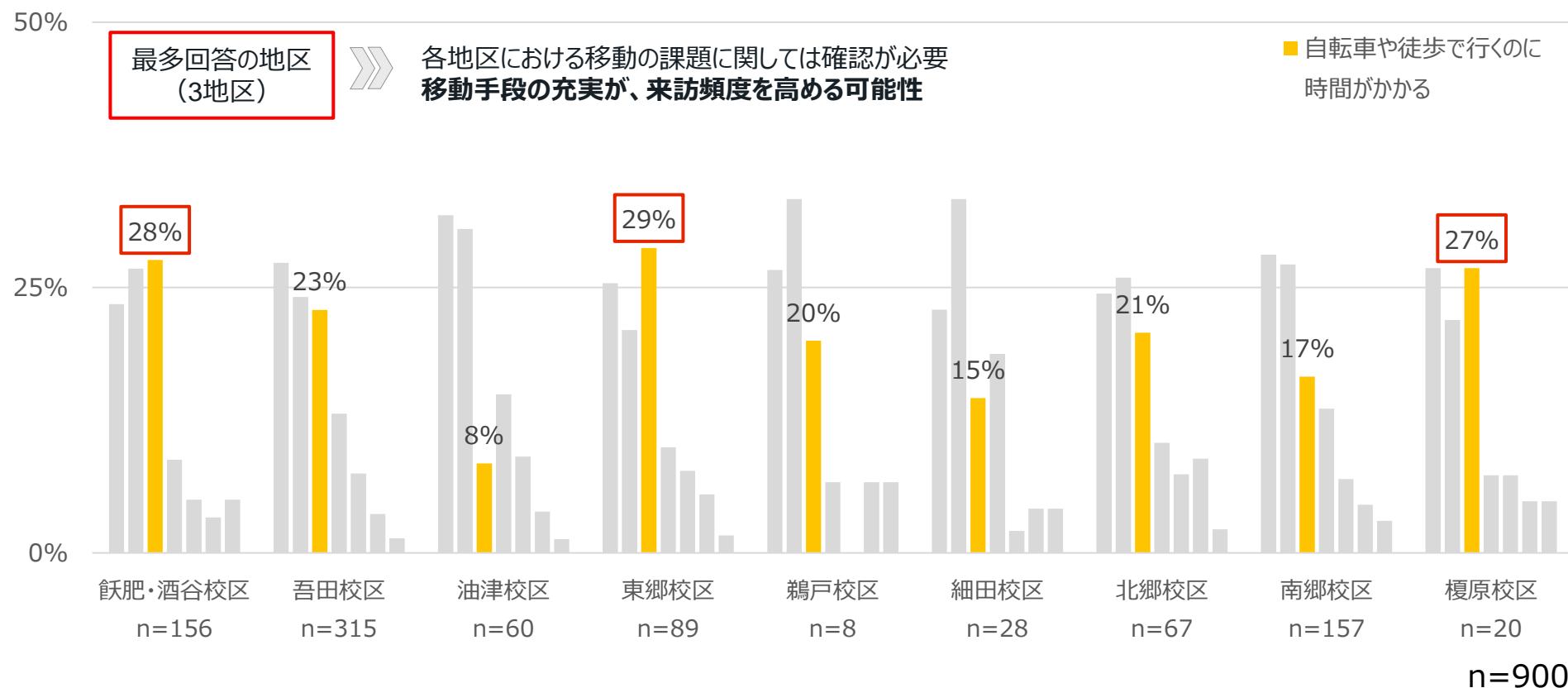


6. 油津地区来訪への困りごと

— 地区別の移動時間に関する困りごと

「自転車徒歩で行くのに時間がかかる」との回答を地区毎に割合を確認すると、飫肥・酒谷校区、東郷校区、榎原校区では、選択肢の中で最多である。特に、これらの地区においては移動に関する課題を調査する必要があり、移動手段の拡充やアクセス性の改善を検討することで、来訪頻度が高まる可能性がある

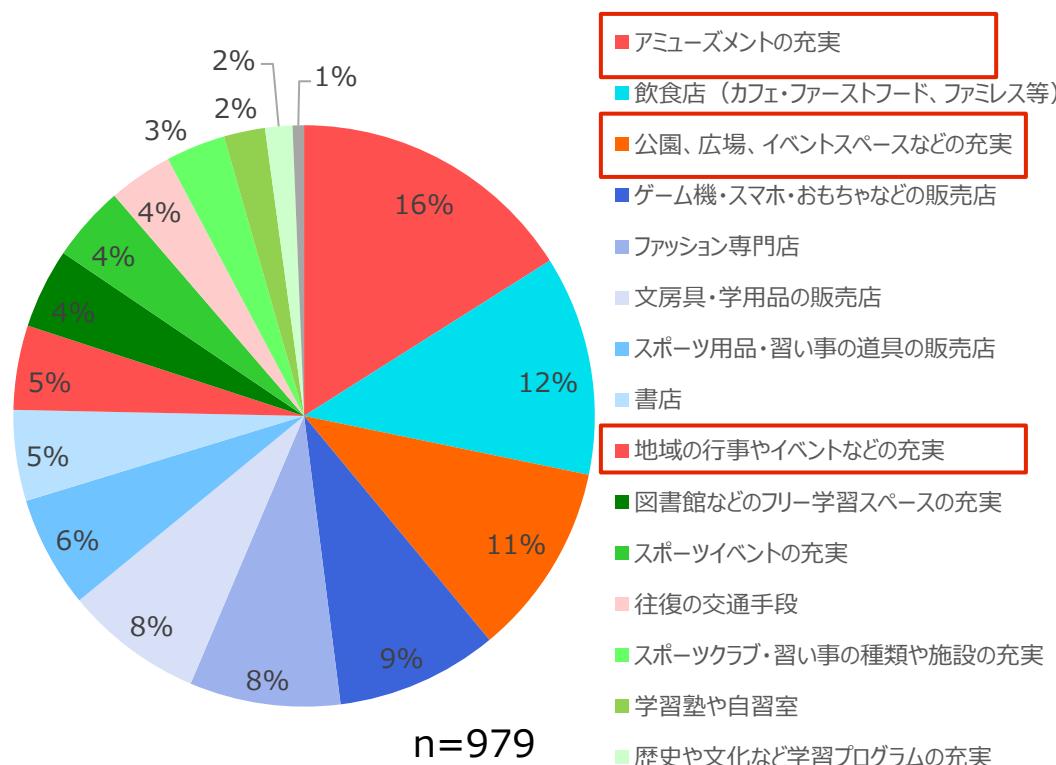
地区別の「自転車や徒歩で行くのに時間がかかる」割合



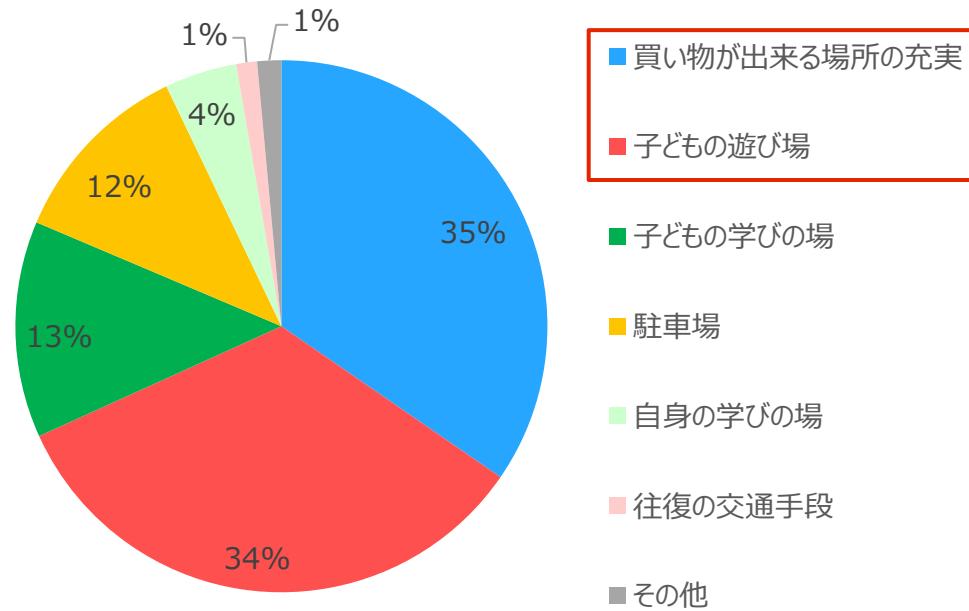
7. 油津地区に整備してほしい施設・機能 — 保護者向けアンケートとの全体比較 —

中学生と保護者からのニーズが重なる点は、遊び場や欲しいものが買えるお店の整備であると確認できる。魅力にも上位で上がっていることから、両者のニーズを備え他地区と差別化された施設やサービスとして整備し、その機能を広く認知してもらう必要性があるのではないか。

【中学生回答】油津地区に期待する機能※



【保護者回答】油津地区に期待する機能※



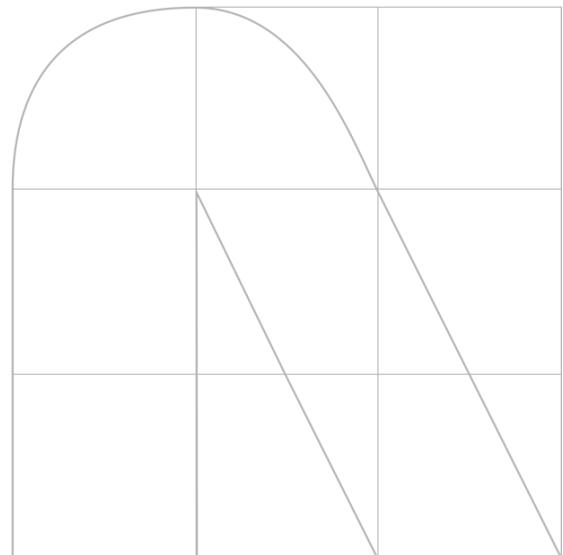
油津の魅力としても上位に回答されているため、その機能を差別化し周知する必要

※複数回答あり

3

自由意見分析

1. 分析手法
2. カテゴリー分布分析
3. 感情傾向分析
4. 類似性意見抽出



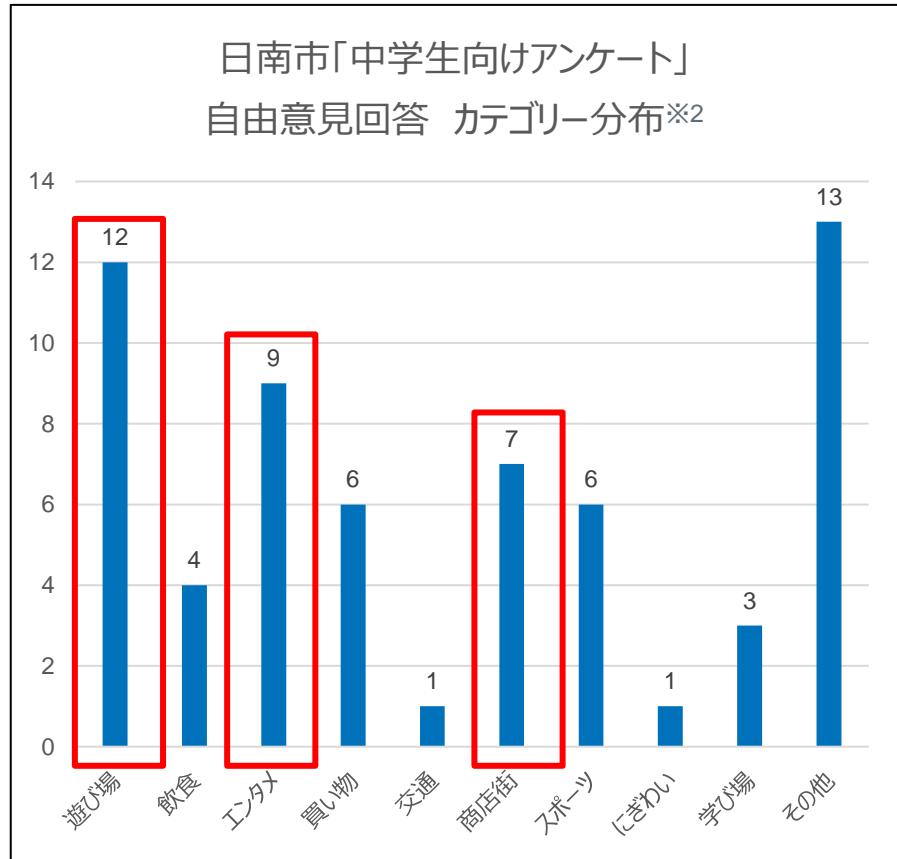
1. 分析手法

アンケートの設問（8）「その他、ご意見やお考えなどがありましたらお聞かせください」の自由回答について、テーマ別カテゴリ分布分析、感情傾向分析、意見類似性抽出の三つの分析手法を用いて、回答者の関心分野の傾向、意見のポジティブ・ネガティブ傾向、および意見の重複度や共通点を明らかにした



2. カテゴリー分布分析

カテゴリー分布においては、「遊び場」に関する意見が12件、「エンタメ」に関する意見が9件、「商店街」に関する意見が7件。ショッピングモールなど、買い物ができる場所や、スポーツ施設やスポーツショップを求める声も6件と多く見られた。※



※ 映画館、テーマパーク、ゲームセンター等、具体的なエンタメ施設の設置を希望する場合は「エンタメ」に分類し、特定の施設に限定しない「遊ぶ場所」を求める場合は「遊び場」に分類。特定しない、「お店」が欲しいという意見は「買い物」に分類。特定の地区や施設に言及しない「活気づくと良い」との意見を、「にぎわい」に分類した。

※2 分析の都合上、一回答に複数意見が含まれる場合は、複数意見として件数を算出。

「遊び場」に関する意見（12件）

【主な意見】

- 日南市は全体的に遊ぶところがないと思います
- 日南は狭くて遊ぶ場所がない
- 友達と遊ぶときに遊べるところが少ない
- 子供達が遊べるようなところを増やしてほしい

「エンタメ」に関する意見（9件）

【主な意見】

- テーマパーク的なものを作れば人がたくさんきて、少子高齢化という問題が解決するかと思います
- ゲーセンの機器を増やして欲しい
- 映画館作ってください
- アニメイトがほしい
- まねきねこに中学生だけで行けない

「商店街」に関する意見（7件）

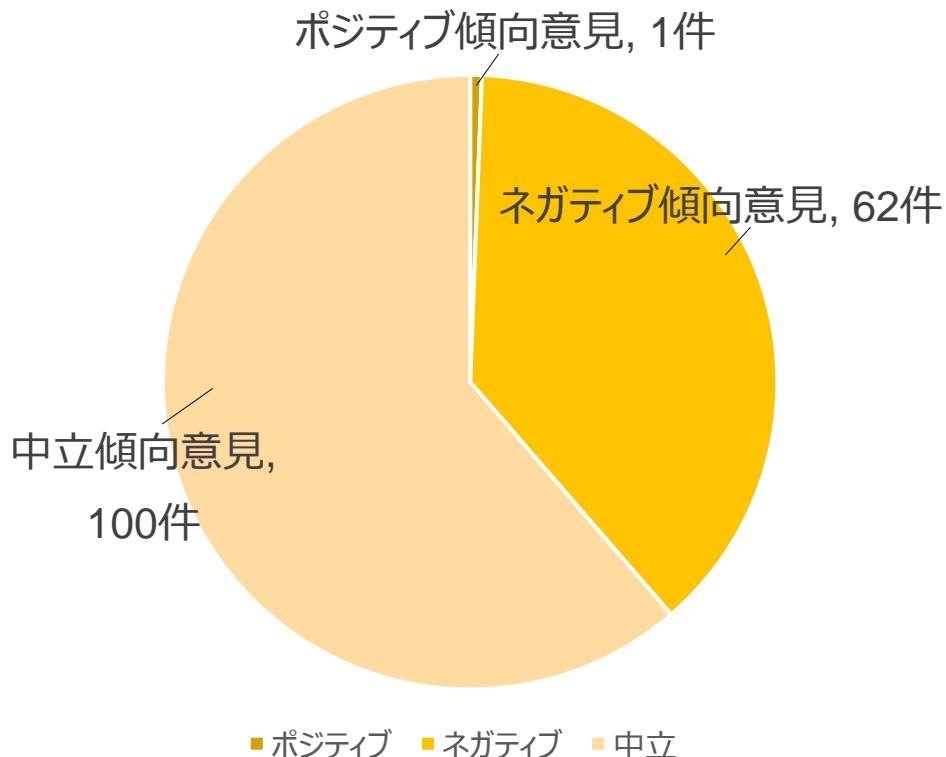
【主な意見】

- 商店街を盛り上げてほしい
- 商店街もっと盛り上げてほしいです
- 油津商店街をもっと賑やかにしてほしい
- 商店街をもっと綺麗にしてイベントなどを行ってほしい

3. 感情傾向分析

感情傾向分析では、ポジティブ傾向の回答が1件、ネガティブ傾向の回答が62件、中立傾向の回答が100件であり、保護者向けアンケートと比較して特徴的なネガティブ意見としては、エンタメ・スポーツを要望する声が多く見られ、自転車や歩行者の交通の安全※に関する意見もあった。

中学生向けアンケート自由意見性質別分布※2



ポジティブ傾向意見 1件

【主な意見】

- ・イルミが綺麗

ネガティブ傾向意見 62件

【主な意見】

- ・自転車や歩行者が歩くところが狭くてぶつかりそうになる
- ・遊ぶ場所を増やしてほしいです（映画館を作つてほしい！）
- ・宮崎市内にあるような大きめのスポーツ店を作つて欲しい
- ・テニス場作つて欲しい

※P16「『6.油津地区来訪への困りごと』保護者向けアンケートとの全体比較」にも移動手段の違いによる意見の差がみられる。

※2 分析の都合上、一回答に複数意見が含まれる場合は、複数意見として件数を算出。

4. 類似性意見抽出

類似している意見で多かった意見は「遊び場を増やしてほしい」、「スポーツ施設・ショップを増やしてほしい」、「映画館を作つてほしい」、「無人カフェを増やしてほしい」の4つ。「勉強できるところを増やしてほしい」という意見も2件見られた。

遊び場を増やしてほしい（11件）

【主な意見】

- ・遊ぶところが欲しいです。
- ・日南市は全体的に遊ぶところがないと思います。また、勉強できる場所がないのも嫌なところです
- ・遊び場を増やして欲しい
- ・テーマパーク的なものを作れば人がたくさんきて、少子高齢化という問題が解決するかと思います
- ・遊ぶ場所がない
- ・友達と遊ぶときに遊べるところが少ない
- ・子供達が遊べるようなところを増やしてほしい

映画館を増やしてほしい（3件）

【主な意見】

- ・映画館作つてください
- ・映画館がほしい
- ・遊ぶ場所を増やしてほしいです（映画館を作つてほしい！）

無人カフェを増やしてほしい（3件）

【主な意見】

- ・無人カフェを増やして欲しいです！！！！！
- ・無人カフェを増やす
- ・無人カフェを増やしてください！！！！！！

勉強できるところを増やしてほしい（2件）

【主な意見】

- ・日南市は全体的に遊ぶところがないと思います。また、勉強できる場所がないのも嫌なところです
- ・もっと勉強できるような場所を日南市全体に作つて欲しいです。無料で個室で利用できるような自習室が欲しいです

スポーツ施設・ショップを増やしてほしい（6件）

【主な意見】

- ・サッカーができる場所がほしい
- ・スポーツショップがない、だからいやだ
- ・スポーツ店置いてください
- ・宮崎市内にあるような大きめのスポーツ店を作つて欲しい
- ・テニス場作つて欲しい

※ 分析の都合上、一回答に複数意見が含まれる場合は、複数意見として件数を算出。

No.10 日南市の基礎調査について（アップデート版）

日南市様

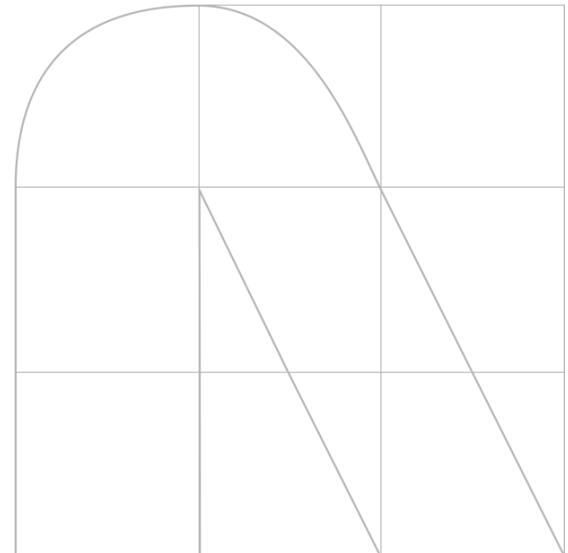
日南市の基礎調査について（アップデート版）

2025年3月26日

株式会社NTTデータ経営研究所
金融政策コンサルティングユニット 地域公共政策チーム

地域特性の把握（定量分析）

1. 日南市の概況
2. RESASでみる日南市の特性
3. 地域幸福度指標でみる日南市の特性



1.日南市の概況

1.1 まちの概要及び概観

まちの概要

人口	50,848人 (2020年国勢調査)	高齢化率	38.6% (2020年国勢調査)
合計特殊出生率	1.70 (2021年日南市)	昼夜間人口比率	98.9% (2020年国勢調査)
都市の特徴・周辺地域との関わり	宮崎県南東部に位置し、東は日向灘、宮崎市や都城市、串間市、三股町に面している。本市との関わりでは通勤や通学の流入出先は宮崎市と串間市が主であり、流入出数はそれぞれほぼ同数であることから、就学と雇用の相互補完関係にあるといえる		

総人口は一貫して減少傾向にあり、高齢化率は増加傾向

- 令和2年（2020年）の年少人口は足元の20年間で減少しており、平成7年（1995年）には老齢人口が年少人口を上回っている。現状では老齢人口より生産年齢人口が上回っているが、人口の逆転が目前に迫っている

全国より合計特殊出生率は高い

- 令和3年（2021年）公表の合計特殊出生率は1.70と全国平均の1.3を上回っており、宮崎県の平均1.70と同水準

第3次産業が主であるが、電子部品・デバイス・電子回路製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業が本市の特徴

- 産業別事業所数では卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業などの第3次産業が多く、全国や宮崎県と同様の傾向
- 従業者数でみると、宮崎県で最も多い食料品製造業よりも電子部品・デバイス・電子回路製造業の占める割合が最も高く、パルプ・紙・紙加工品製造業の割合が宮崎県や全国より非常に高くなっている、本市の特有の傾向であるといえる

まちの概観



A

日南市の中心部。市街地から成り、行政、医療、商業施設が集積

B

飫肥城跡や武家屋敷等の街並みを中心とした観光地

C

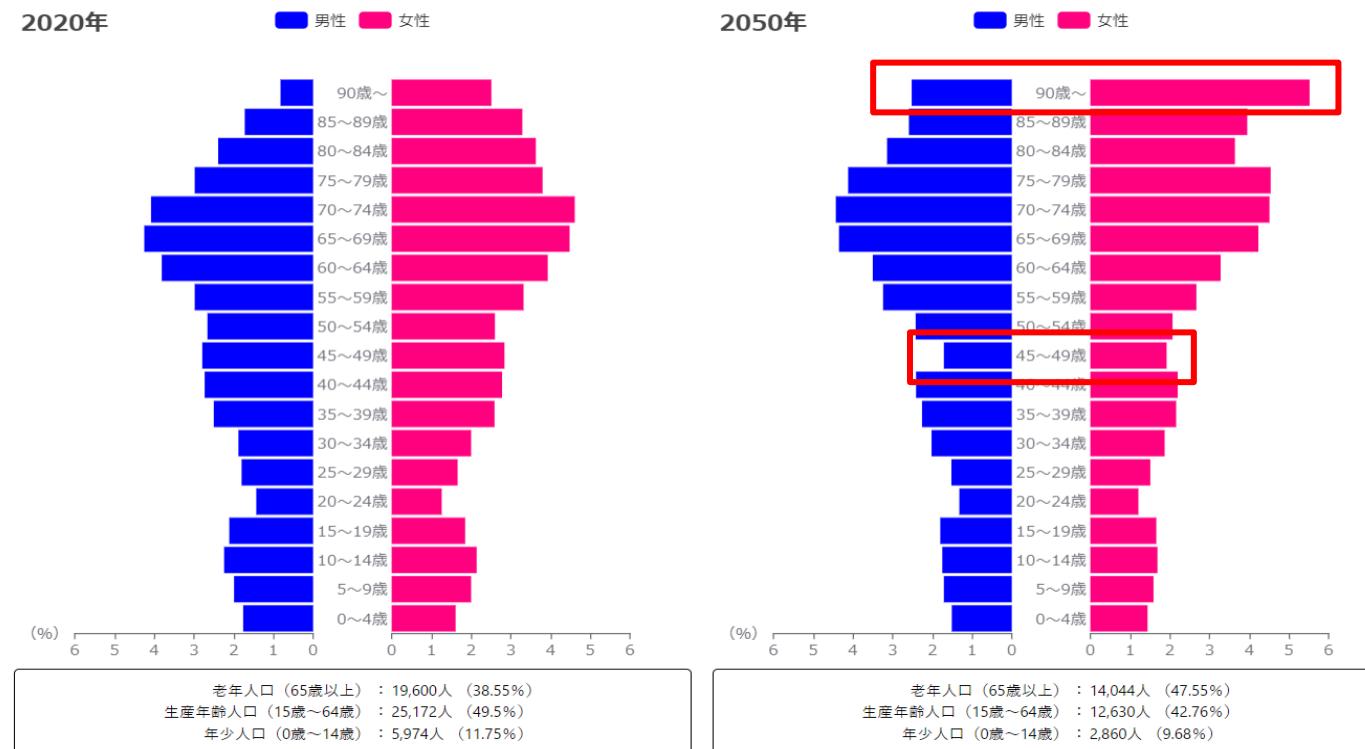
日南海岸や鵜戸神宮、サンメッセ日南を中心とした観光地

2.RESASでみる日南市の特性

2.1 人口ピラミッド

- 2050年時点での90歳以上の人口分布が極端に多く、急激な超高齢化の進展により医療費等の社会保障費が膨らむことが想定され、財源確保等への影響が懸念される
- 45～49歳の生産年齢人口が激減しており、市内の産業等に与える影響が大きいものと思料

日南市の人団ピラミッド（5歳階級別、2020実測値、2050推計値）



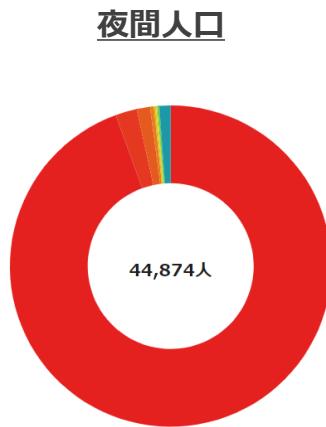
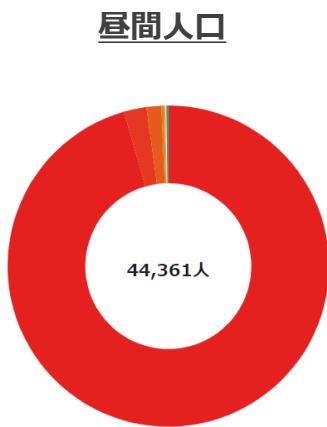
【出典】RESAS、総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

2.RESASでみる日南市の特性

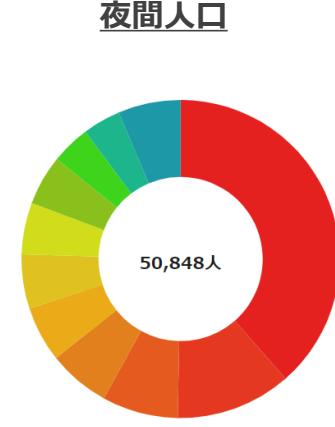
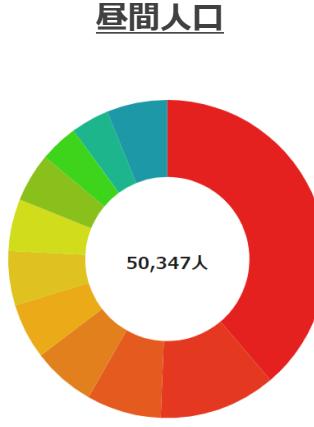
2.2 通勤・通学

- 昼間は宮崎市より1,000名、串間市より650名本市に通勤や通学で流入
- 本市からは宮崎市へ970名、串間市へ600名程度が通勤や通学で流出
- 流出入数はそれぞれほぼ同数であることから、就学と雇用の相互補完関係にある
- 年齢階級別の昼夜間人口比をみると、就業年代では昼間に比し夜間人口が100人程度多くなっている

昼間人口・夜間人口の地域別構成割合（2020年）



昼間人口・夜間人口の年齢階級別構成割合（2020年）



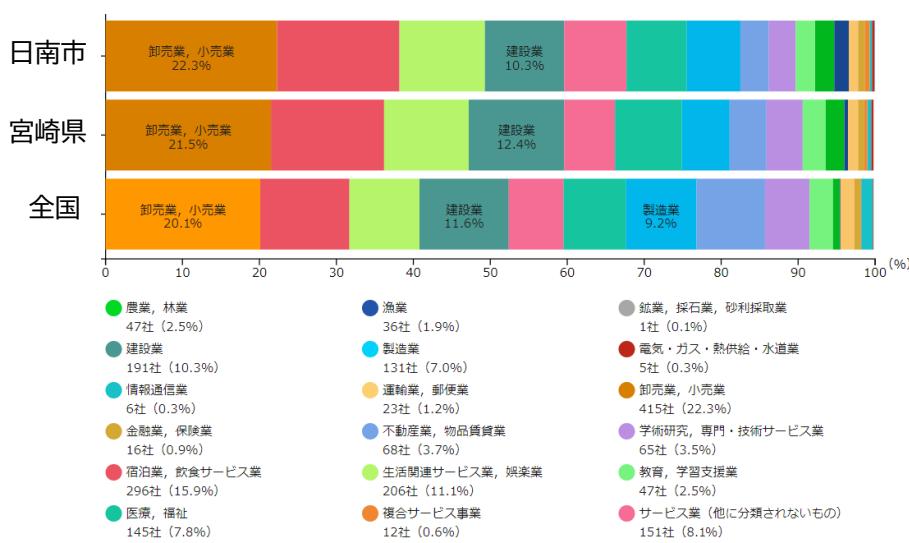
【出典】RESAS、総務省「国勢調査」

2.RESASでみる日南市の特性

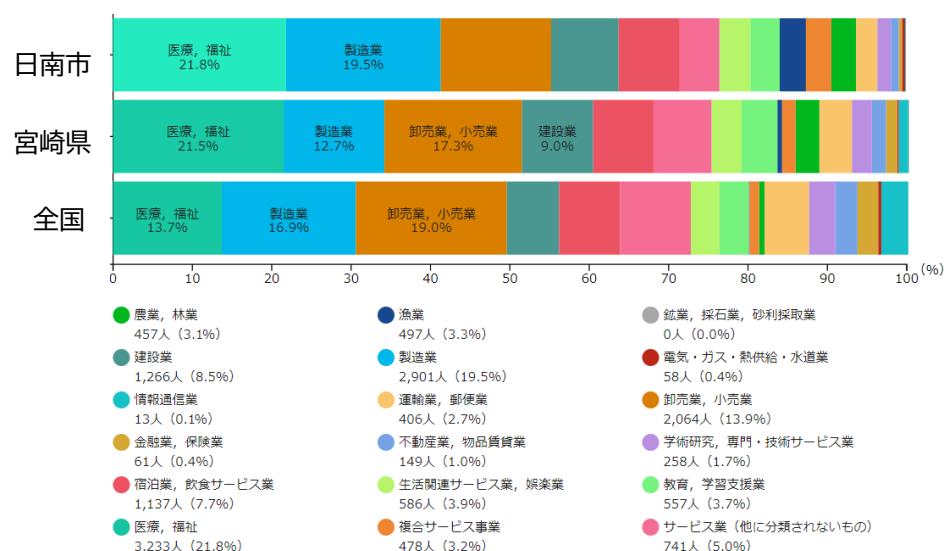
2.4 産業構造（1/2）

- 産業別事業所数は卸売業・小売業の割合が最も高く、次いで宿泊・飲食サービス業となっており、全国や宮崎県と同様の傾向
- 事業所単位従業者数については、医療・福祉の割合が最も高く、次いで製造業。宮崎県においては医療・福祉、次いで卸売業・小売業であり、全国においては卸売業・小売業、次いで製造業となっており、異なる傾向
- 海に面しているため漁業の割合が高いことも特徴

産業別事業所数（2021）



事業所単位従業者数（2021）



【出典】RESAS、総務省「経済センサス－基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」再編加工

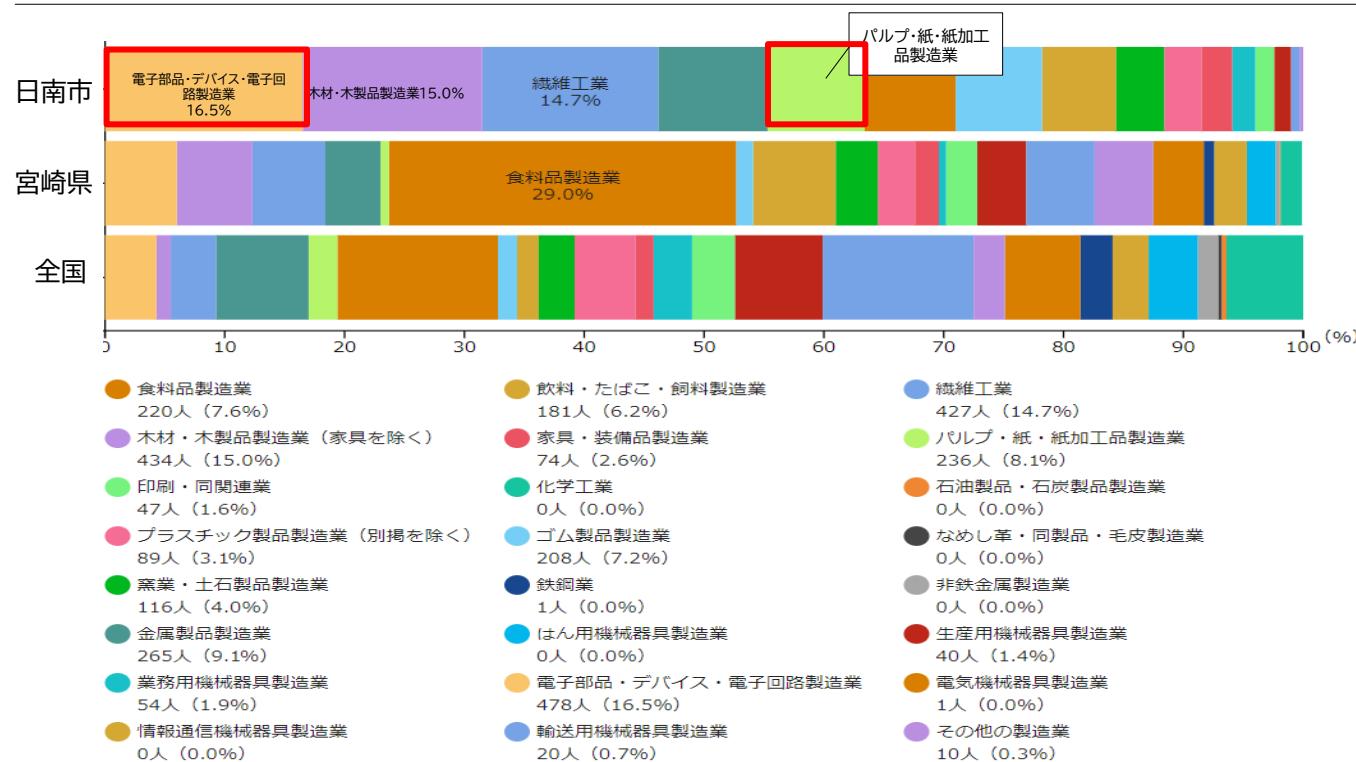
2.RESASでみる日南市の特性

2.4 産業構造（2/2）

製造業における業態別事業所単位従業数は以下の通り

- 全国、宮崎県で最も多い食料品製造業よりも電子部品・デバイス・電子回路製造業の占める割合が最も高く、次いで木材・木製品製造業（家具を除く）の順
- パルプ・紙・紙加工品製造業の割合が宮崎県や全国より非常に高くなっており、本市の特有の傾向

製造業における事業所単位従業者数（2021）

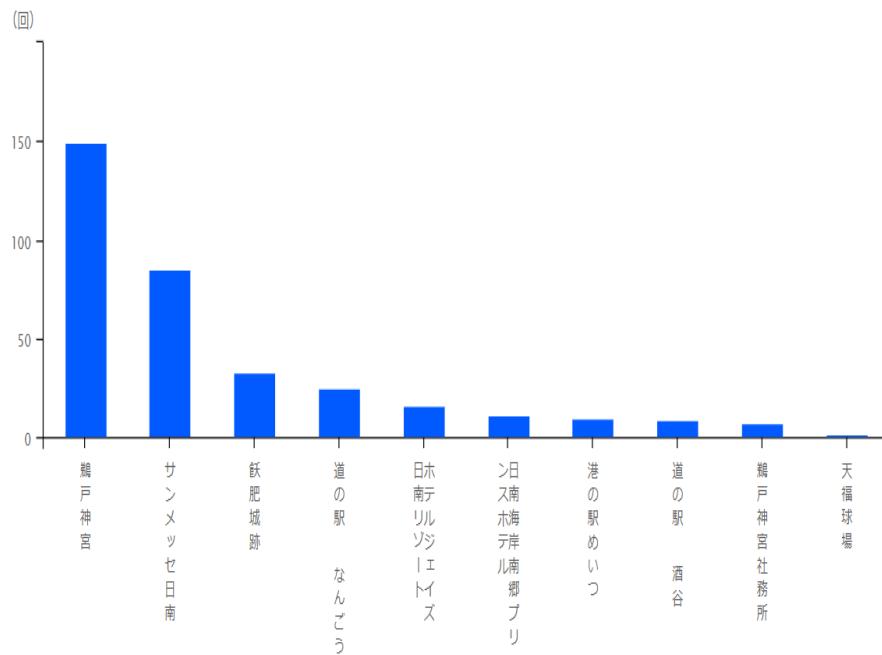


【出典】RESAS、総務省「経済センサス－基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」再編加工

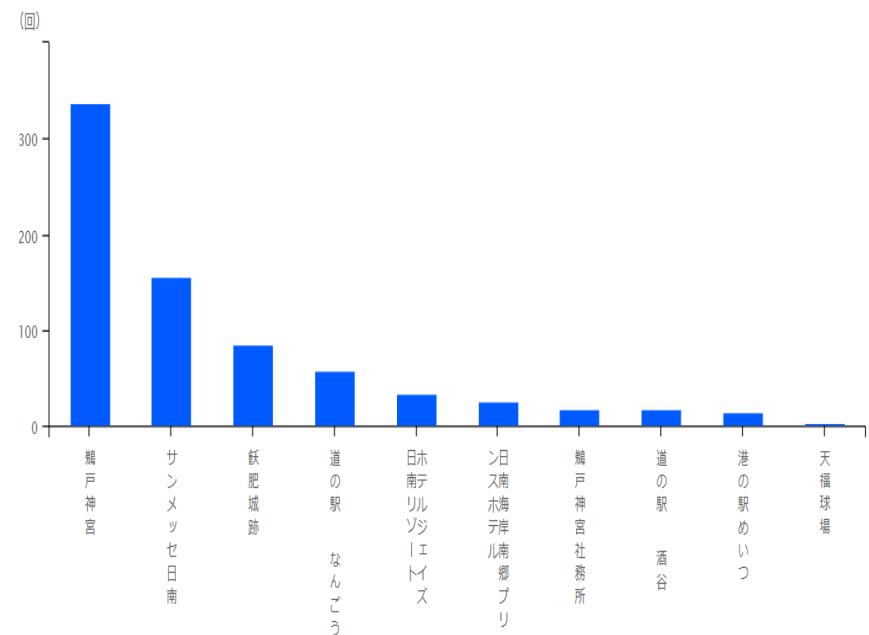
2.5 来訪者の目的地

- 平日、休日を問わず、検索の上位が「鵜戸神宮」「サンメッセ日南」などの宮崎空港から近い場所
- 観光名所である「飫肥城跡」や観光拠点への送客機能を担うはずの「道の駅なんごう」「港の駅めいつ」「道の駅酒谷」などは大きな割合を占めていない

自動車利用における目的地検索ランキング
(2023年3月、休日)



自動車利用における目的地検索ランキング
(2023年3月、平日)

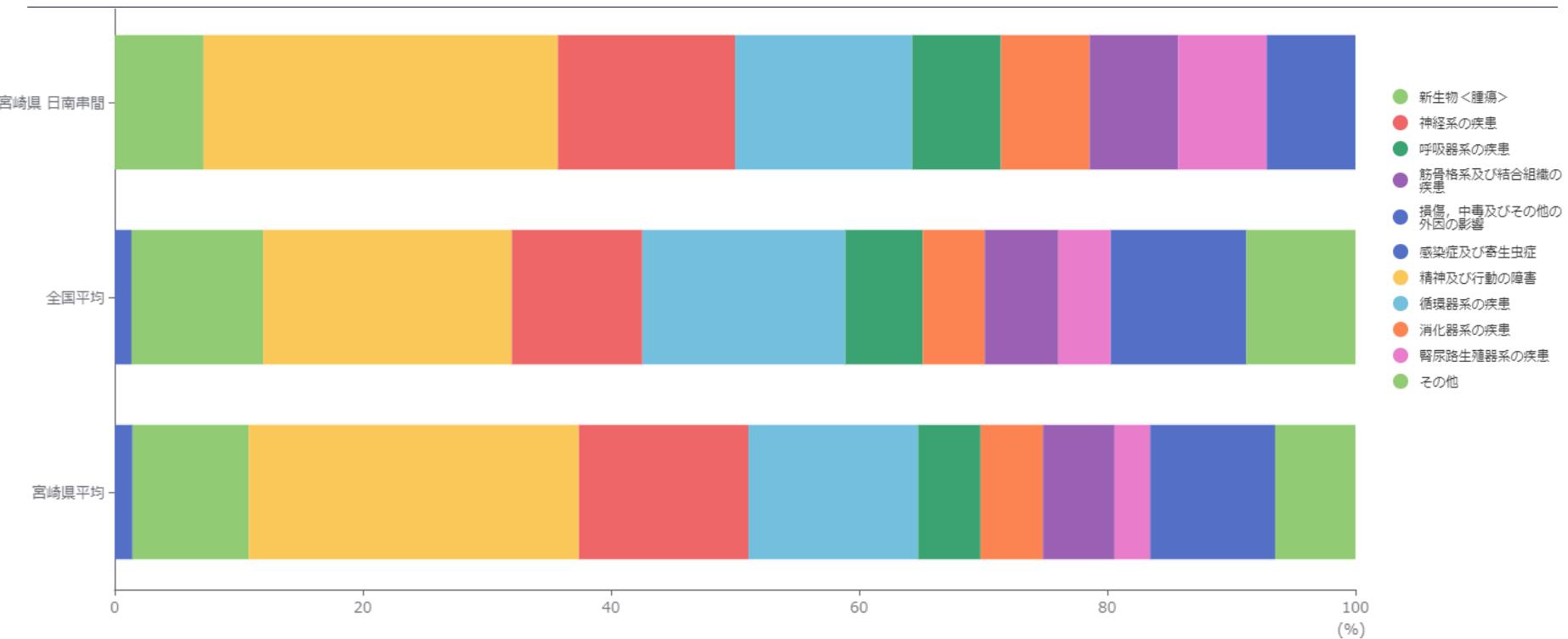


【出典】RESAS、株式会社ナビタイムジャパン「経路検索データ」

2.6 病院の推計入院患者数

- 二次医療圏である日南串間の推計入院患者数については、「精神及び行動の疾患」及び「神経系の疾患」によるものが最も多い傾向

病院の推計入院患者数の構成
(日南市、2020年)



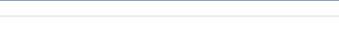
【出典】厚生労働省「医療施設静態調査」、「医師・歯科医師・薬剤師調査」（2016年まで）、「医師・歯科医師・薬剤師統計」（2018年から）、「衛生行政報告例」、「患者調査」

2.7 病院の総病床者数

- 日南、串間ともに精神疾患系の病院の病床数が多い傾向にあり、前ページの特徴の根拠となるものと思料

病院の総病床数

日南

施設種類	施設名称	所在地	総病床数	詳細
病院	医療法人 同仁会 谷口病院	日南市大字風田3861	310	
病院	宮崎県立日南病院	日南市木山1-9-5	281	
病院	社会福祉法人 愛泉会 愛泉会日南病院	日南市風田3649-2	184	
病院	医療法人 春光会 春光会記念病院	日南市大字星倉4600-1	107	
病院	日南市立中部病院	日南市大堂津5-10-1	88	
病院	医療法人 文誠会 なんごう病院	日南市南郷町中村乙2101	80	
病院	社会医療法人 慶明会 おひ中央病院	日南市蘇我6-2-28	72	

串間

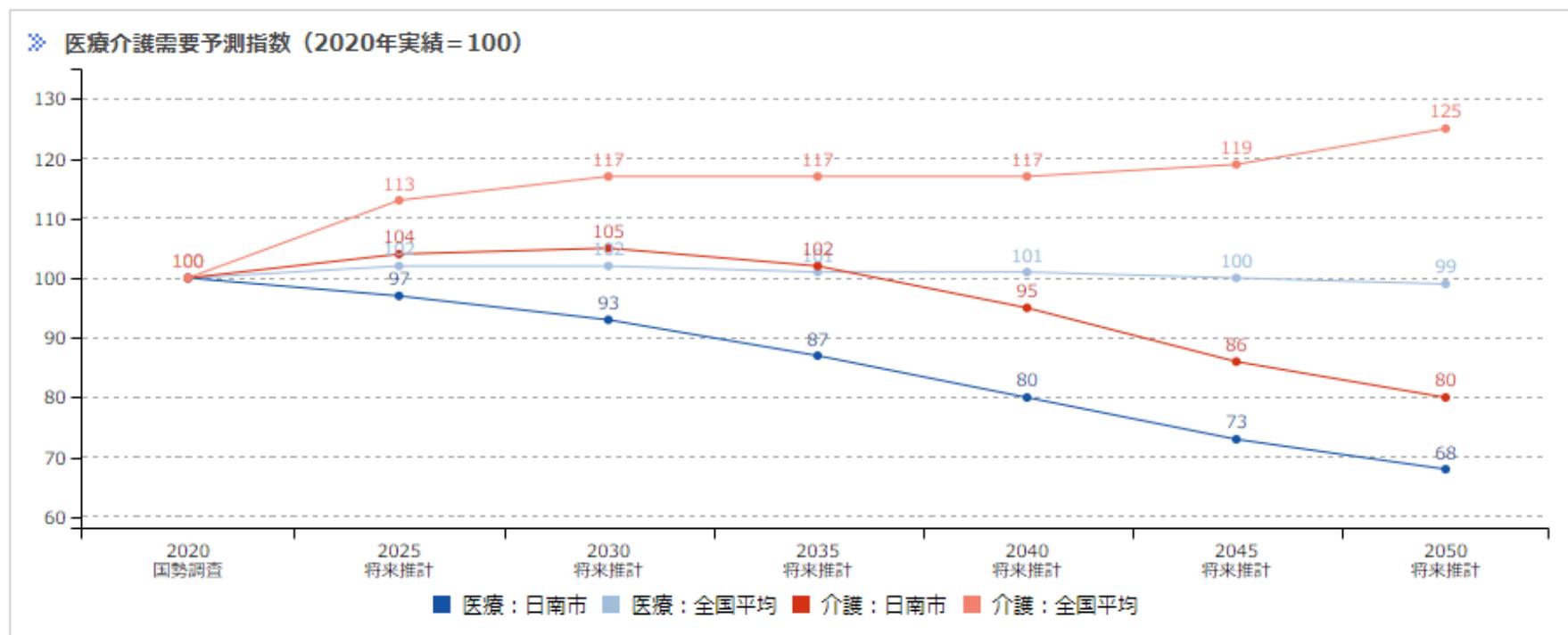
施設種類	施設名称	所在地	総病床数	詳細
病院	医療法人 十善会 県南病院	串間市大字西方3728	434	
病院	串間市民病院	串間市大字西方7917	99	

【出典】厚生労働省「医療施設静態調査」、「医師・歯科医師・薬剤師調査」（2016年まで）、「医師・歯科医師・薬剤師統計」（2018年から）、「衛生行政報告例」、「患者調査」

2.8 病院の推計入院患者数

- 日南市に医療・介護需要は将来的には減少する見込みであり、人口減少によるものと推察される

医療介護需要予測指数
(日南市、2020年)



【出典】厚生労働省「医療施設静態調査」、「医師・歯科医師・薬剤師調査」（2016年まで）、「医師・歯科医師・薬剤師統計」（2018年から）、「衛生行政報告例」、「患者調査」

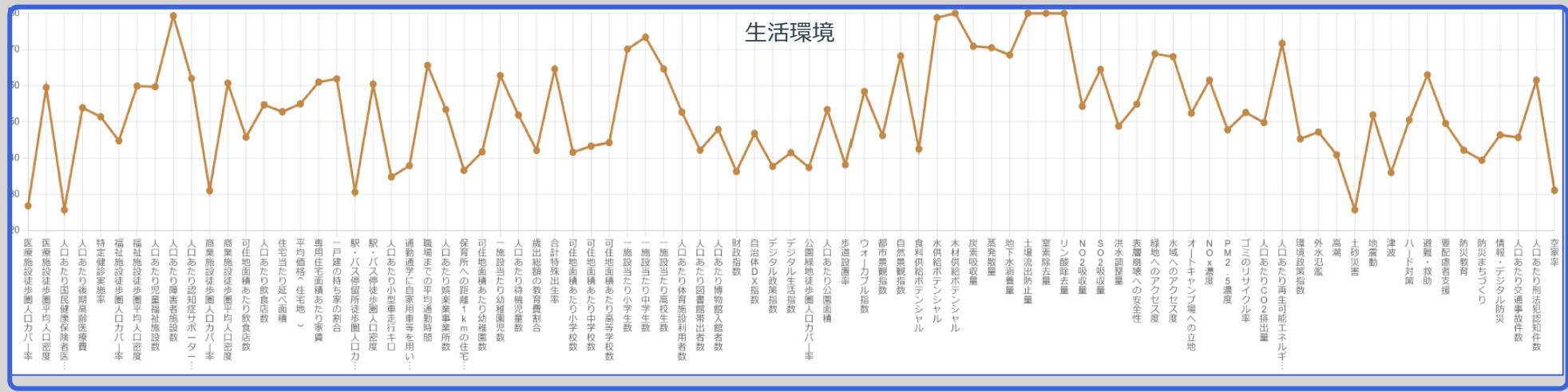
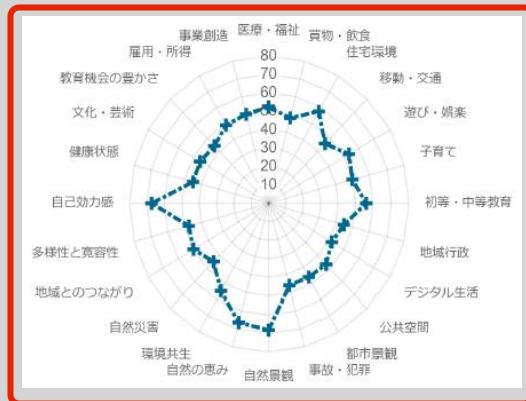
3. 地域幸福度指標でみる日南市の特性

3.1 地域幸福度指標（概觀）

地域幸福度指標のうち、客観的指標は「暮らしやすさ」に着目した指標であり、生活に関連する分野の特徴を俯瞰することができます。各指標は全国平均を50とした場合の偏差値として表現されています

日南市の地域幸福度指標（グラフ）

24の指標によるチャート



3.地域幸福度指標でみる日南市の特性

3.2 地域幸福度指標（データ一覧）

前ページのグラフでは、一目して指標の特徴（高低）が確認可能であるものの、正確な指標名や正確な数値についてはこちらの一覧で確認することが可能です

日南市の地域幸福度指標（データ一覧）

生活環境		地域の人間関係		自らの生き方	
客観KPI	偏差値	客観KPI	偏差値	客観KPI	偏差値
医療施設徒歩圏人口カバー率	26.8	合計特殊出生率	64.6	NO2吸収量	54.3
医療施設徒歩圏平均人口密度	59.5	可住地面積あたり小学校数	41.6	SO2吸収量	64.5
人口あたり国民健康保険者医療費	25.7	可住地面積あたり中学校数	43.3	洪水調整量	48.8
人口あたり後期高齢医療費	53.9	可住地面積あたり高等学校数	44.3	表層崩壊への安全性	54.9
特定健診実施率	51.4	一施設当たり小学生数	70.1	緑地へのアクセス度	68.8
福祉施設徒歩圏人口カバー率	44.8	一施設当たり中学生数	73.4	水域へのアクセス度	68
福祉施設徒歩圏平均人口密度	59.9	一施設当たり高校生数	64.6	オートキャンプ場への立地	52.4
人口あたり児童福祉施設数	59.7	人口あたり体育施設利用者数	52.7	NOx濃度	61.5
人口あたり障害者施設数	79.3	人口あたり図書館蔵帯出者数	42.2	PM2.5濃度	47.8
人口あたり認知症サポートメイト・サポートー数	62	人口あたり博物館入館者数	47.9	ゴミのリサイクル率	52.6
商業施設徒歩圏人口カバー率	31	財政指数	36.3	人口あたりCO2排出量	49.8
商業施設徒歩圏平均人口密度	60.7	自治体DX指數	46.8	人口あたり再生可能エネルギー発電容量	71.7
可住地面積あたり飲食店数	45.8	デジタル政策指數	37.7	環境政策指數	45.3
人口あたり飲食店数	54.7	デジタル生活指數	41.5	外水氾濫	47.2
住宅当たり延べ面積	52.8	公園緑地徒歩圏人口カバー率	37.4	高潮	40.9
平均価格（住宅地）	55	人口あたり公園面積	53.4	土砂災害	25.7
専用住宅面積あたり家賃	61	歩道設置率	38.2	地震動	51.9
一戸建の持ち家の割合	61.9	ウォーカブル指数	58.4	津波	36
駅・バス停留所徒歩圏人口カバー率	30.6	都市景観指數	46.2	ハード対策	50.5
駅・バス停徒歩圏人口密度	60.4	自然景観指數	68.2	避難・救助	63
人口あたり小型車走行キロ	34.8	食料供給ボテンシャル	42.5	要配慮者支援	49.6
通勤通学に自家用車等を用いない割合	37.9	水供給ボテンシャル	78.8	防災教育	42.2
職場までの平均通勤時間	65.6	木材供給ボテンシャル	80	防災まちづくり	39.4
人口あたり娯楽業事業所数	53.4	炭素吸収量	70.9	情報・デジタル防災	46.4
保育所への距離1kmの住宅割合	36.6	蒸発散量	70.5	人口あたり交通事故件数	45.7
可住地面積あたり幼稚園園数	41.7	地下水涵養量	68.5	人口あたり刑法犯認知件数	61.5
一施設当たり幼稚園園数	62.8	土壤流出防止量	80	空家率	31.1
人口あたり待機児童数	51.9	窒素除去量	80		
歳出総額の教育費割合	42.1	リン酸除去量	80		

3.3 RESASでみる日南市の特性と課題仮説（1/3）

RESAS

特徴

課題（仮説）

- 2050年時点での90歳以上の人口分布が極端に多い
- 2050年時点での45～49歳の生産年齢人口が激減している

- 医療費等の社会保障費の負担の増大による財源や医療介護人材の確保が困難になる可能性
- 医療・介護需要予測では双方ともに、需要減となるものの、生産年齢人口の減少により、介護現場の担い手不足も懸念される

人口
ピラミッド
×
医療需給

昼夜間
人口
×
医療需給

- 昼間は宮崎市より1000名、串間市より650名本市に通勤や通学で流入する一方、本市からは宮崎市へ970名、串間市へ600名程度が流出している
- 年齢階級別の昼夜間人口比では昼間に比し夜間人口が～100人程度多くなっている

- 出入数はそれぞれほぼ同数であることから、宮崎市、串間市とは就学と雇用の相互補完関係にあるといえ、今後も広域連携による機能分担を検討することが有用と思料
- 日南市は串間市民の医療需要や教育ニーズに応えており、当該関係人口をまちの回遊性向上に生かすことができるのではないか

3.3 RESASでみる日南市の特性と課題仮説（2/3）

RESAS

特徴

産業構造

- 産業別事業所数は、全国や宮崎県と同様の傾向
 - 卸売業・小売業 22.3% (415社)
 - 宿泊飲食サービス業 15.9% (296社)
 - 生活関連サービス業 11.1% (206社)
- 事業所単位での従業者数については医療・福祉の割合が最も高く、次いで製造業となっており、事業所数の傾向とは一致せず、全国や宮崎県とは異なる傾向
 - 医療・福祉 21.6% (3,233人)
 - 製造業 19.5% (2,901人)
 - 卸売業・小売業 13.9% (2,064人)
- 全国、宮崎県では食料品製造業が多い傾向にあるが、日南市では電子部品・デバイス・電子回路製造業の占める割合が最も高い
- また、パルプ・紙・紙加工品製造業の割合が宮崎県や全国より非常に高くなっている、本市の特有の傾向
 - 電子部品・デバイス・電子回路製造業 16.5%
 - 木材・木製品製造業（家具を除く） 15.0%
 - パルプ・紙・紙加工品製造業 8.1%

課題（仮説）

- 医療・福祉、製造業分野には比較的大きな規模の事業所があるものと思料（次ページにて別途捕捉事項あり）
- 特徴的である電子部品・デバイス・電子回路製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業にも比較的大きな規模の事業所があるものと思料
- 市内企業の多くは小売や医療・福祉、製造業であり、テレワーク導入が難しい企業が多いため、新たな業態の企業創出、誘致が必要なのではないか
- 誘致にあたっては都市圏等に所在する本社機能の移転やサテライトオフィス等の誘致も検討の余地があるのではないか
- 一方で、既存産業の幅出しについても検討の余地があるのではないか

3.3 RESASでみる日南市の特性と課題仮説（3/3）

RESAS

特徴

課題（仮説）

観光	<ul style="list-style-type: none"> 検索の上位が「鵜戸神宮」「サンメッセ日南」などの宮崎空港から近い場所となっている 観光名所である「飫肥城跡」や観光拠点への送客機能を担うはずの「道の駅なんごう」「港の駅めいつ」などは目的地検索件数上、大きな割合を占めていない
----	---

医療需給	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療資源としての病院は7施設あり、全国平均を大きく上回る <ul style="list-style-type: none"> 谷口病院（310床） 県立日南病院（281床） 愛泉会病院（184床） 市立中部病院（107床）
------	---

- 検索の上位が「鵜戸神宮」「サンメッセ日南」などの宮崎空港から近い場所となっている

- 観光名所である「飫肥城跡」や観光拠点への送客機能を担うはずの「道の駅なんごう」「港の駅めいつ」などは目的地検索件数上、大きな割合を占めていない

- 宮崎空港利用の観光客が飫肥城跡までたどり着かず、鵜戸神宮やサンメッセ日南で引き返しているのではないか

- 観光拠点や他の観光施設への送客機能を担っているはずの道の駅が本来の機能を果たしていない可能性

- 道の駅については、市民や近隣自治体からの買い物を目的とする来訪が多く、目的地設定がされていないものの一定の集客があるのでないか

- 地域医療資源としての病院は7施設あり、全国平均を大きく上回る
 - 谷口病院（310床）
 - 県立日南病院（281床）
 - 愛泉会病院（184床）
 - 市立中部病院（107床）

- 本市は医療資源が豊富なことから、昼夜間人口では確認できない人口流入があるのでないか

3.4 地域幸福度指標でみる特徴と課題仮説（1/7）

地域幸福度指標

特徴

課題（仮説）

医療・福祉	<ul style="list-style-type: none"> 医療施設への徒歩によるアクセスが難しい傾向 <ul style="list-style-type: none"> 医療施設徒歩圏人口カバー率 26.8 国民健康保険医療費が全国に比して高い傾向 <ul style="list-style-type: none"> 人口あたり国民健康保険者医療費 25.7 福祉サービスが充実している <ul style="list-style-type: none"> 人口あたり児童福祉施設数 59.7 人口あたり障害者施設数 79.3 人口あたり認知症サポートー数 62
-------	--

買い物 飲食	<ul style="list-style-type: none"> 買い物への徒歩によるアクセスが難しい傾向 <ul style="list-style-type: none"> 商業施設徒歩圏人口カバー率 31 単身高齢者割合 20.5
-----------	--

- 市内に医療施設数が少ない、もしくは点在している可能性があり、自身による移動手段を確保できない交通弱者は病院受診がしにくい状況にあるのではないか
- 65歳以上の国保加入者の医療費が高く、生活習慣病やその他疾患による健康寿命が短い可能性
- 多様な福祉ニーズに対応ができ、安心して暮らせる街というアピールができるのではないか

- 市内に商業施設が少ないもしくは点在している可能性があり、自身による移動手段を確保できない交通弱者は日常生活に必要なものの入手がしにくい状況にあるのではないか
- とりわけ単身高齢者については同居家族の不在により、生活に必要な物品等の入手が困難であり、支援が必要ではないか

3.4 地域幸福度指標でみる特徴と課題仮説（2/7）

地域幸福度指標

特徴

課題（仮説）

住環境	

- 住宅地の価格が全国に比して低く十分な広さの居住空間を確保できている傾向
 - 住宅当たり延べ面積 52.8
 - 平均価格（住宅地）55
 - 専用住宅面積あたり家賃 61
 - 一戸建ての持ち家の割合 61.9
- 空き家率が全国に比して高い傾向
 - 空き家率 31.1

- 一戸建ての持ち家や賃貸物件を希望する人にとって、比較的入手しやすい環境にあるのではないか
- 後述の豊かな自然環境と合わせて呼び込み、空き家対策と一体的に移住者への支援を強化することも一案ではないか

移動・交通	

- 公共交通ネットワークが少ない傾向
 - 駅・バス停留所徒歩圏人口カバー率 30.6
- 車・バイク等で通勤通学する傾向
 - 通勤通学に自家用車等を用いない割合 37.9

- 自身での交通手段を持たない人は、地域とのつながり等が持てず生活上の困りごとがあるのではないか
- コミュニティバスの路線や便数、時間帯などについて、住民の需要に応えられているかについて調査が必要か
- 交通資源の少なさにより、住民の移動は主に自家用車であるため、生活利便施設等には十分な駐車スペースが必要ではないか

3.4 地域幸福度指標でみる特徴と課題仮説（3/7）

地域幸福度指標

特徴

課題（仮説）

- 全国に比して娯楽施設が多い傾向
- 人口あたり娯楽事業所数 53.4

- 娯楽施設が多い傾向にあるものの公共交通ネットワークが少ない状況に鑑みると、来訪者の利便性・快適性向上を図る必要があるのではないか（短距離移動手段としてマイクロモビリティの導入や自転車道の整備など）

娯楽

- 待機児童数が少ない傾向
- 人口あたり待機児童数 51.9
- 合計特殊出生率は高い水準
- 合計特殊出生率 64.6

- 映画館、ボウリング場等の娯楽の選択肢がないあるいは少ないため、余暇活動は市外へ流出しているのではないか

- 子育てに関する満足は比較的高いのではないか
- 保育施設等の待機児童も少なく入所が容易である可能性

子育て

3.4 地域幸福度指標でみる特徴と課題仮説（4/7）

地域幸福度指標

特徴

課題（仮説）

初等教育・
中等教育

- 市内の小・中・高校は生徒数が少ない
 - 1施設当たり小学生数 70.1
 - 1施設当たり中学生数 73.4
 - 1施設当たり高校生数 64.6

- 小規模校のメリットとして、児童・生徒ひとりひとりに目が届きやすく、きめ細かな学習指導が得られやすいことなどが考えられ、こうしたメリットを生かせないか
- 小規模校のデメリットとして、生徒・学生は多様な考えに触れる機会や新たな学びの機会がないため、外部との交流を望んでいるのではないか

地域行政

- まちの財政指数は全国を下回っている
 - 財政指数 36.3

- 財政の立て直し（自主財源確保等）が必要なのではないか
- ふるさと納税による自主財源確保策の強化が必要なのではないか
- 高齢化率の高さにより将来の財政負担が懸念されるため、生産年齢人口の移住定住による安定した税収確保が必要ではないか

3.4 地域幸福度指標でみる特徴と課題仮説（5/7）

地域幸福度指標	特徴	課題（仮説）
デジタル	<ul style="list-style-type: none"> デジタルにおける指数が全体的に低い傾向 <ul style="list-style-type: none"> 自治体DX指数 46.8 デジタル政策指数 37.7 デジタル生活指数 41.5 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル政策を推進するための指針や体制整備が進んでいない可能性はないか デジタル交付金をはじめとする補助金等の活用や実証事業への参画が進んでいない可能性はないか 地域の高校（ITに関係する学科等）との連携による事業創出の可能性はないか
公共空間 景観	<ul style="list-style-type: none"> 徒歩による公園緑地までのアクセスが比較的難しい傾向 <ul style="list-style-type: none"> 公園緑地徒歩圏人口カバー率 37.4 本市道路に歩道が整備されていない区間がある傾向 <ul style="list-style-type: none"> 歩道設置率 38.2 綺麗な景色があり歩きたくなるような街である <ul style="list-style-type: none"> ウォーカブル指数 58.4 自然景観指数 68.2 	<ul style="list-style-type: none"> 公園が少ないもしくは点在している可能性 歩行者にとって安全・容易にアクセスできていない可能性があり、子育て世代や子供にとって公園の規模や数に不満を抱えていないか 公園・緑地は有効利用されているか 公園・緑地の環境整備がなされているか

3.4 地域幸福度指標でみる特徴と課題仮説（6/7）

地域幸福度指標

特徴

課題（仮説）

自然の
恵み

- 水、木に恵まれ豊かな自然環境を有している
 - 水供給ポテンシャル 78.8
 - 木材供給ポテンシャル 80
 - 緑地へのアクセス度 68.8
 - 水域へのアクセス度 68

- 恵まれた地域資源を観光振興にいかすためには、来訪者の快適性や移動手段を含めた満足度向上のための環境整備が必要なのではないか

自然共生

- 特定の汚染物質は少ない街である
 - NOx濃度 61.5
- 全国に比して環境負荷が高い傾向
 - PM2.5濃度 47.8
 - 人口あたりCO₂排出量 49.8
 - 環境政策指数 45.3
- 資源の循環ができる仕組みが整っている。
 - ゴミのリサイクル率 52.6
 - 人口あたり再生可能エネルギー発電容量 71.7

- 良好的な自然環境と資源循環の仕組みがあるものの、全国に比して一部汚染物質も見られ、エネルギー消費も多くなっている可能性もあるため、総合的な環境政策を推進することにより、工コな街としてもアピールの余地があるのではないか

3.4 地域幸福度指標でみる特徴と課題仮説 (7/7)

地域幸福度指標

特徴

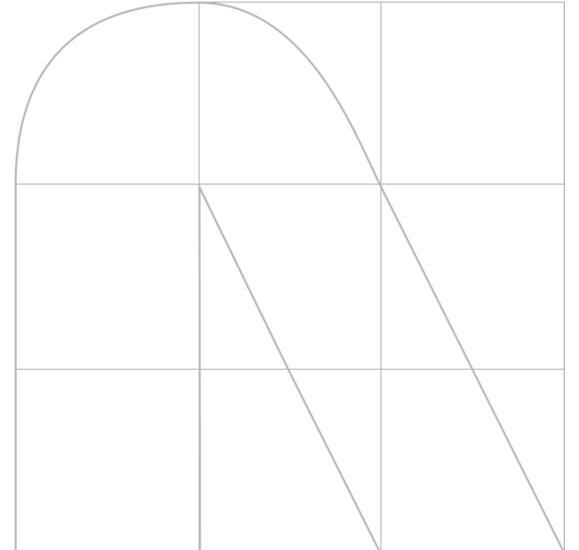
課題（仮説）

自然災害	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難・救助の体制が整っている <ul style="list-style-type: none"> - 避難・救助 63 ● ハード対策はされているものの防災への取組や災害の備えが不十分 <ul style="list-style-type: none"> - 地震動 51.9 - ハード対策 50.5 - 高潮 40.9 - 津波 36 - 土砂災害 25.7 - 防災教育 42.2 - 防災まちづくり 39.4 - 情報・デジタル防災 46.4
------	--

事故犯罪	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通事故が多い傾向 <ul style="list-style-type: none"> - 人口あたり交通事故件数 45.7 - 歩道設置率 38.2 ● 地域コミュニティが強固で犯罪が少ない傾向 <ul style="list-style-type: none"> - 人口あたり刑法犯認知件数 61.5 - 自治会・町内会加入率 63.1
------	---

地域特性の把握（定性分析）

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証



1. アンケート調査結果等による課題仮説検証 (1/14)

RESAS

人口
ピラミッド
×
医療需給

課題（仮説）

- 医療費等の社会保障費の負担の増大による財源や医療介護人材の確保が困難になる可能性
- 医療・介護需要予測では双方ともに、需要減となるものの、生産年齢人口の減少により、介護現場の担い手不足も懸念される

昼夜間
人口
×
医療需給
×
教育

検証

- 2022年の目的別決算額における民生費割合は30.91%であり、全国平均値29.12%をやや上回っている
- 介護需要は減となるものの、生産年齢人口の減による税収も減となる見込みであることから、住民の医療費等の抑制に資する健康のまちづくりが必要
 - 油津地区に散歩ルート設計し、距離や消費カロリーなどの表示をするなどの工夫も一案か

- 出入数はそれぞれほぼ同数であることから、宮崎市、串間市とは就学と雇用の相互補完関係にあるといえ、今後も広域連携による機能分担を検討することが有用と思料
- 日南市は串間市民の医療需要や教育ニーズに応えており、当該関係人口をまちの回遊性向上に生かすことができるのではないか
 - 例えば、公共交通機関で通学する学生は待ち時間過ごす場所に困ってはいないか

- (対象外施策のため割愛)
- 市外から公共交通により通学している学生に対し、交通要所である油津に待ち時間を過ごすためのペース設置のニーズ調査による検証が別途必要

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証 (2/14)

RESAS



産業構造

課題（仮説）

- 医療・福祉、製造業分野には比較的大きな規模の事業所があるものと想料（次ページにて別途捕捉事項あり）
- 特徴的である電子部品・デバイス・電子回路製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業にも比較的大きな規模の事業所があるものと想料
- 市内企業の多くは小売や医療・福祉、製造業であり、テレワーク導入が難しい企業が多いため、新たな業態の企業創出、誘致が必要なのではないか
- 誘致にあたっては都市圏等に所在する本社機能の移転やサテライトオフィス等の誘致も検討の余地があるのではないか
- 一方で、既存産業の幅出しについても検討の余地があるのではないか

検証

- (対象外施策のため割愛)

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証 (3/14)

RESAS

課題（仮説）

観光

- 宮崎空港利用の観光客が飫肥城跡までたどり着かず、鵜戸神宮やサンメッセ日南で引き返しているのではないか
- 観光拠点や他の観光施設への送客機能を担っているはずの道の駅が本来の機能を果たしていない可能性
- 道の駅については、市民や近隣自治体からの買い物を目的とする来訪が多く、目的地設定がされていないものの一定の集客があるのではないか

医療需給

- 本市は医療資源が豊富なことから、昼夜間人口では確認できない通院による人口流入があるのではないか
 - 公共交通で通院する人は乗り継ぎや待ち時間を感じる場所がなく、困っているのではないか

検証

- 「鵜戸神宮」からの行先をみると、青島やサンメッセ日南、宮崎市などを目指す観光客が多く、内陸まで来ない傾向にある
(2023年度日南市来訪者アンケート)
- 「道の駅酒谷」からの行先をみると、飫肥や日南市内という回答がある一方、串間市という回答もあり、十分に送客機能を果たしてるとは言い切れない
(2023年度日南市来訪者アンケート)
 - 道の駅を観光拠点としているが、当該施設内に目立つようなものではなく、市内観光施設のアピールをできていない（現地調査）
 - なんごう道の駅や港の駅めいつの観光マップでは、複数のスポットが挙げられているため、観光客は迷いやすい。次の目的地への誘導・送客を意識した案内が必要（現地調査）
- 道の駅の来訪者の大半は、県内からであり、小旅行や日常生活（買い物や外食）の一部として使用されている可能性
(2023年度日南市来訪者アンケート)

- (ヒアリングにて確認)

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証 (4/14) ①

地域幸福度指標

課題（仮説）

- 市内に医療施設数が少ない、もしくは点在している可能性があり、自身による移動手段を確保できない交通弱者は病院受診がしにくい状況にあるのではないか
- 65歳以上の国保加入者の医療費が高く、生活習慣病やその他疾患による健康寿命が短い可能性
- 多様な福祉ニーズに対応ができ、安心して暮らせる街というアピールができるのではないか

医療・福祉

検証

- (対象外施策のため割愛)

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証 (4/14) ②

地域幸福度指標

課題（仮説）

買い物
飲食

- 市内に商業施設が少ないもしくは点在している可能性があり、自身による移動手段を確保できない交通弱者は日常生活に必要なものの入手がしにくい状況にあるのではないか
- とりわけ単身高齢者については同居家族の不在により、生活に必要な物品等の入手が困難であり、支援が必要ではないか

検証

- 油津地区に対するアンケートで、保護者は35%、中学生は36%が「買い物できる場所の充実のため整備してほしい」と最多で回答しており、商業施設の少なさが窺える。また、中学生から困りごととして「自転車や徒歩で行くのに時間がかかる」との回答が多いため、買い物機能と合わせてアクセスの改善についても検討が必要(日南市の油津地区に関する中学生アンケート、保護者向けアンケート問6,7)
 - 各観光地間（赤レンガ館や堀川運河等周辺）の徒歩周遊中に休憩スペースや気軽に立ち寄れるカフェや飲食スペースなどの飲食店が少ない印象（現地調査）
 - 油津地区においては、油津別館から付近のスーパー・マーケットや飲食店（距離はおよそ500mから1km圏）まで徒歩移動している外国人観光客等が見られ、各地の周遊に時間がかかる。したがって、拠点間の移動の足となる機能の検討が必要（現地調査）
- 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービスとして「外出同行（通院・買い物など）」が全体の22.3%を占め、支援が必要な状況が確認できる([在宅介護実態調査](#)、問5)

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証（5/14）①

地域幸福度指標

課題（仮説）

- 一戸建ての持ち家や賃貸物件を希望する人にとって、比較的入手しやすい環境にあるのではないか
- 後述の豊かな自然環境と合わせて呼び込み、空き家対策と一体的に移住者への支援を強化することも一案ではないか

住環境

検証

- (対象外施策のため割愛)

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証（5/14）②

地域幸福度指標

課題（仮説）

移動・交通

- 自身での交通手段を持たない人は、地域とのつながり等が持てず生活上の困りごとがあるのではないか
- コミュニティバスの路線や便数、時間帯などについて、住民の需要に応えられているかについて調査が必要か
- 交通資源の少なさにより、住民の移動は主に自家用車であるため、生活利便施設等には十分な駐車スペースが必要ではないか

検証

- 「生きがいあり」と答える人が56.8%と最多回答にある一方、グループ等の参加頻度について「どのコミュニティ活動にも参加していない」と答える人が最も多いため、つながりが希薄になっている状況が窺える。また、交通手段を持たない人とクロスで確認する必要([日常生活圏域ニーズ調査](#)、問7,9)
- 油津地区に対するアンケートでは「自転車や徒歩で行くのに時間がかかる」との回答が多い。（中学生アンケート、問7）また、高齢者の移動手段として、電車（2%）、路線バス（5.1%）の利用割合は徒歩よりも低く、交通機関のニーズにマッチしていない可能性がある([日常生活圏域ニーズ調査](#)、問6)
- 日常生活圏域ニーズ調査及び油津地区に対するアンケートいずれも自動車での移動割合が最多であることが分かり、特に子どもをもつ世帯においては、油津地区に駐車場が少ないという困りごとを抱えていることが確認できる([日常生活圏域ニーズ調査](#)、問6,保護者向けアンケート、問6)
 - 駐車場への誘導案内が少ない（油津漁港周辺や商店街周辺）ため、自動車での来訪者に認知されていない可能性がある。特に、ふれあいタウンIttenほりかわの立体駐車場において一般利用があまり進んでいない様子が見られる（現地調査、商工会ヒアリング）

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証（6/14）①

地域幸福度指標

課題（仮説）

娯楽

- 娯楽施設が多い傾向にあるものの公共交通ネットワークが少ない状況に鑑みると、来訪者の利便性・快適性向上を図る必要があるのではないか（短距離移動手段としてマイクロモビリティの導入や自転車道の整備など）
- 映画館、ボウリング場等の娯楽の選択肢がないあるいは少ないため、余暇活動は市外へ流出しているのではないか

検証

- 油津地区に対するアンケートでは、中学生の困りごととして「自転車徒步で行くのに時間がかかる」と答える人の割合が21%と全体の中でも高い割合を占めており、誘客促進のためには交通アクセス性の改善が必要。保護者は、「子どもを遊ばせる場所がない」、「自分が楽しめる場所がない」と答える人が合計で48%を占めている。統計上は娯楽施設は多くあるものの住民ニーズを満たす娯楽施設が見られないため、ワークショップ等でどのような娯楽施設が必要か確認が必要（保護者向けアンケート、問6、中学生アンケート、問6）
 - 油津地区内で移動する際も、商業施設や駐車場が点在しているため、（立体）駐車場から建物、建物間等の短距離移動についても時間がかかる（現地調査）
- 中学生アンケートでは、油津地区にアミューズメントの充実を整備してほしいとの回答が最多であり、娯楽の選択肢が少ない、もしくは訪問の動機付けが必要な状況。具体的にニーズのある施設はワークショップ等で確認が必要（中学生アンケート、問7）
 - 日南市内にはボウリング場は1軒、カラオケボックスは複数施設あるものの点在しており、かつ商店街内にも無人カフェの他に若者が楽しめるような場所は少なく、娯楽選択肢は少ない印象。例えば、スポーツができるような広場や雨天時には屋内で遊べるような機能が少ない（現地調査）

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証 (6/14) ②

地域幸福度指標

課題（仮説）

- 子育てに関する満足は比較的高いのではないか
 - 保育施設等の待機児童も少なく入所が容易である可能性
 - 周産期医療や小児科などの医療施設があり、医療資源は一定程度充足との印象。安全・安心が担保されている可能性
 - 高校も複数設置され、進学先が充実している可能性
 - 一方、余暇活動にかかる施設は充足していない可能性

子育て

検証

- (対象外施策のため割愛)

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証 (7/14)

地域幸福度指標

課題（仮説）

初等教育・
中等教育

- 小規模校のメリットとして、児童・生徒ひとりひとりに目が届きやすく、きめ細かな学習指導が得られやすいことなどが考えられ、こうしたメリットを生かせないか
- 小規模校のデメリットとして、生徒・学生は多様な考えに触れる機会や新たな学びの機会がないため、外部との交流を望んでいるのではないか

地域行政

- 財政の立て直し（自主財源確保等）が必要なのではないか
- ふるさと納税による自主財源確保策の強化が必要なのではないか
- 高齢化率の高さにより将来の財政負担が懸念されるため、生産年齢人口の移住定住による安定した税収確保が必要ではないか

検証

- 別途、検証が必要ではあるが、小規模校の利点を生かし、油津の歴史学習コンテンツや体験型学習メニューの造成・提供ができないか（学習×油津活性化のコラボ施策の実施）
 - 歴史的建造物（赤レンガ館）や文化遺産の展示（油津別館の資料・模型等）への誘導・導線が少ない（現地調査）
 - 教育コンテンツとして歴史文化遺産（チョロ船製造工場における保存等）が十分に活用されていない（まちあるきイベント）
- アンケート結果では直接的ニーズは確認できないが以下のようない参考意見あり
 - 「油津地区に期待する機能」に「子どもの学びの場」を求める意見が135件、中学生向けアンケートでも学習塾や自習室などを求める声が一定数見られた（保護者向けアンケート問7、中学生向けアンケート問7）

- (対象外施策のため割愛)

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証 (8/14)

地域幸福度指標

課題（仮説）

検証

- デジタル
- デジタル政策を推進するための指針や体制整備が進んでいない可能性はないか
 - デジタル交付金をはじめとする補助金等の活用や実証事業への参画が進んでいない可能性はないか
 - 地域の高校（ITに関する学科等）との連携による事業創出の可能性はないか

- (対象外施策のため割愛)

- 公共空間
景観
- 公園が少ないもしくは点在している可能性
 - 歩行者にとって安全・容易にアクセスできていない可能性があり、子育て世代や子供にとって公園の規模や数に不満を抱えていないか
 - 公園・緑地は有効利用及び環境整備はされているか

- 油津地区に対するアンケートより、自由意見では6件「公園が欲しい」との意見があり、「油津地区来訪への困りごと」との設問では26%が「子どもを遊ばせる場所がない」と回答した（保護者向けアンケート問6）
- 油津地区に対するアンケートより、飫肥・酒谷校区、東郷校区、樋原校区在住の方の25%以上が、移動時間について「自転車や徒歩で行くのに時間がかかる」と回答（中学生向けアンケート問6）
- 幅広い年齢層の子どもたち向けの公園を求める声が見られ、更なる有効活用及び環境整備や、増設が求められる（保護者向けアンケート自由意見）

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証 (9/14)

地域幸福度指標

課題（仮説）

検証

- 恵まれた地域資源を観光振興にいかすためには、来訪者の快適性や移動手段を含めた満足度向上のための環境整備が必要なのではないか

- (対象外施策のため割愛)

自然の
恵み

- 良好的な自然環境と資源循環の仕組みがあるものの、全国に比して一部汚染物質も見られ、エネルギー消費も多くなっている可能性もあるため、総合的な環境政策を推進することにより、エコな街としてもアピールの余地があるのではないか

- (対象外施策のため割愛)

自然共生

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証 (10/14)

地域幸福度指標

課題 (仮説)

検証

- 街としての防災への意識や防災情報等ソフト面の対策は行き届いていないのではないか。
- 災害のリスクが全国に比して高いため、移住者や観光客にとって安心して過ごせる環境なこと、街の防災意識をアピールすれば魅力向上につながるのではないか

自然災害

- 油津地区に対するアンケートの自由意見では、少數ながらも油津地区の津波リスクへの言及あり。「津波リスクを考えると、よりリスクの低い飲食店へ当該機能を移転しては」との意見もあり、油津の津波対策は必要（保護者向けアンケート自由記述）
 - 油津地区周辺を見渡すと、津波からの避難に使用できる建物が商店街内ではなくサピアしか見当たらない（現地調査）
 - 日南市において、自然災害時の住民や観光客の避難誘導、計画検討が必要（原課ヒアリング）

- 公共交通の利便性、ドライバー教育、歩行者や自転車への安全対策（横断歩道・歩道整備）が不足していないか
- 単身高齢者割合が高く、今後も高齢化していく中で見守りが各地区で有効に機能しているか

事故犯罪

- 中学生向けの調査では「自転車や歩行で行くのに時間がかかる」との意見が21%、保護者向けの調査では「駐車場がない、少ない」が15%と多く見られ、また自由意見として歩行者通路が狭い、といった意見もあり、交通手段の整備・改善が求められている（中学生向けアンケート問6,自由意見）
- （対象外施策のため割愛）

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証 (11/14)

地域幸福度指標

課題 (仮説)

雇用・所得

- 市民の正規雇用率の高さ及び完全失業率の低さに鑑みると、子育て介護などの時間的制約のある人(若者層)など自身のライフスタイルに合わせた柔軟な働き方が可能な事業所が少ないのでないのではないか
- 高齢者の有業率の低さも、上記のような実態に起因しているのではないか
- 納税者あたり課税対象所得の低さから、市内には高所得を求める賃金水準の事業所が少ないのでないのではないか
- 新規事業の創業を考えている人は存在するものの、創業を希望する人への支援策が足りてない、あるいは支援策が周知されていない可能性はないか
- 産業構造が1次産業よりであるため、高齢者が働きづらくなっている可能性

検証

- (対象外施策のため割愛)

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証 (12/14)

地域幸福度指標

課題 (仮説)

検証

健康
×
緑地

- 健康寿命が短い点について、生活習慣病対策(食事、運動、社会参画)をまちづくりの視点に生かすことができないか
- 公園等へのアクセスが良くないことも相まって、運動機会が多くない可能性はないか
 - 行政を中心とした健康保健指導が行き届いていない可能性。高齢単身者も極めて多いため、地域包括ケアシステムや訪問介護等のサポートが重要か

- 「グループ等に参加する頻度」をみると、すべての活動において「参加していない」という回答が最も多く、なっている。油津地区にコミュニティ活性化をかなえるソフトとハード施策の検討も一案([日常生活圏域ニーズ調査](#)問9)
- 「外出する際の移動手段」の回答は、自動車(自分で運転)が突出しており、徒歩が2番目となっている。そのため、自動車を運転できない高齢者は、距離の遠い公園等にアクセスすることは難しいと思料([日常生活圏域ニーズ調査](#)問6)
 - [堀川橋～堀川夢ひろば周辺にウォーキング・ランニングコース等を設けることで、地域の方の交流にもつながるのではないか](#) (現地調査)

事業創造

- 昼間の人口流入だけでなく、移住・定住による人口流入を叶える上では、テレワークを前提とした多様なライフスタイルに応じた柔軟な働き方が可能な業種の存在が不可欠であり、クリエイティブ産業の拡大・誘致が必要ではないか
- 業種の割合はわからないが、法人を設立する人はいるので、若者が就業を希望するような業種を増やすことができるのではないか

- 「生活環境行政サービスの満足度と重要度の関係性」をみると、「地元で働く雇用環境」「活気をもたらす企業や工場」の重要度は高い反面、満足度は低くなっている。具体的に何を必要としているかは別途調査が必要([日南市まちづくり推進のための意識調査](#)問3)
- インターネット上で法人設立が確認できるが、正しいデータについては、市役所に確認の上検討。油津に必要とされている機能をこうした法人が担える制度設計も一案([新規設立法人](#))

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証 (13/14)

地域幸福度指標

教育

課題 (仮説)

- 学歴のある若者があまり望まない職業が本市の中心産業となっているため、都心部への流出の原因となっているのではないか
- ベンチャー企業等の創業支援も若者繋留の一助となる可能性はないか
- 人口が減少するもで、学校経営が厳しく少ない可能性。その結果、子どもの選択肢が少なくなってしまったのではないか
- 学習機会が設けられていることを住民に周知しきれていないのでないのではないか

検証

- 「生活環境行政サービスの満足度と重要度の関係性」をみると、「地元で働く雇用環境」「活気をもたらす企業や工場」の重要度は高い反面、満足度は低くなっているため、若者が望む業種が本市にあれば、若者の流出減少が見込める([日南市まちづくり推進のための意識調査問3](#))
- 上記に同じ
- 学校基本調査によると、高校数は減少している(2009:5校⇒2024:3校)。現状、子どもが選択肢の少なさを感じているかは、別途調査(ヒアリング・アンケート等)が必要* 対象外施策
- 高齢者の生涯学習機会及び運動機会の状況をみると、「生涯学習の推進」については、高齢者クラブや生涯学習担当部局との連携により、市内9地区で高齢者教室を開催
「健康づくりの推進」については、健康増進法に基づく「健康にちなん21」計画と連動しながら、生活習慣病の重症化予防への理解を深めるため、普及啓発活動を推進。
周知状況は、別途調査が必要([高齢者福祉計画](#)問4(6)、(7))

1. アンケート調査結果等による課題仮説検証 (14/14)

地域幸福度指標

課題 (仮説)

検証

自治意識

- 長期間居住している住民が多いもとで街づくりへの関心も高く、また市政への関心も強く持っている。しかし、高齢化が進む現状を鑑みると、互助機能が働いているコミュニティが存続していく見通しは低いため、公共の仕組みを再検討する必要ではないか

- (対象外施策のため割愛)

地域の
つながり

- 定住者が多く、多世代同居等の割合も高いことから地域コミュニティ力が高いことが想定され、互助による支え合いの地域づくりなどが期待できるのではないか
- 人口減少・高齢化により地域コミュニティの活力が低下しており、特に高齢単身者への見守りなどの地域セーフティネット機能が必要なのではないか
- ひきこもりや高齢単身者等の生活弱者はそもそも困りごとの相談先や地域の支援者の存在を知らないのではないか
- プッシュ型通知、見守り、声掛けなどによる生活弱者対策を推進するべきではないか

- 「在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス」として、「見守り、声掛け」が23.4%と重要視されている。コミュニティ深化の機能を油津に具備することも一案か(在宅介護実態調査問5)
- 地域住民の有志によるグループ活動について、「参加意向あり」の割合は50.2%、「企画・運営(お世話役)」としての「参加意向あり」は31.1%であり、半数は住民有志の活動に意欲的であるが、運用側としての参加意欲は比較的低い(日常生活圏域ニーズ調査問10)
- 一例として、認知症に関する相談窓口を知っている方は32.7%と高くないことが判明(日常生活圏域ニーズ調査問13)* 対象外施策



Lighting the way
to a brighter society